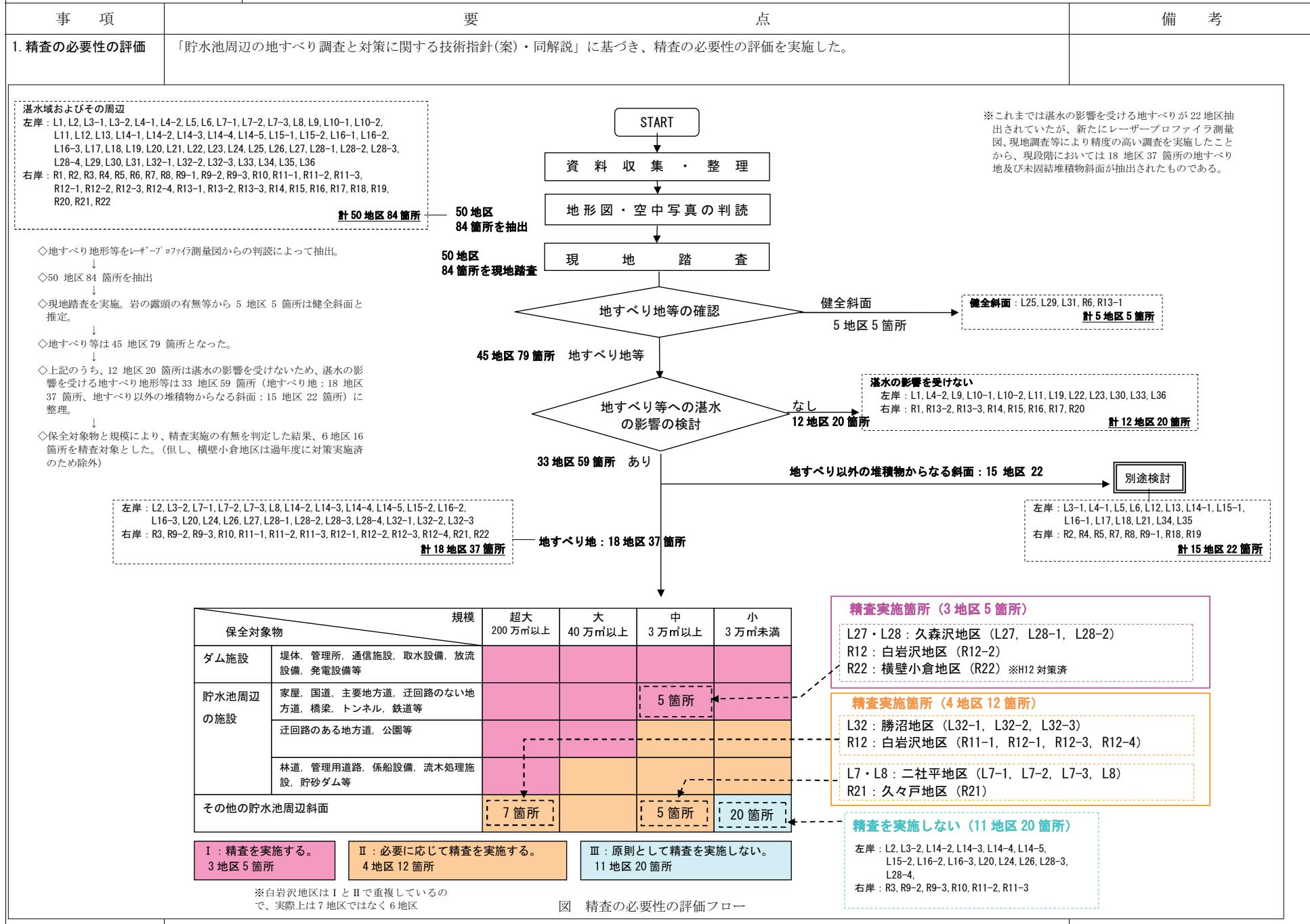
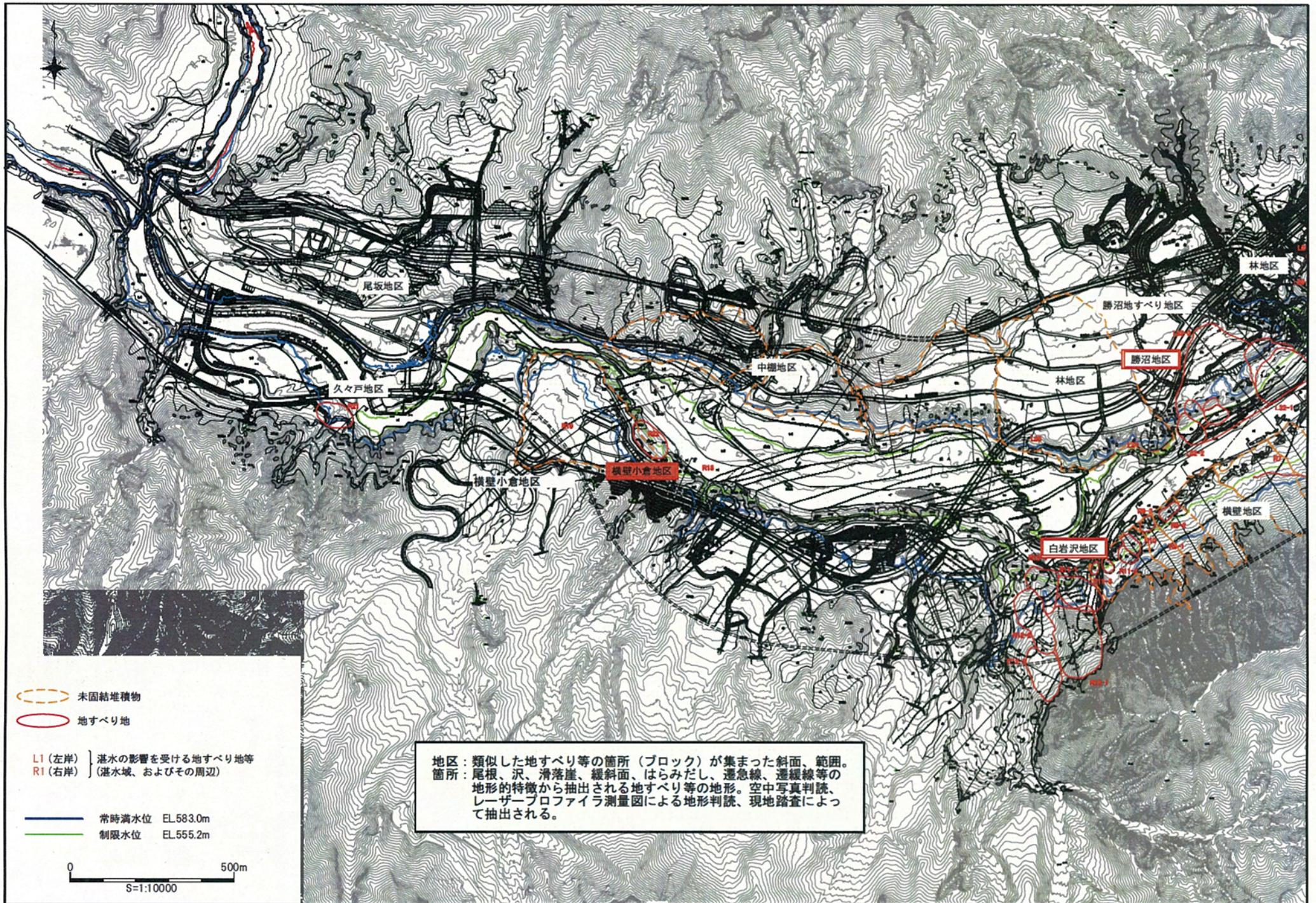


ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討 「地すべり等の対策工」

平成23年11月
関東地方整備局

八ヶ場ダム貯水池内地すべり







レーザープロファイル測量図・空中写真判読および現地踏査の結果、湛水の影響を受ける地すべり等は地すべり 37箇所、未固結堆積物斜面 22箇所抽出された。平面分布は図のとおりである。

表 レーザープロファイル測量図、空中写真判読および現地踏査の結果一覧（湛水域およびその周辺）

空中写真判読による地すべり地形等の抽出	地すべり地等	箇所数			
		湛水の影響を受ける	地すべり	37 箇所	59 箇所
		崖錐斜面、土石流扇状地斜面、応接岩屑流の堆積斜面	22 箇所	79 箇所	
	湛水の影響を受けない	20 箇所			
	その他（健全斜面）	5 箇所			

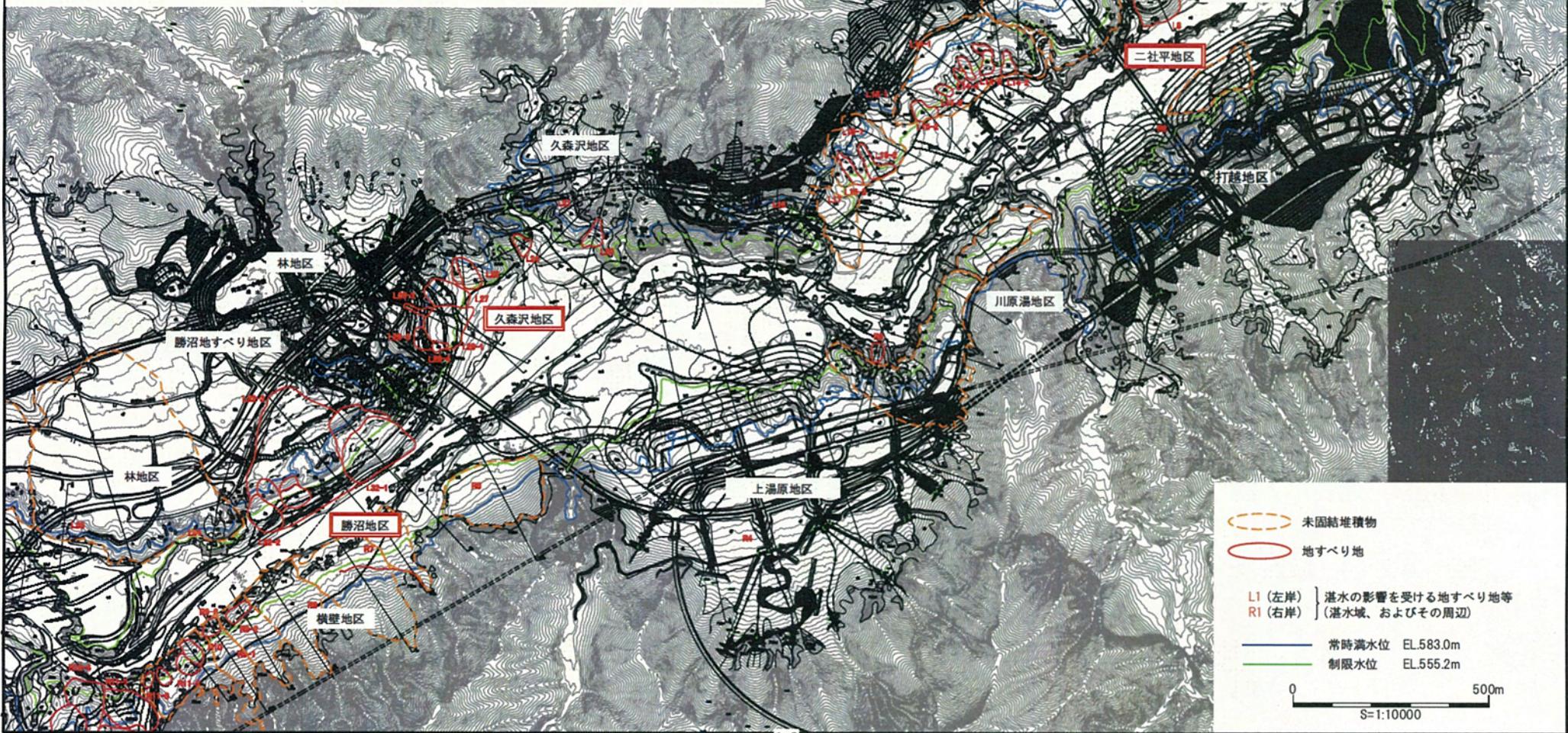


表 (1) 概査結果一覧表(湛水域、およびその周辺)

箇所番号(L:左岸)	L2	L3-2	L7-1	L7-2	L7-3	L8	L14-2	L14-3	L14-4	L14-5	L15-2	L16-2	L16-3	L20	L24	
地区名称(精査対象箇所)			L7:二社平下流地区			L8:二社平地区										
斜面の分類	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	
滑動履歴	なし	なし	なし	なし	なし	有	なし	有								
地すべり型分類	崩積土地すべり	崩積土地すべり	風化岩地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	岩盤地すべり	崩積土地すべり									
との 関 係	頭部標高(m)	535	560	610	570	570	560	560	570	568	562	570	570	595	560	
	末端標高(m)	520	520	555	535	540	490	532	538	543	545	540	542	549	530	
	水没の割合(%)	100	100	51	100	100	100	100	100	100	100	100	100	76	100	
	最大長さ L (m)	50	75	95	85	55	135	55	50	70	40	60	100	100	80	
規 模	最大幅 W (m)	40	50	60	25	35	110	40	25	20	20	50	40	25	40	
	最大厚さ D (m)	7	10	10	5	5	35	5	5	4	4	7	6	5	10	
	面積 A (m ²)	1,500	3,400	5,800	2,400	1,500	11,900	1,600	2,400	2,000	800	2,400	3,400	2,100	2,300	
	体積 V (m ³)	5,250	17,000	29,000	6,000	3,750	208,250	4,000	6,000	4,000	1,600	8,400	10,200	5,250	11,500	
規 模	小	小	小	小	小	中	小	小	小	小	小	小	小	小	小	
			中					小	小	小	小	小	小	小	小	
斜面勾配(°)	30	25	20	25	25	30	25	25	20	30	20	20	20	35	30	
保 全 対 象 物	区分		その他	その他	その他		その他									
	対象物(または影響)		なし	なし	なし		なし									
精査の必要性		I:精査を実施する II:必要に応じて精査を実施する。 III:原則として精査を実施しない。 外:検討対象外	III	III	II			II	III							
精査の実施の判断			実施しない	実施しない	実施する			実施する	実施しない							
備考			※精査を実施した結果、不搅乱の応桑層のコアが認められたことから、未固結堆積物斜面と推定された。													

湛水に伴う地すべり等の精査の必要性の目安

地すべり等の規模		超大	大	中	小
ダム施設	堤体、管理所、通信施設、取水施設、放流設備、発電設備等	I	I	I	I
貯水池周辺の施設	家屋、国道、主要地方道、迂回路のない地方道、橋梁、トンネル、鉄道等	I	I	I	I
	迂回路のある地方道、公園等	I	I	II	II
	林道、管理用道路、係船設備、流水処理施設、貯砂ダム等	I	II	II	II
その他の貯水池周辺斜面		II	II	II	III

I : 精査を実施する。
II : 必要に応じて精査を実施する。
III : 原則として精査を実施しない。

「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説」より引用し着色

地すべり等の規模の検討

地すべり等の規模	区分の目安
小	3万m ³ 未満
中	3万m ³ 以上 40万m ³ 未満
大	40万m ³ 以上 200万m ³ 未満
超大	200万m ³ 以上

「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説」より

表 (2) 概査結果一覧表(湛水域、およびその周辺)

箇所番号(L:左岸)	L26	L27	L28-1	L28-2	L28-3	L28-4	L32-1	L32-2	L32-3	
地区名称(精査対象箇所)		L27・28:久森沢地区				L32:湧沼地区				
斜面の分類	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	
滑動履歴	なし	なし	なし	なし	有	なし	有			
地すべり型分類	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	風化岩地すべり	風化岩地すべり	風化岩地すべり	
との 水 位	頭部標高(m)	590	593	580	613	595	575	600	600	
	末端標高(m)	550	554	547	574	573	555	520	525	
	水没の割合(%)	83	74	100	23	45	100	79	77	
規 模	最大長さ L (m)	100	110	110	60	40	50	190	100	
	最大幅 W (m)	50	75	100	20	50	25	180	140	
	最大厚さ D (m)	10	12	7	6	8	5	28	25	
	面積 A (m ²)	4,300	6,200	10,000	1,000	2,100	700	27,200	13,200	
	体積 V (m ³)	21,500	37,200	35,000	3,000	8,400	1,750	380,800	165,000	
	規模 <small>小規模:V<3万 中規模:3万≤V<40万 大規模:40万≤V<200万 超大規模:V≥200万</small>	小	中	中	小	小	小	中	中	
	斜面勾配(°)		20	20	15			超大 (約246万m ³)	大	
保 全 対 象 物	区分 <small>ダム・ダム施設にかかる斜面 貯水池・排水施設周辺の斜面 河川・その他の貯水池斜面</small>	その他	貯水池	貯水池	貯水池	その他	その他	その他		
	対象物(または影響)	なし	造成地 町道			なし	なし	なし		
精査の必要性		III	I			III	III	II		
I:精査を実施する II:必要に応じて精査を実施する。 III:原則として精査を実施しない。 外:検討対象外										
精査の実施の判断			実施しない	実施する		実施しない	実施しない	実施する		
備 考						久森沢地区精査では当箇所を含めて検討				

湛水に伴う地すべり等の精査の必要性の目安

地すべり等の規模		超大	大	中	小
保全対象	ダム施設	I	I	I	I
	堤体、管理所、通信施設、取水施設、放流設備、発電設備等	I	I	I	I
	家屋、国道、主要地方道、迂回路のない地方道、橋梁、トンネル、鉄道等	I	I	I	I
貯水池周辺の施設	迂回路のある地方道、公園等	I	I	II	II
	林道、管理用道路、係船設備、流水処理施設、貯砂ダム等	I	II	II	II
その他の貯水池周辺斜面		II	II	II	III

I : 精査を実施する。
II : 必要に応じて精査を実施する。
III : 原則として精査を実施しない。

「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説」より引用し着色

地すべり等の規模の検討

地すべり等の規模	区分の目安
小	3万m ³ 未満
中	3万m ³ 以上 40万m ³ 未満
大	40万m ³ 以上 200万m ³ 未満
超大	200万m ³ 以上

「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説」より

表 (3) 概査結果一覧表(湛水域、およびその周辺)

箇所番号(R:右岸)	R3	R9-2	R9-3	R10	R11-2	R11-3	R11-1	R12-1	R12-2	R12-3	R12-4	R21	R22	
地区名称(精査対象箇所)												R21:久々戸地区	R22:横壁小倉地区	
斜面の分類	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	地すべり地	
滑動履歴	なし	有	有	有	有	有	なし	なし	なし	有	なし	有	有	
地すべり型分類	風化岩地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	崩積土地すべり	風化岩地すべり	風化岩地すべり	風化岩地すべり	
と の 貯 水 関 係	頭部標高(m) 末端標高(m) 水没の割合(%)	540 500 100	542 533 100	550 523 100	560 525 100	560 535 100	565 538 100	590 545 84	720 530 29	670 616 水没なし	610 557 49	593 545 80	595 555 70	585 540 90
規 模	最大長さ L (m) 最大幅 W (m) 最大厚さ D (m) 面積 A (m ²) 体積 V (m ³) 規模 斜面勾配(°)	50 40 8 1,400 5,600 小 40	30 75 10 2,100 10,500 小 20	50 60 10 1,600 8,000 小 25	65 40 8 4,200 16,800 小 30	40 30 5 700 3,000 小 35	35 25 5 12,000 1,750 小 30	140 90 20 83,000 120,000 中 30	380 220 45 12,000 1,867,500 大 25	180 80 12 15,000 72,000 中 15	180 90 20 8,900 150,000 中 20	120 100 20 10,000 89,000 中 20	100 100 15 40,000 100,000 中 25	80 100 15 40,000 300,000 中 25
保 全 対 象 物	区分 対象物または影響)	その他 なし	その他 なし	その他 なし	その他 なし	その他 なし	その他 なし	その他 なし	貯水池 付替JR (川原湯トンネル)	その他 なし	その他 なし	貯水池 代替地		
	精査の必要性 I:精査を実施する。 II:必要に応じて精査を実施する。 III:原則として精査を実施しない。 外:検討対象外	III	III	III	III	III	III	II	I	II	II	II	I	
精査の実施の判断	実施しない	実施しない	実施しない	実施しない	実施しない	実施しない	実施しない		実施する		実施する	実施する		
備 考									精査ではR11-1は、R12-5に改称		精査ではR21-1とR21-2に区分されたが、R21-2は規模が小さいため精査を実施しないこととした。	対策工実施済		

湛水に伴う地すべり等の精査の必要性の目安

保全対象	地すべり等の規模	目安			
		超大	大	中	小
ダム施設	堤体、管理施設、通信施設、取水施設、放流設備、発電設備等	I	I	I	I
貯水池周辺の施設	家屋、国道、主要地方道、迂回路のない地方道、橋梁、トンネル、鉄道等	I	I	I	I
	迂回路のある地方道、公園等	I	I	II	II
	林道、管理用道路、係船設備、流水処理施設、貯砂ダム等	I	II	II	II
その他の貯水池周辺斜面		II	II	II	III

I : 精査を実施する。
II : 必要に応じて精査を実施する。
III : 原則として精査を実施しない。

「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説」より引用し着色

地すべり等の規模の検討

地すべり等の規模	区分の目安
小	3万m ³ 未満
中	3万m ³ 以上 40万m ³ 未満
大	40万m ³ 以上 200万m ³ 未満
超大	200万m ³ 以上

「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説」より

ハッ場ダム貯水池内地すべり

事 項	要 点	備 考
-----	-----	-----

2. 安定解析

(1)概 要

精査対象の5地区（二社平、勝沼、白岩沢、久森沢、久々戸）について、基本事項、安定解析の条件を以下に示す。

表 基本事項・安定解析の条件一覧表

地区名	ブロック名	安定解析測線	すべり面	図中の色	保全対象区分 (重要度)	保全対象施設	初期安全率	計画安全率	地下水位	主な移動土塊	土の単位体積重量(kN/m ³)	粘着力C(kN/m ²)	内部摩擦角φ(°)	間隙水圧の残留率(%)	水位操作
二社平	L8	5	L8	赤	その他	-	1.00	1.05	なし	Yvb	25	25	18.8	河床 ↓ N.W.L 583.0m ↓ R.W.L 555.2m	
	緩み領域	5	-	紫	その他	-	1.05	1.05				25	25.2		
勝沼	L32-1	1	L32-1②	赤	その他	-	1.05	1.05	なし	HA・ok	21	25	16.8		
	L32-2	6	L32-2	赤	その他	-	1.00	1.05				25	24.7		
	L32-3	3	L32-3①	紫	その他	-	1.05	1.05		ok	19	25	10.4		
			L32-3②	緑								25	9.4		
白岩沢	R12-1	3	R12-1①	紫	その他	-	0.95	1.05	観測水位	HA	22	25	21.2	50	
			R12-1②	橙	その他	-	0.95	1.05				25	22.8		
			R12-1③	緑	その他	-	0.95	1.05				25	21.4		
	R12-2	8	R12-2	青	貯水池(大)	付替JR(川原湯トンネル・橋梁)	0.95	1.20				25	17.2		
久森沢	L27	1	L27	赤	貯水池(大)	代替地	1.05	1.20	なし	HA	22	20	13.7		
	L28	3	L28	赤	貯水池(大)	代替地	1.05	1.20				20	15.3		
	L27/L28複合	2	L27・L28	赤	貯水池(大)	代替地	1.05	1.20				20	18.1		
	久々戸	R21-1	4	R21-1	赤	その他	-	1.05	1.05	なし	HA	22	25	12.4	

*白岩沢では、機構解析の結果、測線の向きと移動方向を合わせる必要があったため、R12-1は12測線を3測線に、R12-2を9測線から8測線とした。

*その他：他の貯水池斜面
貯水池：貯水池周辺の施設

*なし：水位観測未実施もしくは未実施相当

*室内試験、現場密度試験の試験結果

(2)初期安全率

「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針（案）・同解説」に準拠し、既往の観測データ、現地の状況等から設定した。

表 初期安全率の設定根拠表

地区名	ブロック名	安定解析測線	すべり面	図中の色	初期安全率	孔内傾斜計の有無	変動ランク	初期安全率の決定根拠		
二社平	L8	5	L8	赤	1.00	有	変動C以下	孔内傾斜計の観測結果		
	緩み領域	5	-	紫	1.05	無	-	現地の状況から、現状では変動していることは確認できない		
勝沼	L32-1	1	L32-1②	赤	1.05	有	変動無し	孔内傾斜計の観測結果		
	L32-2	6	L32-2	赤	1.00	有	変動C以下	孔内傾斜計の観測結果		
白岩沢	L32-3	3	L32-3①	紫	1.05	有	変動無し	孔内傾斜計の観測結果		
			L32-3②	緑						
		R12-1	3	R12-1①	紫	0.95	変動A	孔内傾斜計の観測結果		
		R12-1②	橙	0.95	0.95					
		R12-1③	緑	0.95						
	R12-2	8	R12-2	青	0.95	有	変動A	孔内傾斜計の観測結果		
久森沢	L27	1	L27	赤	1.05	有	変動無し	孔内傾斜計の観測結果		
	L28	3	L28	赤	1.05	有	変動無し	孔内傾斜計の観測結果		
	L27/L28複合	2	L27・L28	赤	1.05	無	-	L27、L28に準拠		
久々戸	R21-1	4	R21-1	赤	1.05	無	-	現地の状況から、現状では変動していることは確認できない		

*白岩沢では、機構解析の結果、測線の向きと移動方向を合わせる必要があったため、R12-1は12測線を3測線に、R12-2を9測線から8測線とした。

表 変動状況の区分と安全率の目安

地すべり等の変状	計測調査による変動種別*	湛水前の安全率の目安
1)現在変動中、主亀裂・末端亀裂発生	変動A：活発に変動中	Fs ₀ =0.95
	変動B：緩慢に変動中	Fs ₀ =0.98
2)地表における変動の微候(亀裂の発生等)は認められない	変動C：変動量は非常に小さい(変動C未満)が、累積性が認められ地すべりによる変動の可能性が高い。	Fs ₀ =1.00
	変動D：認められない	Fs ₀ =1.05

表 地盤伸縮による変動種別の判定

変動種別	日変位量(mm/日)	月変位量(mm/月)	一定方向(引張り又は圧縮方向)への変位の累積傾向
変動A	1より大	10より大	顕著
変動B	1.0以下 0.1以上	10以下 2以上	やや顕著
変動C	0.1未満 0.02以上	2.0未満 0.5以上	ややあり
変動D	0.1以上	なし (断続変動)	なし

(出典：「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説」)

八ヶ場ダム貯水池内地すべり

事 項	要 点	備 考
-----	-----	-----

(3)計画安全率

「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針（案）・同解説」に準拠し、現地の保全対象から設定した。

表 対策工の計画安全率と保全対象の重要度一覧

保全対象		計画安全率				備 考
種類と具体例	重要度	1.05	1.10	1.15	1.20	
ダム施設	堤体、管理所、通信施設、取水設備、放流設備、発電設備等	大			■	ダム機能が著しく低下するとともに、社会的に極めて大きな影響を生じるもの。
貯水池周辺の施設	家屋、国道、主要地方道、迂回路のない地方道、橋梁、トンネル、鉄道等	大		■	■	社会的な影響が大きいもの又は復旧に時間を要するもの。 重要度の区分に当たってはダム個別の事情を十分考慮する。
	迂回路のある地方道、公園等	中	■	■	■	
	林道、管理用道路、係船設備、流木処理施設、貯砂ダム等	小	■	■	■	
その他の貯水池周辺斜面		■	■	■	■	上記以外で貯水池周辺の山林保全上又は景観保全上重要な斜面。

(出典：貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針（案）・同解説)

表 対策工の計画安全率設定結果一覧表

貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針（案）・同解説	ダム施設		貯水池周辺の施設					その他の貯水池周辺斜面	備考			
	堤体、管理所、通信施設、取水施設、放流施設、発電施設等		家屋、国道、主要地方道、迂回路のない地方道、橋梁、トンネル、鉄道等		迂回路のある地方道、公園等		林道、管理用道路、係船設備、流木処理施設、貯砂ダム等					
	大		大		中		小					
	1.20～1.15		1.20～1.15		1.20～1.10		1.15～1.10		1.15～1.05			
八ヶ場ダム	-	-	1.20	代替地、付替JR	-	-	-	-	1.05	「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針（案）・同解説」に基づき設定		

※計画安全率について

(1)貯水池周辺の施設（重要度大）：保全対象が家屋等（代替地）の重要度大のカテゴリーで、被害が発生した場合、社会的な影響が大きいことから計画安全率を上限値の1.20として検討する。

(2)その他貯水池周辺斜面：検討対象斜面は、名勝吾妻峡の景勝地等の景観上重要な地域を含まないことから、計画安全率を下限値の1.05として検討する。

ハッ場ダム貯水池内地すべり

事 項

要

点

備 考

(4)地下水位

地下水位観測データや削孔時水位、隣接ブロック等を基に各地区の地下水位を推定した。

○観測水位から推定：白岩沢 R12-1

○解析測線上での観測は行っていないが、地すべりブロック内で観測されている水位が推定すべり面より深いことから推定すべり面より下に推定：二社平 L8、勝沼 L32-3、L32-1

○地すべりブロック内で地下水位観測を実施していないが、隣接する地すべりブロックの観測水位から、推定すべり面より下に推定：二社平 L8 上部緩み、勝沼 L32-2

○地すべりブロック内で地下水位観測を実施していないため、安全側の設計になるように地下水位を推定すべり面より下に推定：白岩沢 R12-2、久森沢、久々戸

(5)土の単位体積重量

既存の室内土質試験、現場密度試験結果（表 3.3.8）から、下記のように設定した。

なお、勝沼（L32-1）は移動土塊が HAtb と ok で構成されているので、これらの平均値 $((22+19)/2=20.5 \div 21)$ とした。

表 土の単位体積重量

主な移動土塊	土の単位体積重量(kN/m³)	対象ブロック名
HAtb(林層凝灰角礫岩)	22	白岩沢、久森沢、久々戸
ok(応桑岩肩堆積物)	19	勝沼(L32-2、L32-3)
HAtb(林層凝灰角礫岩)/ok(応桑岩肩堆積物)	21	勝沼(L32-1)
Yvb(ハッ場安山岩類・火山角礫岩)	25	二社平

(6)すべり面強度

①粘着力 c' ：「貯水池周辺の地すべり調査と対策」に準拠し、各ブロックの最大鉛直層厚から求める。

②内部摩擦角 ϕ' ：粘着力 c' と初期安全率から逆算法で求める。

表 地すべりの最大鉛直層厚と粘着力

地すべりの最大鉛直層厚(m)	粘着力 c' (kN/m²)
5	5
10	10
15	15
20	20
25	25

（出典：貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説）

$$F_s = \frac{\sum (N - U) \cdot \tan \phi' + c' \cdot \sum L}{\sum T}$$

N: 各スライス（分割片）に作用する単位幅あたりのすべり面法線方向分力 (kN/m)

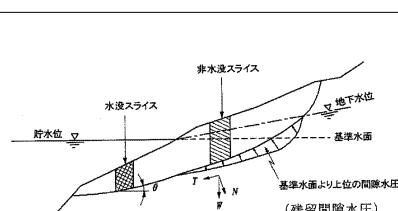
T: 各スライスに作用する単位幅あたりのすべり面接線方向分力 (kN/m)

U: 各スライスに作用する単位幅あたりの間隙水圧 (kN/m)

L: 各スライスのすべり面の長さ (m)

ϕ' : すべり面の内部摩擦角 (°)

c' : すべり面の粘着力 (kN/m²)



（出典：貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説）

図 安定計算式

表 単位体積重量試験結果

Yvb	
試料採取孔	湿潤密度 ρ_t (g/cm³)
KHB-33 ¹⁾	2.38
KHB-151 ²⁾	2.60
平均値(N=3)	2.53

1)「H3貯水池周辺地質調査(川原瀬)報告書(5.3)」サンコーコンサルタント㈱より引用

2)「H12川原瀬地区地質調査報告書(14.3)」三井コンサルタント㈱より引用

dt	
試料採取孔	湿潤密度 ρ_t (g/cm³)
露頭 ¹⁾	1.35 1.75
平均値(N=2)	1.55

1)「H3貯水池周辺地質調査(川原瀬)報告書(5.3)」サンコーコンサルタント㈱より引用

2)「H12川原瀬地区地質調査報告書(14.3)」三井コンサルタント㈱より引用

ok(室内試験)	
試料採取孔	湿潤密度 ρ_t (g/cm³)
NB-45 ¹⁾	1.496 1.670 1.738 1.738 1.777 1.803 1.954 1.793 1.767 1.939 1.903 1.924 1.891 1.844 1.924 2.068 1.841 1.886 2.001 2.178
HB-121 ¹⁾	1.640 1.721 1.817 1.878 1.873 2.074 2.045 1.824 2.006 1.929 1.986 1.949 2.001 1.956 1.756 2.055 1.894 1.952 2.006 2.172 2.153 2.151 2.096 1.959 1.652 1.703 2.074 1.988 1.931 1.947 1.994 1.987 1.967 1.924 1.946 2.200 2.166 2.083 2.179 1.965
KYB-55 ²⁾	1.924 1.946 2.200 2.166 2.083 2.179 1.965
KYB-56 ²⁾	1.759 1.588 1.711 1.730 1.817 1.961 1.811 2.027 2.018 1.990 1.890 1.930 1.960 1.800

1)「H3林地区地質調査(その2)報告書(9.11)」中央開発㈱より引用

2)「H3川原瀬地区地質調査(川原瀬)報告書(5.3)」サンコーコンサルタント㈱より引用

3)「H12川原瀬地区地質調査報告書(14.3)」三井コンサルタント㈱より引用

4)「H12川原瀬地区地質調査報告書(14.3)」三井コンサルタント㈱より引用

ok(現場密度試験)	
*試験箇所	湿潤密度 ρ_t (g/cm³)
KH-1(戴荷面周辺, 試験前)	1.90
KH-1(戴荷面周辺, 試験後)	2.00
KH-2(戴荷面周辺, 試験前)	1.84
KH-2(戴荷面, 試験後)	2.01
KH-3(戴荷面周辺, 試験前)	1.87
KH-3(戴荷面, 試験後)	1.88
平均値(N=6)	1.92

「H9次下特性把握現地実験実務報告書(10.2)」中央開発㈱より引用

HAtb	
試料採取孔	湿潤密度 ρ_t (g/cm³)
YB-1 ¹⁾	2.08 2.15 2.08
YB-2 ¹⁾	2.23
YB-3 ¹⁾	1.92
YB-4 ¹⁾	2.23 2.32 2.16
YB-5 ¹⁾	2.14 2.05 2.07
YB-6 ¹⁾	2.20
YB-7 ¹⁾	2.18
KYB-38 ²⁾	2.60 2.56
KYB-39 ²⁾	2.260 2.280 2.320
YB-26 ³⁾	2.478 2.213
No.2 ⁴⁾	2.124 2.191 2.180
No.3 ⁴⁾	2.105 2.125
平均値(N=27)	2.21

1)「吾妻線模擬T他地質調査報告書(2.4)」㈱ダイヤコンサルタントより引用

2)「H3貯水池周辺地質調査(川原瀬)報告書(5.3)」サンコーコンサルタント㈱より引用

3)「H12川原瀬地区地質調査(その2)報告書(14.3)」三井コンサルタント㈱より引用

4)「H12川原瀬地区地質調査報告書(14.3)」㈱総合技術コンサルタントより引用

* 出典：H18 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務

※なお、勝沼地区と白岩沢地区では、すべり面の候補を絞り込み、複数のすべり面で安定計算を実施し、最大抑止力になるすべり面を対象に対策工を検討した。

八ヶ場ダム貯水池内地すべり

事 項	要 点	備 考												
(7) 安定解析の検討フロー	<p>検討対象箇所 左岸：①二社平地区 ②勝沼地区 ③久森沢地区 右岸：④白岩沢地区 ⑤久々戸地区</p> <p>地すべりブロック区分 地すべりの平面的な範囲を推定 (地形判読、現地踏査、地質調査、各種試験、コア観察、計器観測)</p> <p>すべり面の位置確認 地すべりの断面的な範囲を推定 (地質調査、各種試験、コア観察、計器観測)</p> <p>解析測線の選定 基本設計を行うのに適した位置及び方向に設定</p> <p>湛水前の安全率の設定 計測結果、地すべり等の変状の有無・状態等に基づき設定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地すべり等の変状</th> <th>計測調査による変動種別※)</th> <th>湛水前の安全率の目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 現在変動中、主亀裂・末端亀裂発生</td> <td>変動A：活発に変動中 変動B：緩慢に変動中</td> <td>$F_{S_0}=0.95$ $F_{S_0}=0.98$</td> </tr> <tr> <td>2) 地表における変動の微候(亀裂の発生等)は認められない 変動量は非常に小さい。(変動C 未溝)が、累積的に認められ地すべりによる変動の可能性が高い。</td> <td>変動C：</td> <td>$F_{S_0}=1.00$</td> </tr> <tr> <td>3) 変動の痕跡は認められない</td> <td>変動D</td> <td>$F_{S_0}=1.05$</td> </tr> </tbody> </table> <p>土塊の単位体積重量の設定 移動土塊の構成材料を考慮して、事例や試験値に基づき設定</p> <p>水理条件の検討 地下水位の設定 複数年以上の計測結果に基づく長期間にわたり安定して存在する地下水位 計測データが無い場合は推定すべり面より下に地下水位を設定 貯水位操作 (河床→NWL 583.0m→RWL 555.2m) 残留間隙水圧 十分なデータが無い場合は50%に設定</p> <p>土質定数の設定 粘着力c' (地すべりの最大鉛直層厚から設定) せん断抵抗係数$\tan\phi'$ (逆算により算出)</p> <p>湛水による安全率の評価 菱形判定 $F_s < 1.0$ 対策工の実施</p> <p>計画安全率の設定 保全対象の種類に応じた重要度により1.05～1.20の範囲で設定</p> <p>必要抑止力の算定</p>	地すべり等の変状	計測調査による変動種別※)	湛水前の安全率の目安	1) 現在変動中、主亀裂・末端亀裂発生	変動A：活発に変動中 変動B：緩慢に変動中	$F_{S_0}=0.95$ $F_{S_0}=0.98$	2) 地表における変動の微候(亀裂の発生等)は認められない 変動量は非常に小さい。(変動C 未溝)が、累積的に認められ地すべりによる変動の可能性が高い。	変動C：	$F_{S_0}=1.00$	3) 変動の痕跡は認められない	変動D	$F_{S_0}=1.05$	
地すべり等の変状	計測調査による変動種別※)	湛水前の安全率の目安												
1) 現在変動中、主亀裂・末端亀裂発生	変動A：活発に変動中 変動B：緩慢に変動中	$F_{S_0}=0.95$ $F_{S_0}=0.98$												
2) 地表における変動の微候(亀裂の発生等)は認められない 変動量は非常に小さい。(変動C 未溝)が、累積的に認められ地すべりによる変動の可能性が高い。	変動C：	$F_{S_0}=1.00$												
3) 変動の痕跡は認められない	変動D	$F_{S_0}=1.05$												

表 安定解析の一覧表

地区名	ブロック名	安定解析測線	すべり面	保全対象区分 (重要度)	保全対象施設	初期安全率	計画安全率	地下水位	粘着力 C(kN/m ²)	内部摩擦角 ϕ (°)	間隙水圧の 残留率(%)	水位操作	最小安全率 (Fs)	必要抑止力 (kN/m)	
二社平	L8	5	L8	その他	-	1.00	1.05	なし	25	18.8	50 河 床 ↓ N.W.L 583.0m ↓ R.W.L 555.2m	0.944	3,208		
	緩み領域	5	-	その他	-	1.05	1.05		25	25.2			0.988	1,724	
勝沼	L32-1	1	L32-1②	その他	-	1.05	1.05	なし	25	16.8		0.942 0.792 0.944 0.962	2,187 2,618 3,515 2,370		
	L32-2	6	L32-2	その他	-	1.00	1.05		25	24.7			0.944	3,515	
	L32-3	3	L32-3①	その他	-	1.05	1.05		25	10.4			0.962	2,370	
			L32-3②	その他					25	9.4			0.907	12,215	
白岩沢	R12-1	3	R12-1①	その他	-	0.95	1.05	観測水位	25	21.2		0.893 0.899 0.948 0.870	16,822 16,453 8,583 1,969		
			R12-1②	その他	-	0.95	1.05		25	22.8			0.856	5,065	
			R12-1③	その他	-	0.95	1.05		25	21.4			0.891	5,385	
	R12-2	8	R12-2	貯水池(大)	付替JR(川原湯トンネル・橋梁)	0.95	1.20		25	17.2			0.945	5,370	
久森沢	L27	1	L27	貯水池(大)	代替地	1.05	1.20	なし	20	13.7	*太文字が対策対象	0.856 0.891 0.945	5,065 5,385 5,370		
	L28	3	L28	貯水池(大)	代替地	1.05	1.20		20	15.3					
	L27/28複合	2	L27+L28	貯水池(大)	代替地	1.05	1.20		20	18.1					
久々戸	R21-1	4	R21-1	その他	-	1.05	1.05	なし	25	12.4					

*白岩沢では、機構解析の結果、測線の向きと移動方向を合わせる必要があったため、R12-1は12測線を3測線に、R12-2を9測線から8測線とした。

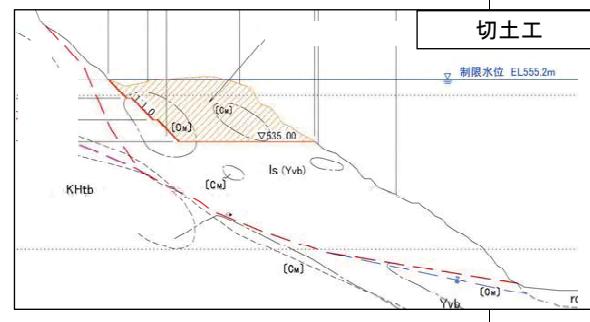
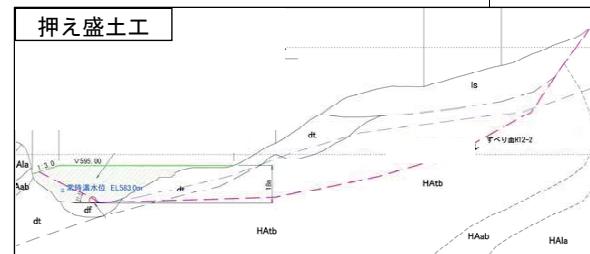
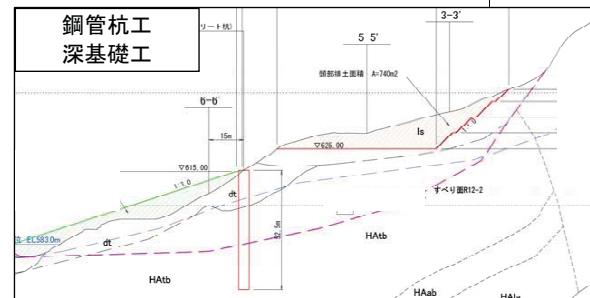
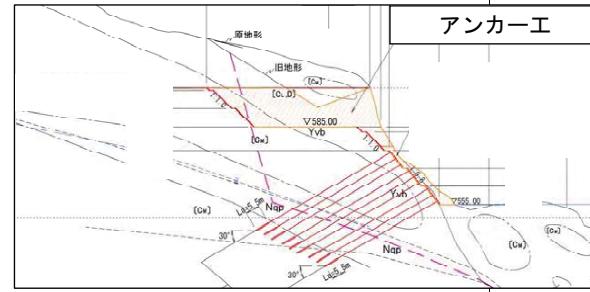
※その他：他の貯水池斜面
貯水池：貯水池周辺の施設

ハッ場ダム貯水池内地すべり

事　項	要　点	備　考
<p>3. 対策工の検討</p> <p>(1) 概　要</p> <p>精査対象の5地区（勝沼、白岩沢、二社平、久森沢、久々戸）について対策工法の検討を行う。</p> <pre> graph TD A[解釈] --> B{対策工の必要性} B -- 不要 --> C[計画安全率の設定] B -- 必要 --> D[対策工の選定] D --> E[対策工の計画の範囲] E --> F[計画安全率の設定] F --> G[対策工の選定] G --> H[必要抑止力の算定] H --> I[詳細設計] I --> J[対策工の施工] J --> K[漏水時の斜面管理] </pre> <p>図 対策工のフロー</p> <p>(2) 対策工の選定</p> <p>対策工は、地すべり等に応じた効果的かつ経済的な対策とすることを目的とし、地すべり等の特性、貯水位面と地すべり等の位置関係および各々の対策工の特徴を考慮して選定する。</p> <pre> graph TD A[対策工] --> B[抑制工] B --> C[地表排水] C --> D[地表水路工] C --> E[漏水防止工] D --> F[浅層地下排水] E --> F F --> G[暗渠工、明暗渠工] F --> H[横ボーリング工] G --> I[集水井工] H --> I I --> J[排水トンネル工] I --> K[地下水遮断工] B --> L[排土工] L --> M[押さえ盛土工(CSGを含む)] L --> N[河川構造物] M --> O[砂防ダム] N --> P[床固め、護岸、水制等] M --> Q[適用可能] N --> R[適用可能] P --> S[適用可能] B --> T[擁壁工] T --> U[グラウンドアンカー工(以下、アンカー工と記述する)] T --> V[鋼管杭工(アンカー付鋼管杭工を含む)] T --> W[深基礎杭工(シャフト工)] U --> X[適用可能] V --> X W --> X </pre> <p>図 対策工の分類と適用可能工法 「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針（案）・同解説」P5-4</p>	<p>安定計算結果に基づき、対策工を検討した。対策工は以下の方針で検討した。</p> <p>保全対象の重要度に応じて設 適用可能な工法での比較検討 最小安全率と計画安全率より算定</p> <p>P-1 押え盛土工</p> <p>P-2 アンカー工</p> <p>P-3 鋼管工</p> <p>P-4 深基礎杭工</p>	

八ヶ場ダム貯水池内地すべり

事 項	要 点	備 考																																																																																																					
	<p>(3) 対策工検討条件 比較選定を行う対策工の検討条件は下表に示すとおりである。</p> <p>表 対策工概略設計条件一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対策工法</th><th>設定項目</th><th>設定値</th><th>備 考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">アンカー工</td><td>アンカー効果</td><td>締め付け+引き止め</td><td>「グラウンドアンカー工設計指針」P3-45</td></tr> <tr><td>施工段数</td><td>2段以上</td><td>計算で算出</td></tr> <tr><td>水平間隔</td><td>2.5~4.0m</td><td>経済比較で決定</td></tr> <tr><td>テンドンとグラウトの許容支持応力度</td><td>$\tau_b=1.60 \text{ N/mm}^2$</td><td>グラウトの設計基準強度24 N/mm²より</td></tr> <tr><td>アンカ一体の周面摩擦抵抗</td><td>$\tau=1.0 \text{ N/mm}^2$</td><td>軟岩の最低値</td></tr> <tr><td>支持地盤の許容応力度</td><td>$q_a=300 \text{ kN/m}^2$</td><td>軟岩の最低値</td></tr> <tr> <td rowspan="9">鋼管杭工</td><td>杭の種類</td><td>くさび杭</td><td>「改訂 貯水池周辺の地すべり調査と対策」P6-10~11</td></tr> <tr><td>許容応力度</td><td>短期</td><td>湛水にともなう一時的な荷重</td></tr> <tr><td>杭間隔</td><td>2.0~4.0m</td><td>計算で算出(杭の直径の8倍以内)</td></tr> <tr><td>杭材</td><td>490材~570材</td><td>「地すべり鋼管杭設計要領」P12</td></tr> <tr><td>杭径</td><td>$\phi 400\text{mm} \sim \phi 508\text{mm}$</td><td>施工実績(「平成22年 災害手帳」P382)</td></tr> <tr><td>肉厚</td><td>18mm~40mm</td><td>施工実績(「平成22年 災害手帳」P382)</td></tr> <tr><td>移動層の地盤反力</td><td>$N=15, 30$より算出</td><td>既往試験結果(応桑岩屑流堆積物、林層)</td></tr> <tr><td>不動層の地盤反力</td><td>$N=50$より算出</td><td>既往試験結果(林層)</td></tr> <tr><td>杭の根入れ長</td><td>全長の1/3以上</td><td>「建設省河川砂防技術基準(案) 設計編 II」P62</td></tr> <tr> <td rowspan="8">深基礎杭工</td><td>対策工法</td><td>設定項目</td><td>設定値</td><td>備 考</td></tr> <tr><td rowspan="7">深基礎杭工</td><td>材質</td><td>鉄筋コンクリート</td><td></td></tr> <tr><td>杭径</td><td>4500mm</td><td>計算で算出</td></tr> <tr><td>杭間隔</td><td>2D以内</td><td>杭直径の2倍以内</td></tr> <tr><td>コンクリートの設計基準強度</td><td>$\sigma_{ck}=24 \text{ N/mm}^2$</td><td>「道路橋示方書 下部構造編」P147</td></tr> <tr><td>コンクリートの許容曲げ圧縮応力度</td><td>$\sigma_{ca}=8 \text{ N/mm}^2$</td><td>「道路橋示方書 下部構造編」P147</td></tr> <tr><td>コンクリートの許容せん断応力度</td><td>$\tau_{ca}=0.23 \text{ N/mm}^2$</td><td>「道路橋示方書 下部構造編」P147</td></tr> <tr><td>鉄筋の許容曲げ引張応力度</td><td>$\sigma_{sa}=180 \text{ N/mm}^2$</td><td>「道路橋示方書 下部構造編」P155</td></tr> <tr> <td rowspan="4">押え盛土工</td><td>盛土材</td><td>$\gamma t=20 \text{ kN/m}^3$ $C=10 \text{ kN/m}^2$ $\phi=35^\circ$</td><td>代替地での設計事例</td></tr> <tr><td>盛土勾配</td><td>1 : 2.0</td><td></td></tr> <tr><td>天端幅</td><td>5m~145m</td><td>最小となる盛土量で決定</td></tr> <tr><td>切土勾配</td><td>1 : 1.0</td><td>軟岩1:0.5~1:1.2より 「JH 設計要領第1集」P3-4</td></tr> <tr> <td rowspan="3">頭部排土工</td><td>切土勾配</td><td>1 : 1.2</td><td>砂利または岩塊まじり砂質土相当1:1.2~1:1.5より 「JH 設計要領第1集」P3-4</td></tr> <tr><td>直高</td><td>7m</td><td>一般的に切土高7mごとに小段を配置 「JH 設計要領第1集」P3-6</td></tr> <tr><td>小段幅</td><td>1.5m</td><td>高さ5~10mごとに設け、幅は1.5mを標準とする 「JH 設計要領第1集」P3-6</td></tr> </tbody> </table>	対策工法	設定項目	設定値	備 考	アンカー工	アンカー効果	締め付け+引き止め	「グラウンドアンカー工設計指針」P3-45	施工段数	2段以上	計算で算出	水平間隔	2.5~4.0m	経済比較で決定	テンドンとグラウトの許容支持応力度	$\tau_b=1.60 \text{ N/mm}^2$	グラウトの設計基準強度24 N/mm ² より	アンカ一体の周面摩擦抵抗	$\tau=1.0 \text{ N/mm}^2$	軟岩の最低値	支持地盤の許容応力度	$q_a=300 \text{ kN/m}^2$	軟岩の最低値	鋼管杭工	杭の種類	くさび杭	「改訂 貯水池周辺の地すべり調査と対策」P6-10~11	許容応力度	短期	湛水にともなう一時的な荷重	杭間隔	2.0~4.0m	計算で算出(杭の直径の8倍以内)	杭材	490材~570材	「地すべり鋼管杭設計要領」P12	杭径	$\phi 400\text{mm} \sim \phi 508\text{mm}$	施工実績(「平成22年 災害手帳」P382)	肉厚	18mm~40mm	施工実績(「平成22年 災害手帳」P382)	移動層の地盤反力	$N=15, 30$ より算出	既往試験結果(応桑岩屑流堆積物、林層)	不動層の地盤反力	$N=50$ より算出	既往試験結果(林層)	杭の根入れ長	全長の1/3以上	「建設省河川砂防技術基準(案) 設計編 II」P62	深基礎杭工	対策工法	設定項目	設定値	備 考	深基礎杭工	材質	鉄筋コンクリート		杭径	4500mm	計算で算出	杭間隔	2D以内	杭直径の2倍以内	コンクリートの設計基準強度	$\sigma_{ck}=24 \text{ N/mm}^2$	「道路橋示方書 下部構造編」P147	コンクリートの許容曲げ圧縮応力度	$\sigma_{ca}=8 \text{ N/mm}^2$	「道路橋示方書 下部構造編」P147	コンクリートの許容せん断応力度	$\tau_{ca}=0.23 \text{ N/mm}^2$	「道路橋示方書 下部構造編」P147	鉄筋の許容曲げ引張応力度	$\sigma_{sa}=180 \text{ N/mm}^2$	「道路橋示方書 下部構造編」P155	押え盛土工	盛土材	$\gamma t=20 \text{ kN/m}^3$ $C=10 \text{ kN/m}^2$ $\phi=35^\circ$	代替地での設計事例	盛土勾配	1 : 2.0		天端幅	5m~145m	最小となる盛土量で決定	切土勾配	1 : 1.0	軟岩1:0.5~1:1.2より 「JH 設計要領第1集」P3-4	頭部排土工	切土勾配	1 : 1.2	砂利または岩塊まじり砂質土相当1:1.2~1:1.5より 「JH 設計要領第1集」P3-4	直高	7m	一般的に切土高7mごとに小段を配置 「JH 設計要領第1集」P3-6	小段幅	1.5m	高さ5~10mごとに設け、幅は1.5mを標準とする 「JH 設計要領第1集」P3-6	
対策工法	設定項目	設定値	備 考																																																																																																				
アンカー工	アンカー効果	締め付け+引き止め	「グラウンドアンカー工設計指針」P3-45																																																																																																				
	施工段数	2段以上	計算で算出																																																																																																				
	水平間隔	2.5~4.0m	経済比較で決定																																																																																																				
	テンドンとグラウトの許容支持応力度	$\tau_b=1.60 \text{ N/mm}^2$	グラウトの設計基準強度24 N/mm ² より																																																																																																				
	アンカ一体の周面摩擦抵抗	$\tau=1.0 \text{ N/mm}^2$	軟岩の最低値																																																																																																				
	支持地盤の許容応力度	$q_a=300 \text{ kN/m}^2$	軟岩の最低値																																																																																																				
鋼管杭工	杭の種類	くさび杭	「改訂 貯水池周辺の地すべり調査と対策」P6-10~11																																																																																																				
	許容応力度	短期	湛水にともなう一時的な荷重																																																																																																				
	杭間隔	2.0~4.0m	計算で算出(杭の直径の8倍以内)																																																																																																				
	杭材	490材~570材	「地すべり鋼管杭設計要領」P12																																																																																																				
	杭径	$\phi 400\text{mm} \sim \phi 508\text{mm}$	施工実績(「平成22年 災害手帳」P382)																																																																																																				
	肉厚	18mm~40mm	施工実績(「平成22年 災害手帳」P382)																																																																																																				
	移動層の地盤反力	$N=15, 30$ より算出	既往試験結果(応桑岩屑流堆積物、林層)																																																																																																				
	不動層の地盤反力	$N=50$ より算出	既往試験結果(林層)																																																																																																				
	杭の根入れ長	全長の1/3以上	「建設省河川砂防技術基準(案) 設計編 II」P62																																																																																																				
深基礎杭工	対策工法	設定項目	設定値	備 考																																																																																																			
	深基礎杭工	材質	鉄筋コンクリート																																																																																																				
		杭径	4500mm	計算で算出																																																																																																			
		杭間隔	2D以内	杭直径の2倍以内																																																																																																			
		コンクリートの設計基準強度	$\sigma_{ck}=24 \text{ N/mm}^2$	「道路橋示方書 下部構造編」P147																																																																																																			
		コンクリートの許容曲げ圧縮応力度	$\sigma_{ca}=8 \text{ N/mm}^2$	「道路橋示方書 下部構造編」P147																																																																																																			
		コンクリートの許容せん断応力度	$\tau_{ca}=0.23 \text{ N/mm}^2$	「道路橋示方書 下部構造編」P147																																																																																																			
		鉄筋の許容曲げ引張応力度	$\sigma_{sa}=180 \text{ N/mm}^2$	「道路橋示方書 下部構造編」P155																																																																																																			
押え盛土工	盛土材	$\gamma t=20 \text{ kN/m}^3$ $C=10 \text{ kN/m}^2$ $\phi=35^\circ$	代替地での設計事例																																																																																																				
	盛土勾配	1 : 2.0																																																																																																					
	天端幅	5m~145m	最小となる盛土量で決定																																																																																																				
	切土勾配	1 : 1.0	軟岩1:0.5~1:1.2より 「JH 設計要領第1集」P3-4																																																																																																				
頭部排土工	切土勾配	1 : 1.2	砂利または岩塊まじり砂質土相当1:1.2~1:1.5より 「JH 設計要領第1集」P3-4																																																																																																				
	直高	7m	一般的に切土高7mごとに小段を配置 「JH 設計要領第1集」P3-6																																																																																																				
	小段幅	1.5m	高さ5~10mごとに設け、幅は1.5mを標準とする 「JH 設計要領第1集」P3-6																																																																																																				



八ヶ場ダム貯水池内地すべり

事 項	要 点	備 考
-----	-----	-----

表 地すべり対策工概略検討表

地区	ブロック	測線	すべり面	湛水時 安全率 F_s	選定案	摘要	選定工法
ニ社平	L8	5-5'	L8	0.944	第1案 押え盛土	押え盛土が大規模になる。	押え盛土
					第2案 頭部排土	当該地区では土工量が大きくなり、斜面上方の緩み域や造成地まで達する。	
		L8の上部の 緩み		0.988	第1案 頭部排土	第2案にある構造物のアンカー工がなく、土工で対策するため、対策規模が小規模と言える。切土量は上方斜面の造成地に影響しない範囲にできる。	頭部排土
					第2案 整形+アンカー	第1案よりも土工以外に構造物としてアンカー工があるため、対策規模が大きくなる。	
勝沼	L32-3	3-3'	①	0.944	第1案 押え盛土	押え盛土が大規模になる。	頭部排土+押え盛土
					第2案 押え盛土+シャフト	構造物（シャフト）部分の費用が土工よりもかさむ可能性が高い。	
					第3案 頭部排土+押え盛土	第1案に比べて押え盛土が小規模になる。頭部排土の発生土を押え盛土に転用することで土砂収支が当該地区内で一定量バランスさせることができる。	
白岩沢	R12-1	3-3'	②	0.893	第1案 押え盛土	押え盛土が大規模になる。	頭部排土+押え盛土
					第2案 頭部排土+押え盛土	第1案に比べて押え盛土が小規模になる。頭部排土の発生土を押え盛土に転用することで土砂収支が当該地区内で一定量バランスさせることができる。	
					第3案 押え盛土+シャフト	構造物（シャフト）部分の費用が土工よりもかさむ可能性が高い。	
	R12-2	8-8'	R12-2	0.948	第1案 押え盛土	押え盛土が大規模になる。	押え盛土
					第2案 頭部排土+シャフト	構造物（シャフト）部分の費用が土工よりもかさむ可能性が高い。	
					第3案 押え盛土+頭部排土+シャフト	構造物（シャフト）部分の費用が土工よりもかさむ可能性が高い。	
久森沢	L28	3-3'	L28	0.891	第1案 押え盛土	小規模な押え盛土工で対策が可能。	押え盛土
					第2案 押え盛土+杭	構造物（杭）部分の費用が土工よりもかさむ可能性が高い。	
久々戸	R21-1	4-4'	R21-1	0.870	第1案 押え盛土	すべり末端が河床付近であり、小規模な押え盛土工で対策が可能。	押え盛土
					第2案 押え盛土+杭	構造物（杭）部分の費用が土工よりもかさむ可能性が高い。	
					第3案 シャフト	構造物（シャフト）部分の費用が土工よりもかさむ可能性が高い。	

上記により選定された工法の概算数量を算出した。

ハッ場ダム貯水池内地すべり

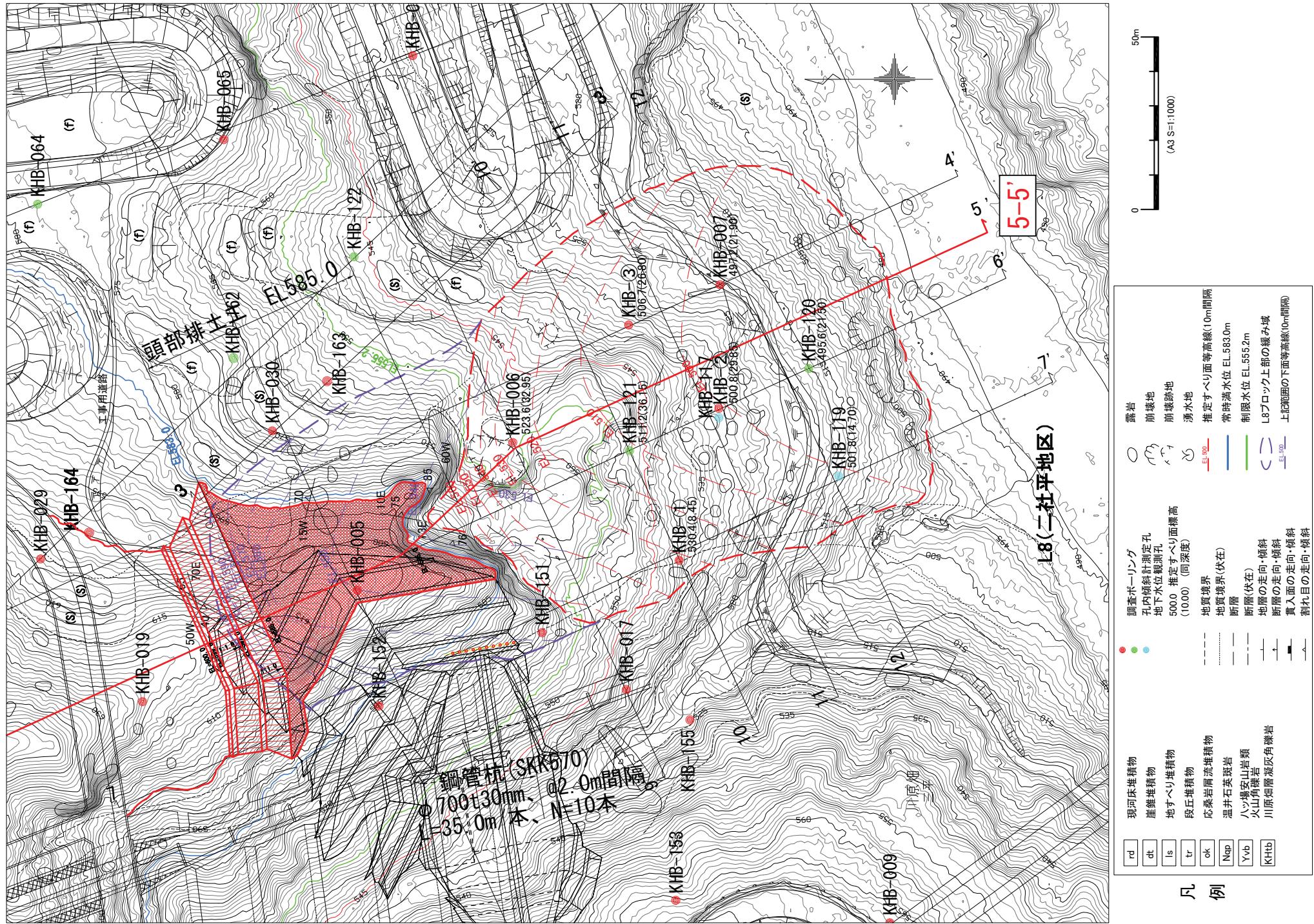
事 項	要 点	備 考
-----	-----	-----

表 地すべり対策工概略検討結果一覧表

地区	ブロック	測線	すべり面	計画 安全率 P_{fs}	湛水時		選定対策工	対策工概算数量
					安全率 F_s	抑止力 (kN/m)		
二社平	L8	5-5'	L8	1.05	0.944	3,208	押え盛土	◇押え盛土工94,000m ³ ; ◇リップ [°] ラップ [°] 工11,000m ² ; ◇掘削工44,000m ³ ; ◇法面工（簡易吹付法枠、モルタル吹付工）5,600m ² ; ◇布製型枠3,600m ²
			L8の上部の緩み	1.05	0.988	1,724	頭部排土	◇掘削工43,000m ³ ; ◇法面工（簡易吹付法枠、植生工）1,500m ² ; ◇鋼管杭（L=35m、φ700mm）10本
勝沼	L32-3	3-3'	①	1.05	0.944	3,515	頭部排土+押え盛土	◇掘削工890,000m ³ ; ◇法面工（簡易吹付法枠、植生工）17,000m ² ; ◇押え盛土工390,000m ³ ; ◇リップ [°] ラップ [°] 工31,000m ²
白岩沢	R12-1	3-3'	②	1.05	0.893	16,822	頭部排土+押え盛土	◇掘削工130,000m ³ ; ◇法面工（簡易吹付法枠、植生工）9,400m ² ; ◇リップ [°] ラップ [°] 工18,000m ² ; ◇押え盛土工600,000m ³ ; ◇掘削工150,000m ³ ; ◇法面工（簡易吹付法枠、モルタル吹付工）5,500m ² ; ◇布製型枠4,400m ²
	R12-2	8-8'	R12-2	1.20	0.948	8,583	押え盛土	◇押え盛土工350,000m ³ ; ◇法面工（植生シート）12,000m ² ; ◇布製型枠6,700m ²
久森沢	L28	3-3'	L28	1.20	0.891	5,385	押え盛土	◇押え盛土工350,000m ³ ; ◇リップ [°] ラップ [°] 工21,000m ²
久々戸	R21-1	4-4'	R21-1	1.05	0.870	1,969	押え盛土	◇押え盛土工23,000m ³ ; ◇リップ [°] ラップ [°] 工3,500m ²

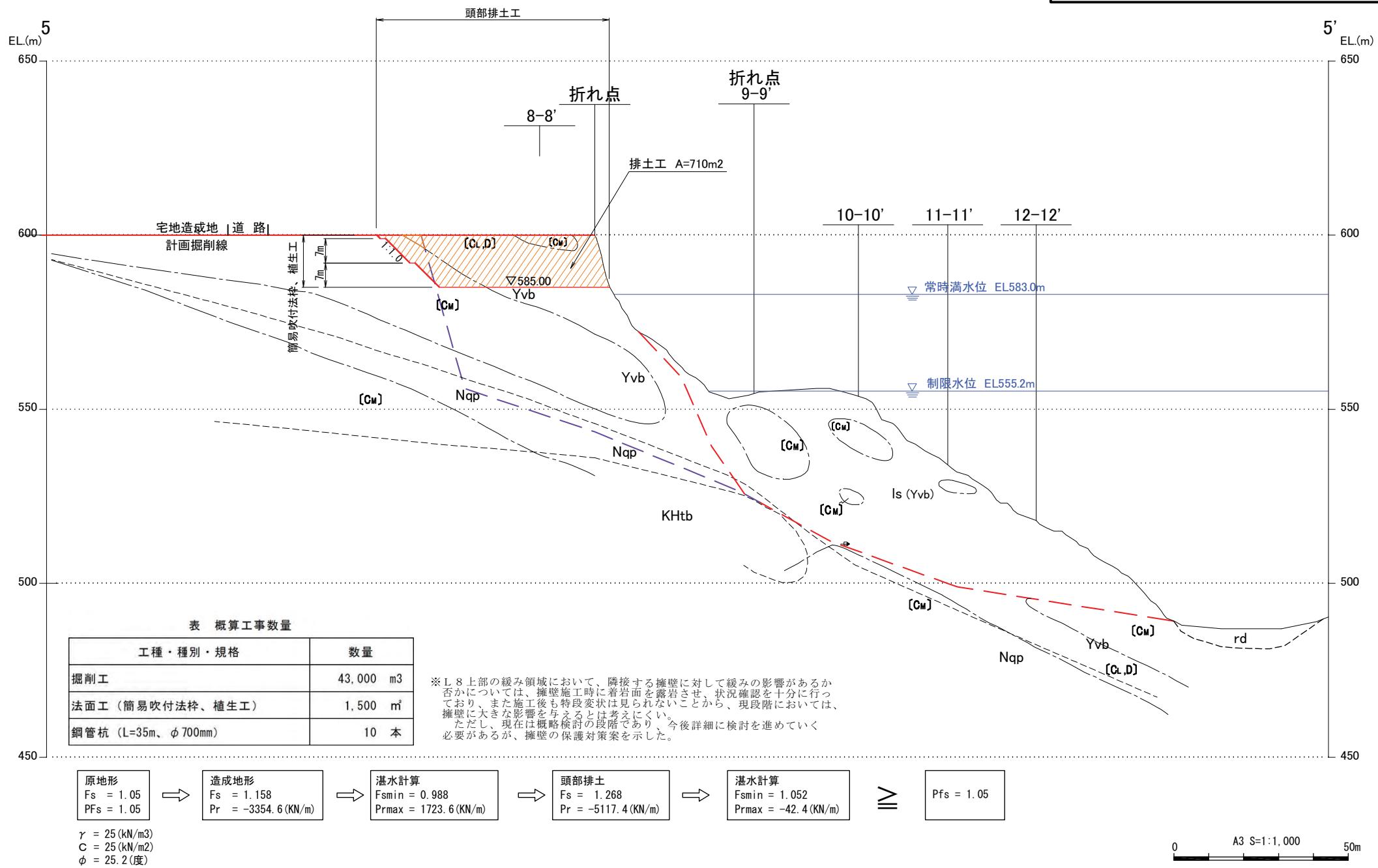
なお、各地区とも精査途中であることから、今回の検討では設計上安全側になるように地すべり等の範囲等を最大限の範囲で推定し、対策を検討している。

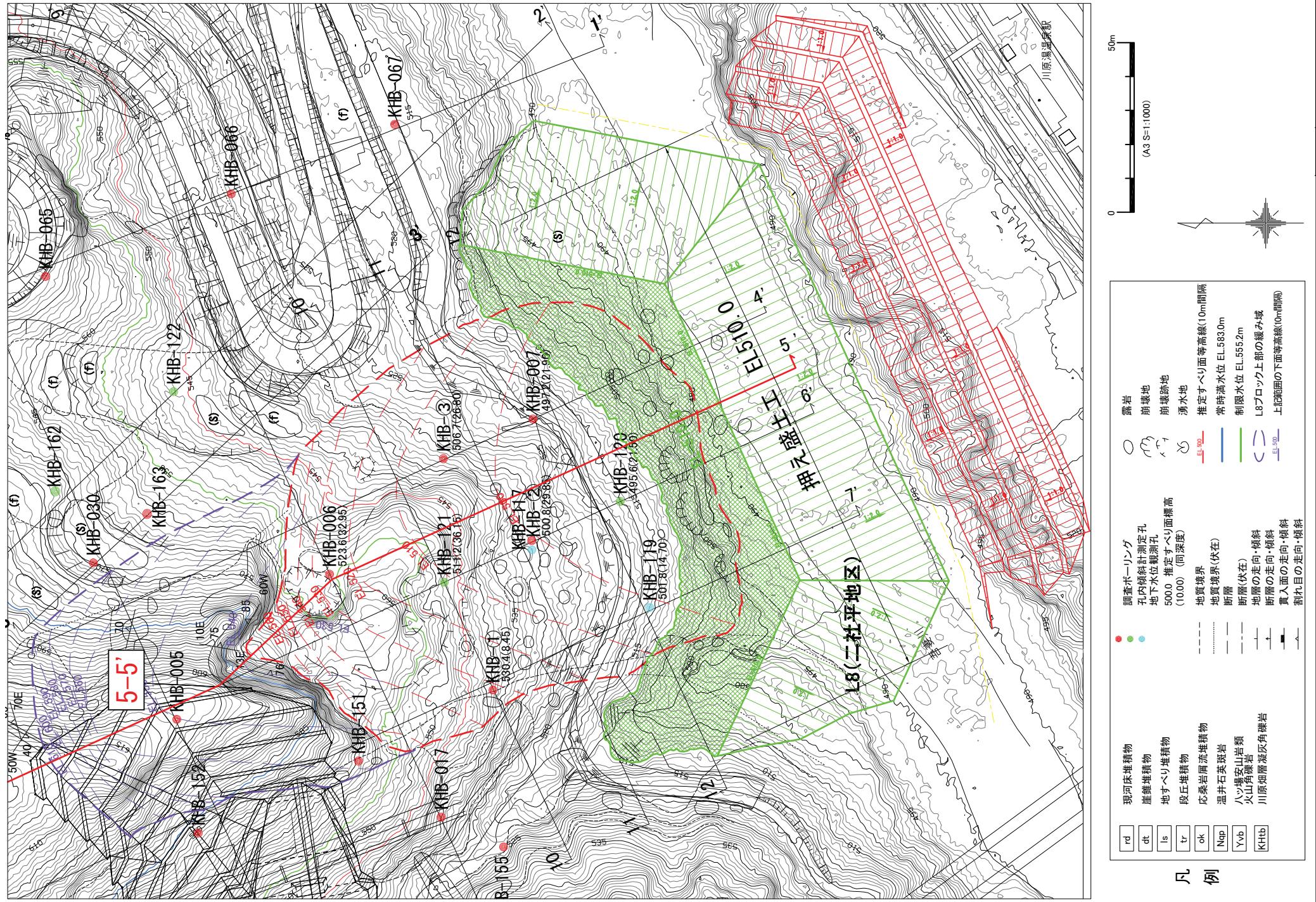
- ・レーザープロファイラ測量図と現地踏査により、平面形状は考えられる最大限とした
- ・明瞭なすべり面がボーリングコアで確認されたところは少ないが、破碎区分により、考えられる最大の深さを推定した
- ・現時点での調査結果から、複数のすべり面候補を推定し、そのうち抑止力がもっとも大きくなるすべり面を推定した
- ・地下水位観測がされていない場合、安全率が最も小さく算出されるように、移動土塊内に地下水位がなく、残留間隙水圧の影響が大きくなるように設定した



二社平地区
L8上部の緩み領域対策工断面図
排土工

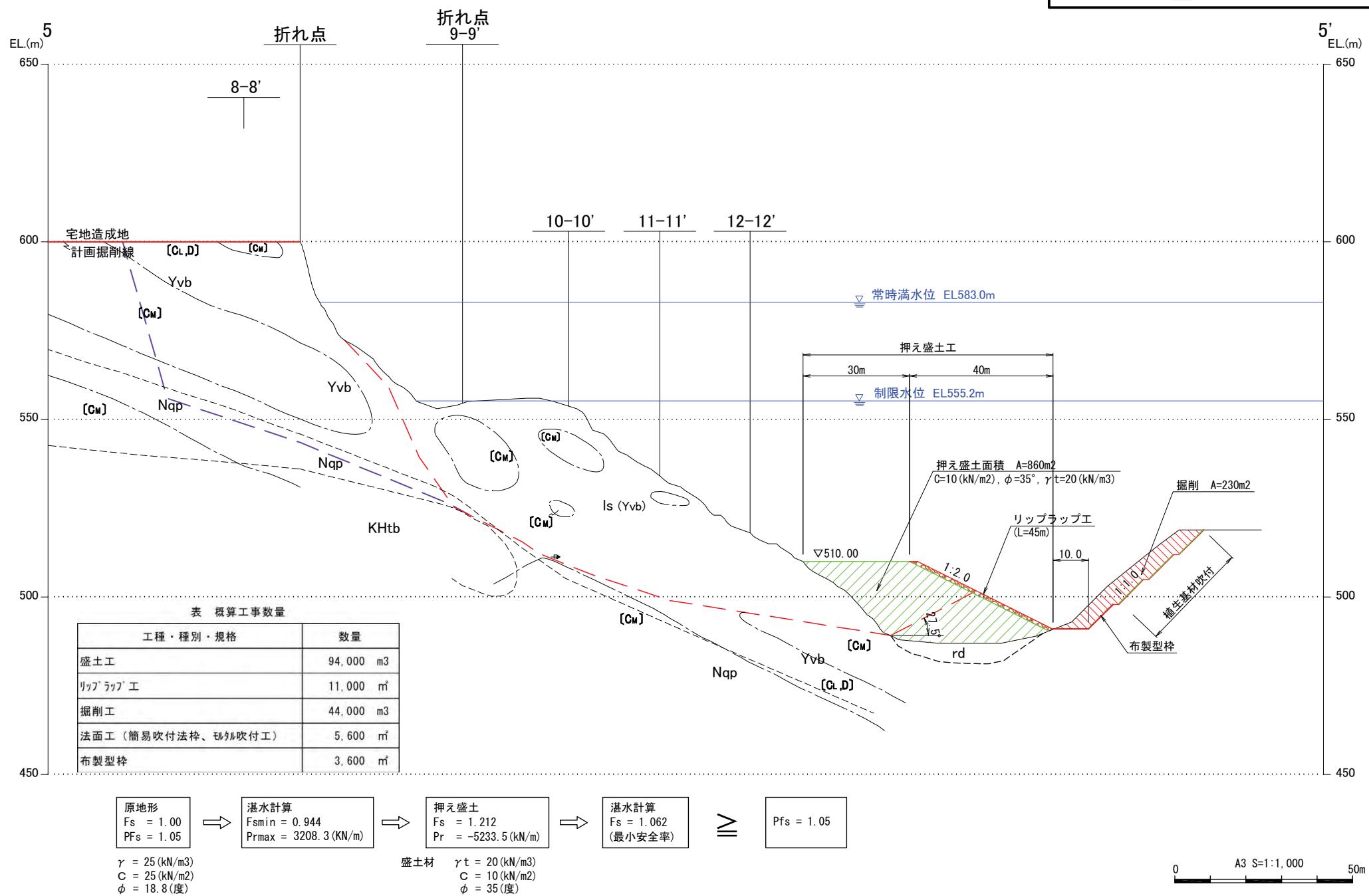
5-5' 断面図

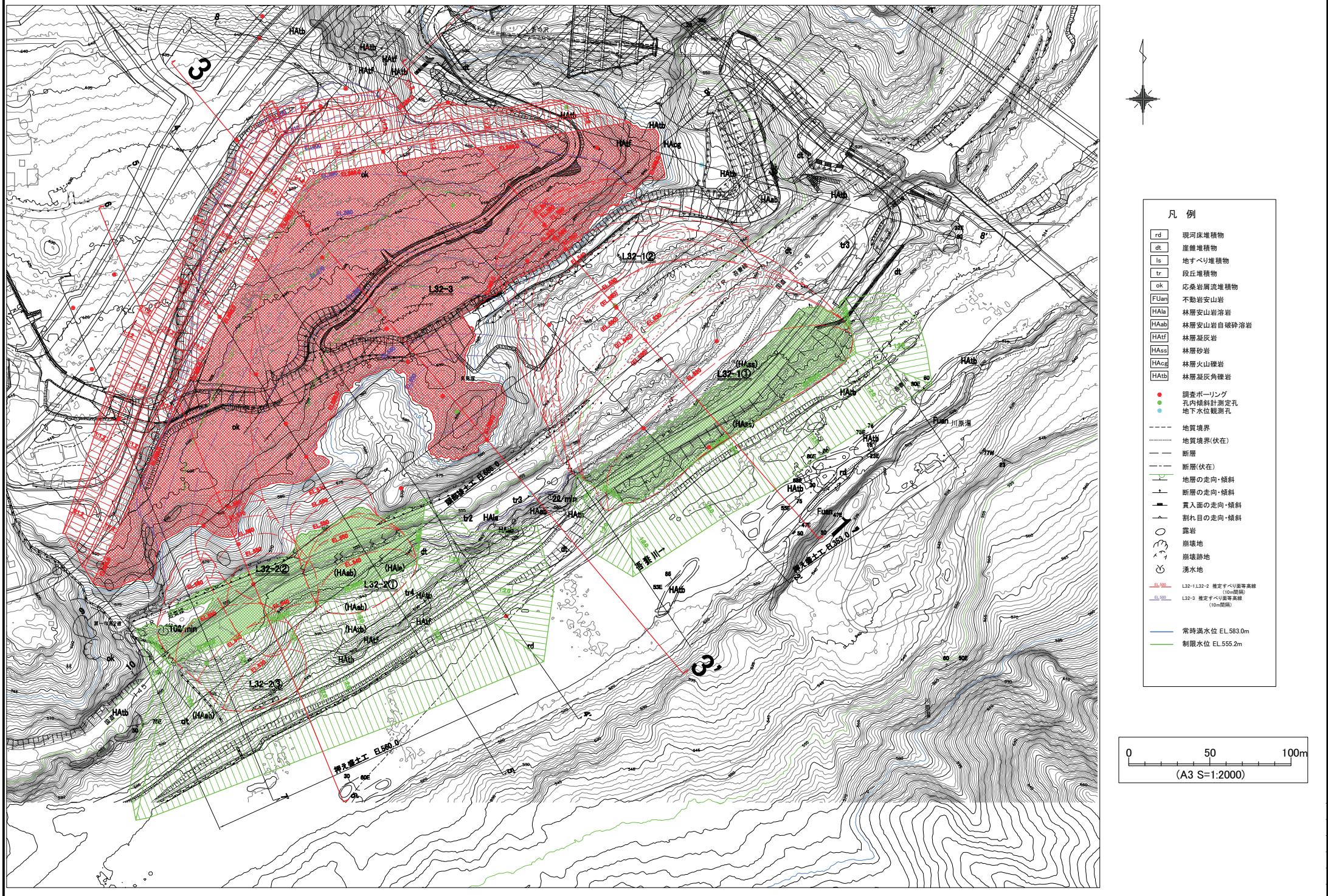




二社平地区 L8(下部) ブロック対策工断面図 盛土工

5-5' 断面図





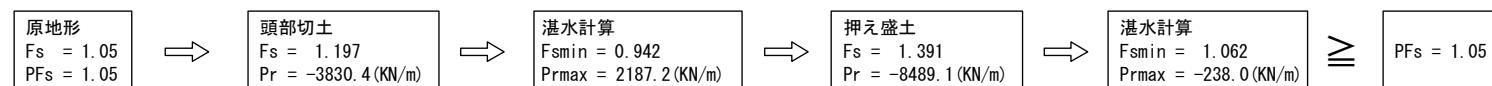
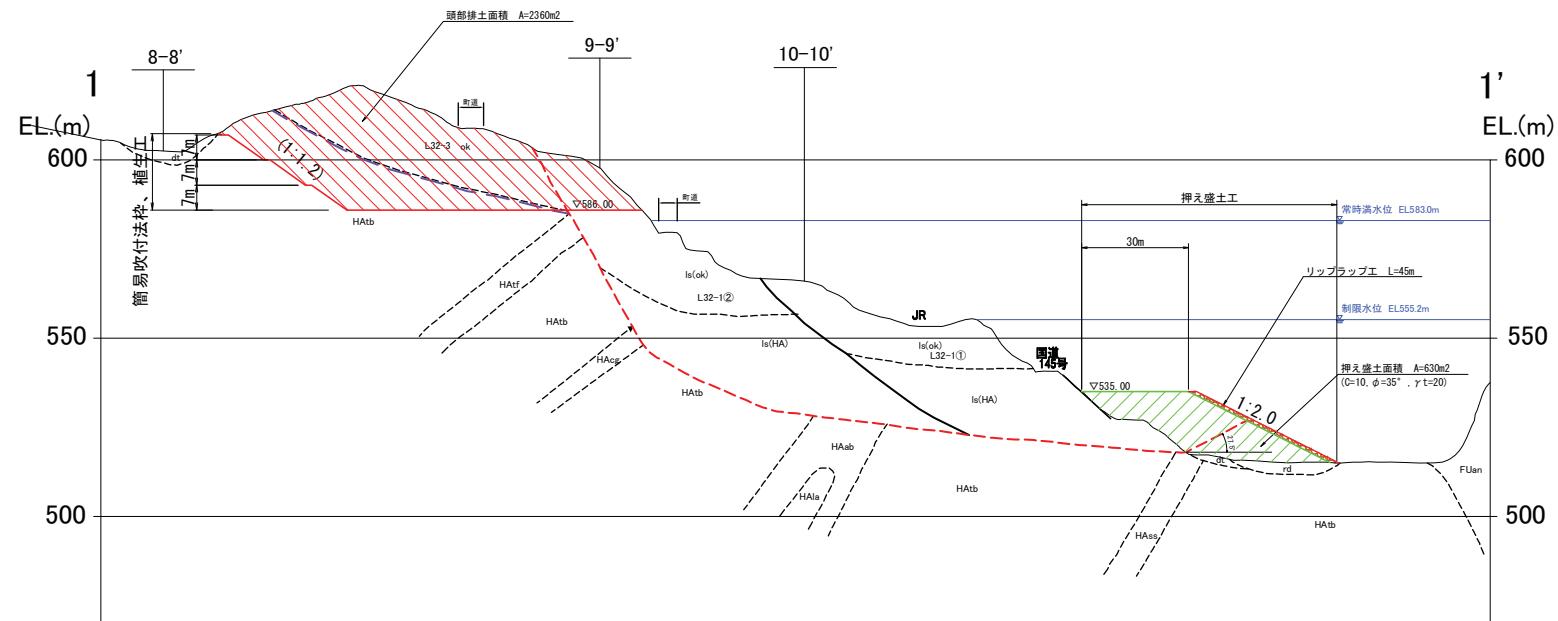
勝沼地区

L32-1ブロック L32-1②すべり対策工断面図 頭部排土・押え盛土工

表 概算工事数量

工種・種別・規格	数量
掘削工	890,000 m ³
法面工（簡易吹付法枠、植生工）	17,000 m ²
盛土工	390,000 m ³
リップラップ工	31,000 m ²

1-1' 断面図



$$\begin{aligned}\gamma &= 21 \text{ (kN/m}^3\text{)} \\ C &= 25 \text{ (kN/m}^2\text{)} \\ \phi &= 16.8 \text{ (度)}\end{aligned}$$

頭部切土
 $F_s = 1.197$
 $P_r = -3830.4 \text{ (KN/m)}$

湛水計算
 $F_{smin} = 0.942$
 $P_{rmax} = 2187.2 \text{ (KN/m)}$

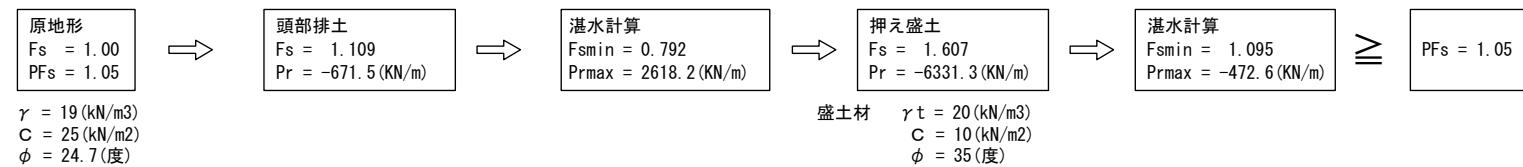
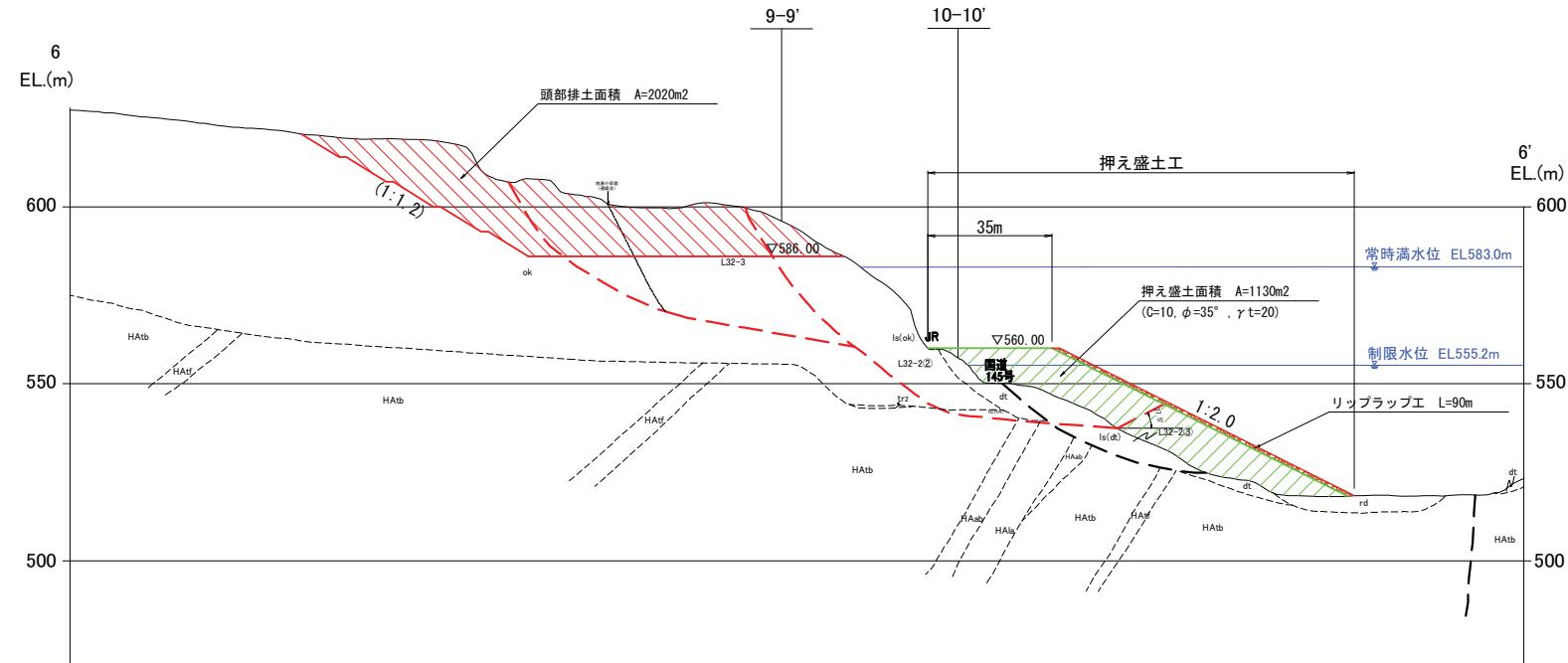
押え盛土
 $F_s = 1.391$
 $P_r = -8489.1 \text{ (KN/m)}$

湛水計算
Fsmin = 1.062
Prmax = -238.0 (KN/m)

PFs = 1.05

$$\begin{aligned} \text{盛土材} \quad \gamma t &= 20 (\text{kN/m}^3) \\ C &= 10 (\text{kN/m}^2) \\ \phi &= 35 (\text{度}) \end{aligned}$$

6-6' 断面図



$$\begin{aligned}\gamma &= 19 \text{ (kN/m}^3\text{)} \\ C &= 25 \text{ (kN/m}^2\text{)} \\ \phi &= 24.7 \text{ (度)}\end{aligned}$$

頭部排土
 $F_s = 1.109$
 $P_r = -671.5 \text{ (KN/m)}$

湛水計算
 $F_{smin} = 0.792$
 $P_{rmax} = 2618.2 \text{ (KN/m)}$

押え盛土
 $F_s = 1.607$
 $P_r = -6331.3 \text{ (KN/m)}$

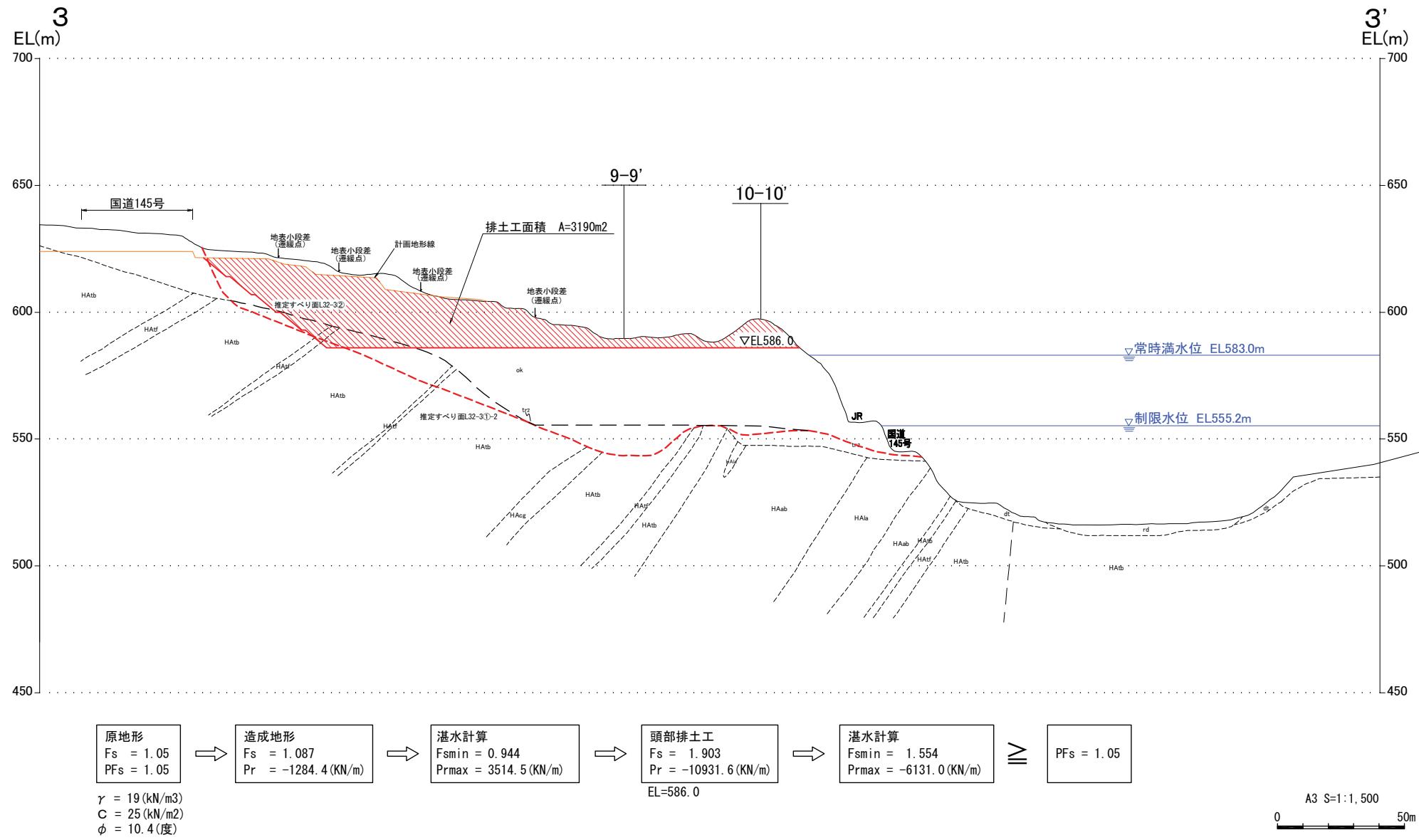
湛水計算
 $F_{smin} = 1.095$
 $Pr_{max} = -472.6 \text{ (KN/m)}$

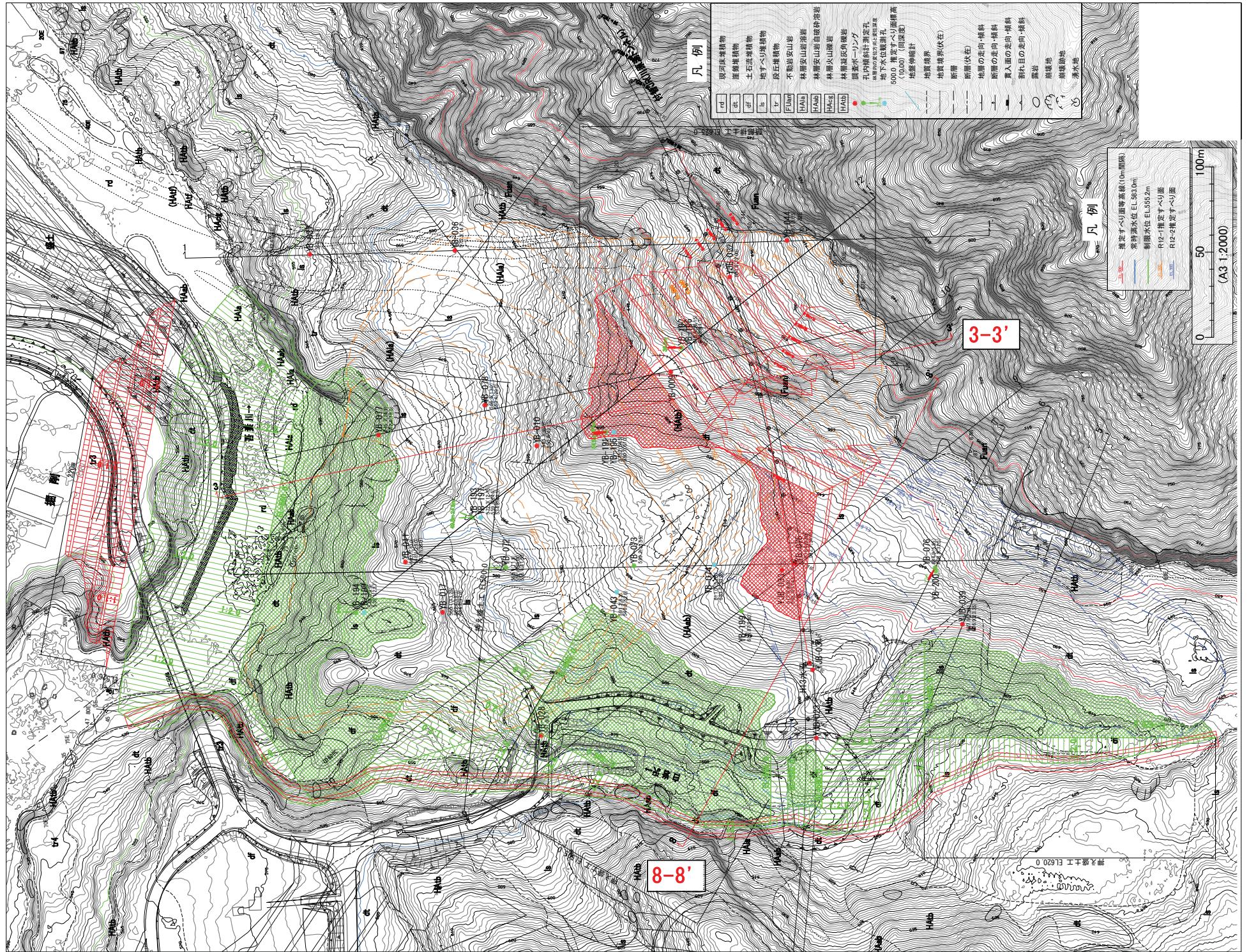
PFs = 1.05

$$\begin{array}{ll} \text{盛土材} & \gamma t = 20 \text{ (kN/m3)} \\ & C = 10 \text{ (kN/m2)} \\ & \phi = 35 \text{ (度)} \end{array}$$

A3 S=1:1, 500

3-3' 断面図



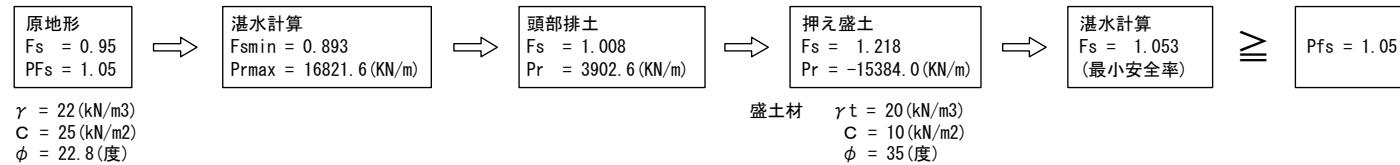
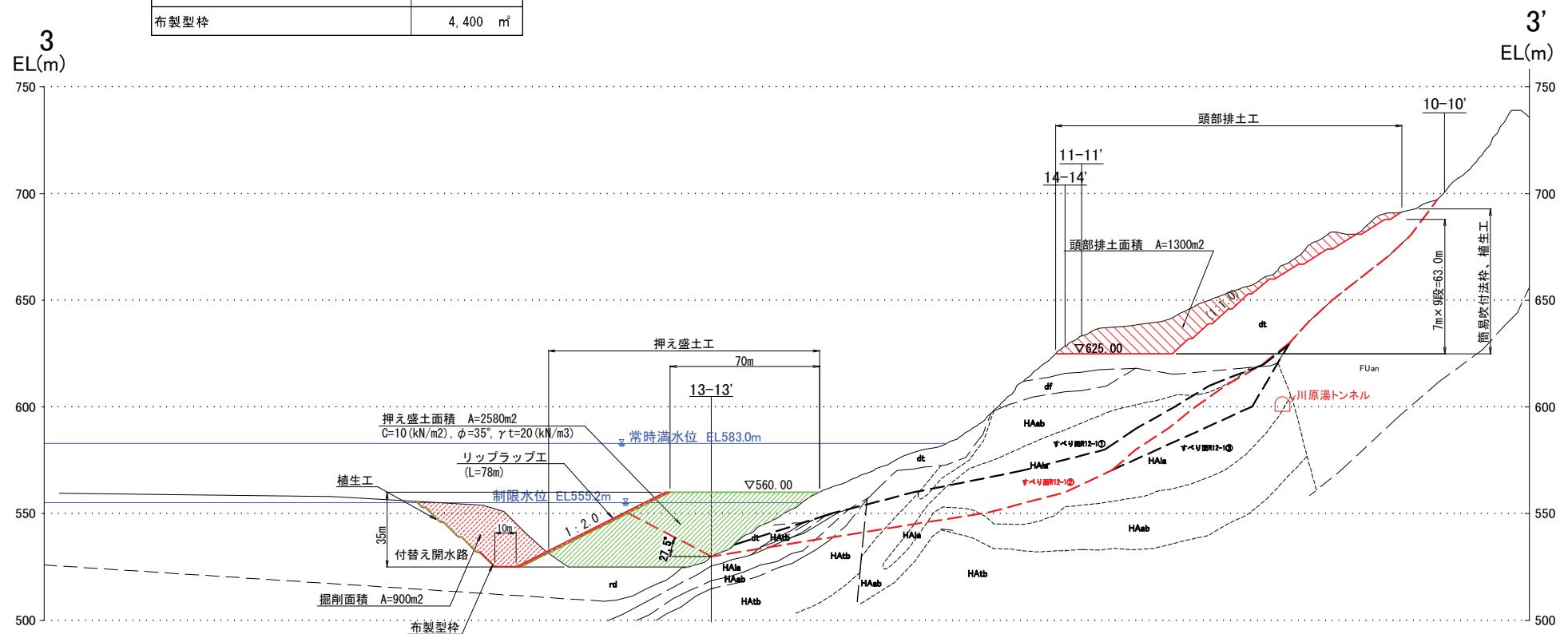


白岩沢地区 R12-1②ブロック対策工断面図 排土工+盛土工

表 概算工事数量

工種・種別・規格	数量
掘削工	130,000 m3
法面工（簡易吹付法枠、植生工）	9,400 m1
リップラップ工	18,000 m1
盛土工	600,000 m3
掘削工	150,000 m3
法面工（簡易吹付法枠、モルタル吹付工）	5,500 m1
布製型枠	4,400 m1

3-3' 断面図



$$\begin{aligned}\gamma &= 22 \text{ (kN/m}^3\text{)} \\ C &= 25 \text{ (kN/m}^2\text{)} \\ \phi &= 22.8 \text{ (度)}\end{aligned}$$

湛水計算
 $F_{smin} = 0.893$
 $P_{rmax} = 16821.6 \text{ (KN/m)}$

→ 頭部排土
 $F_s = 1.008$
 $P_r = 3902.6 \text{ (KN/m)}$

押え盛土
 $F_s = 1.218$
 $P_r = -15384.0 \text{ (KN)}$

湛水計算
 $F_s = 1.053$
(最小安全率)

$$\leqslant \boxed{Pfs = 1.05}$$

A3 S=1:2,000

白岩沢地区 R12-2ブロック対策工断面図 盛土工

8

EL(m)

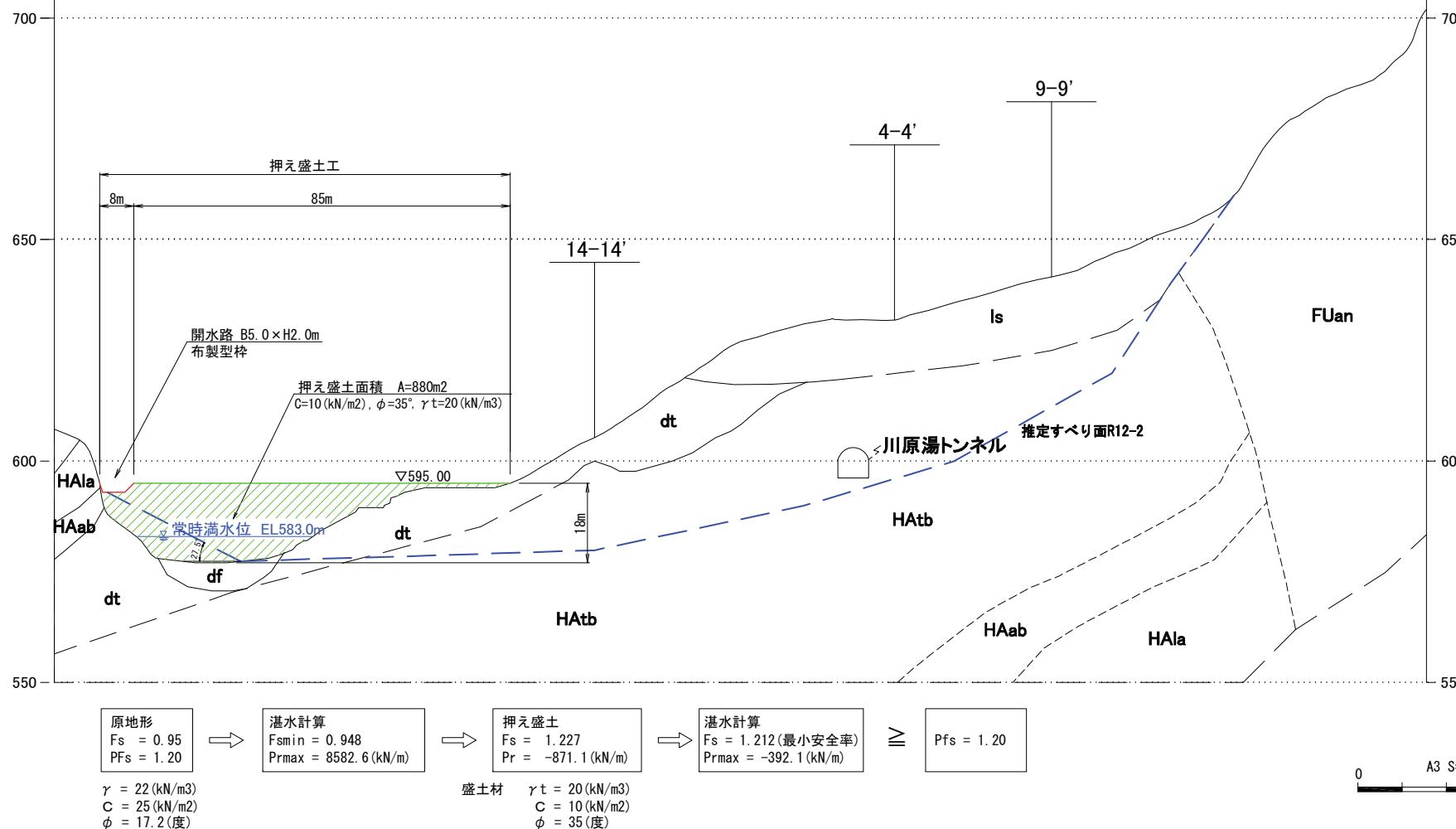
8-8' 断面図

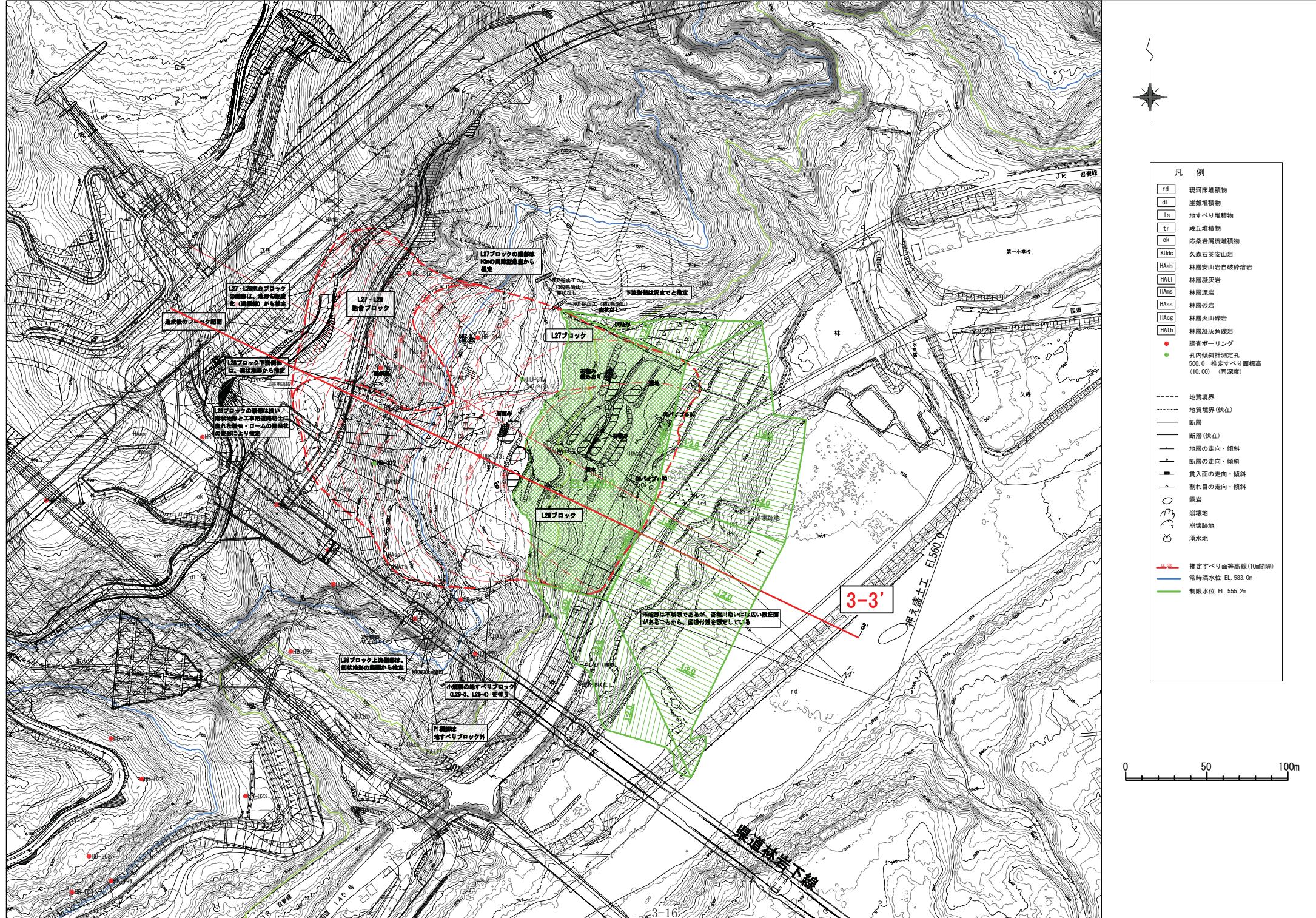
8

EL(m)

表 概算工事数量

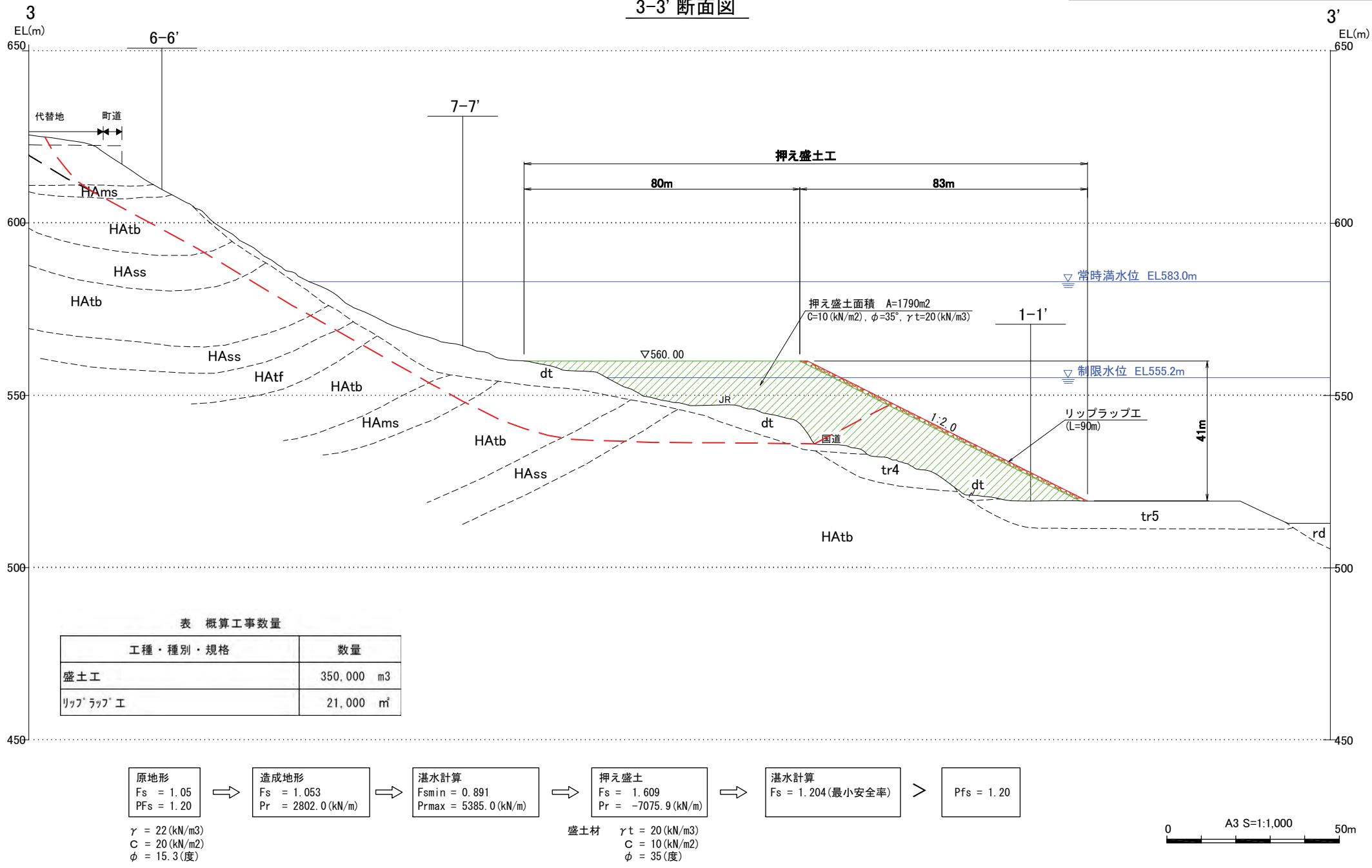
工種・種別・規格	数量
盛土工	350,000 m ³
法面工（植生シート）	12,000 m ²
布製型枠	6,700 m ²

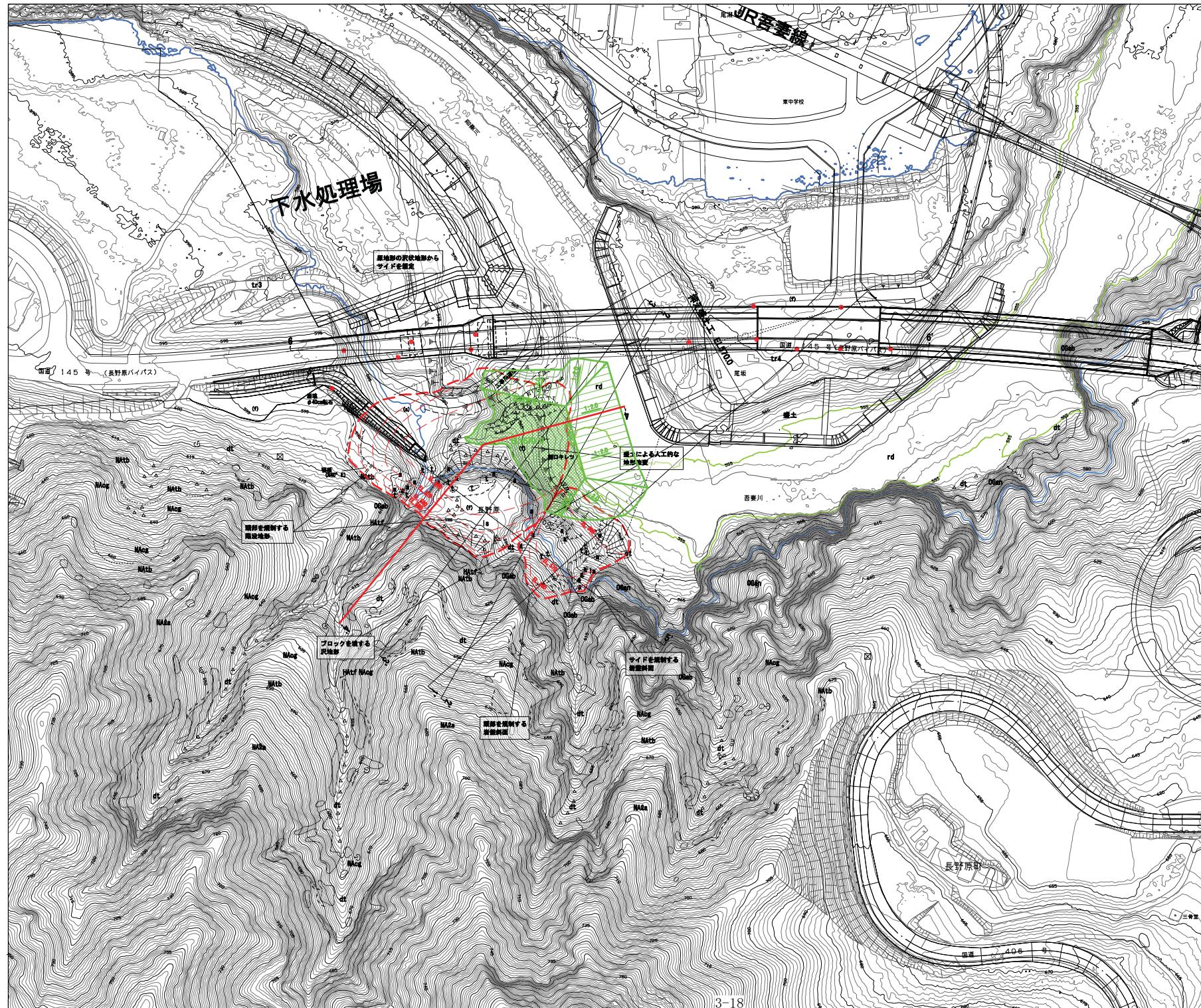




久森沢地区
L28ブロック対策工断面図
盛土工

3-3' 断面図

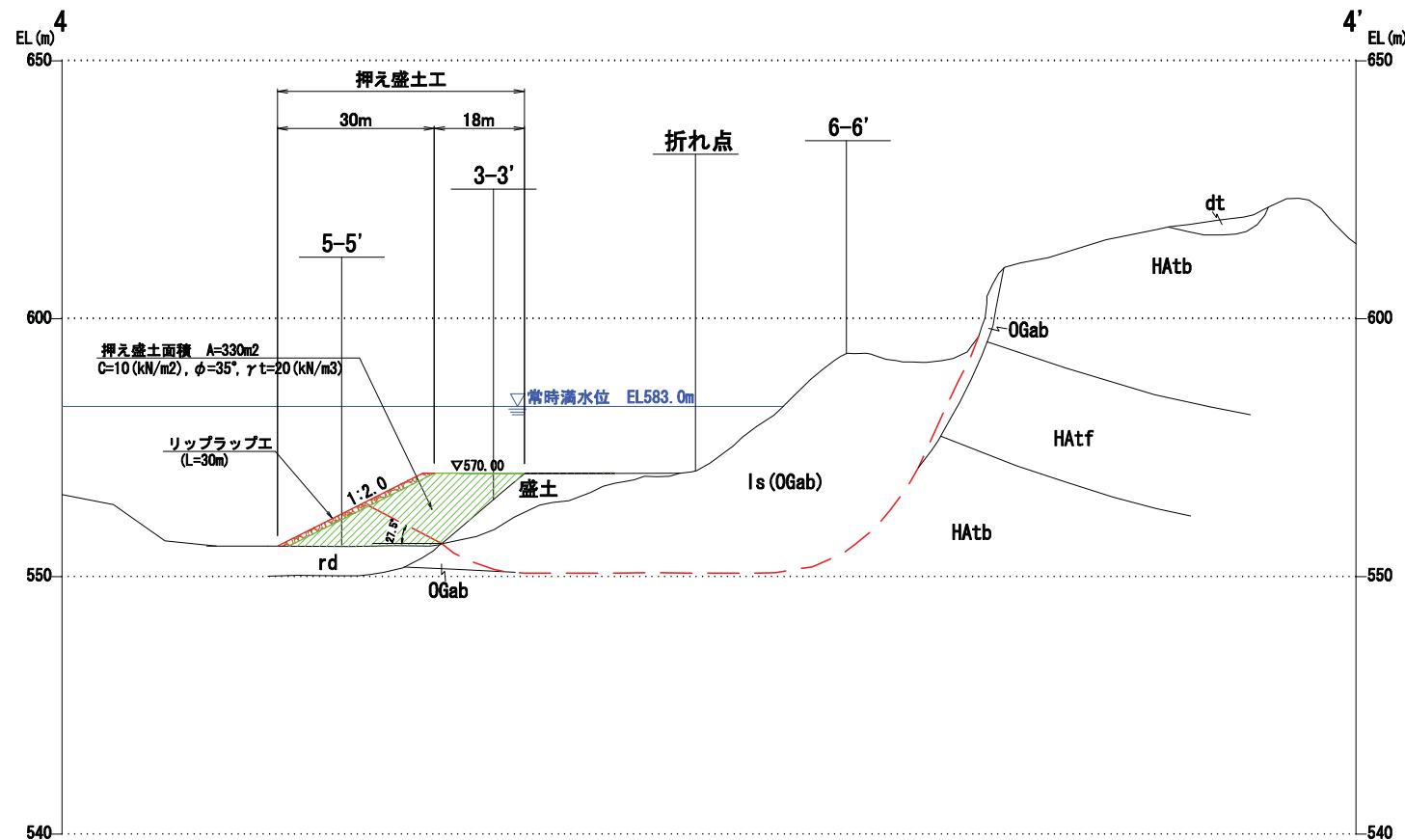




凡例	
rd	現河床堆植物
dt	底盤堆植物
ls	地すべり堆植物
tr	飛丘地植物
MAta	長野原層安山岩溶岩
MAtb	長野原層灰角砾岩
MAg	長野原層砾岩
Ogb	小倉安山岩自凝鉄鉱
Ogm	小倉安山岩
HAtf	林層基底岩
HAtb	林層源底岩
●	調査ボーリング
—	地質境界
···	地質境界(伏在)
—	断面
——	断面(伏在)
—	地層の走向・傾斜
—	貢入面の走向・傾斜
—	割れ目の走向・傾斜
▲	露岩
○○	巨礫(a:Ogb, t:HAtb)
△△	崩壊地
△△	崩壊跡地
○○	漏水地
△△	しみ出し
■■■	推定すべり面等高線(10m間隔)
——	常時洪水位 EL. 583.0m
—	制限水位 EL. 555.2m

久々戸地区
R21-1ブロック対策工断面図
押え盛土工

4-4' 断面図



原地形
 $F_s = 1.05$
 $P_{fs} = 1.05$

造成地形
 $F_s = 1.144$
 $P_r = -1065.1 \text{ (kN/m)}$

湛水計算
 $F_{min} = 0.87$
 $P_{rmax} = 1968.5 \text{ (kN/m)}$

押え盛土
 $F_s = 1.564$
 $P_r = -4838.1 \text{ (kN/m)}$

湛水計算
 $F_{min} = 1.087$
 $P_{rmax} = -347.6 \text{ (kN/m)}$

\geq
 $P_{fs} = 1.05$

$\gamma = 22 \text{ (kN/m}^3\text{)}$
 $C = 25 \text{ (kN/m}^2\text{)}$
 $\phi = 12.4 \text{ (度)}$

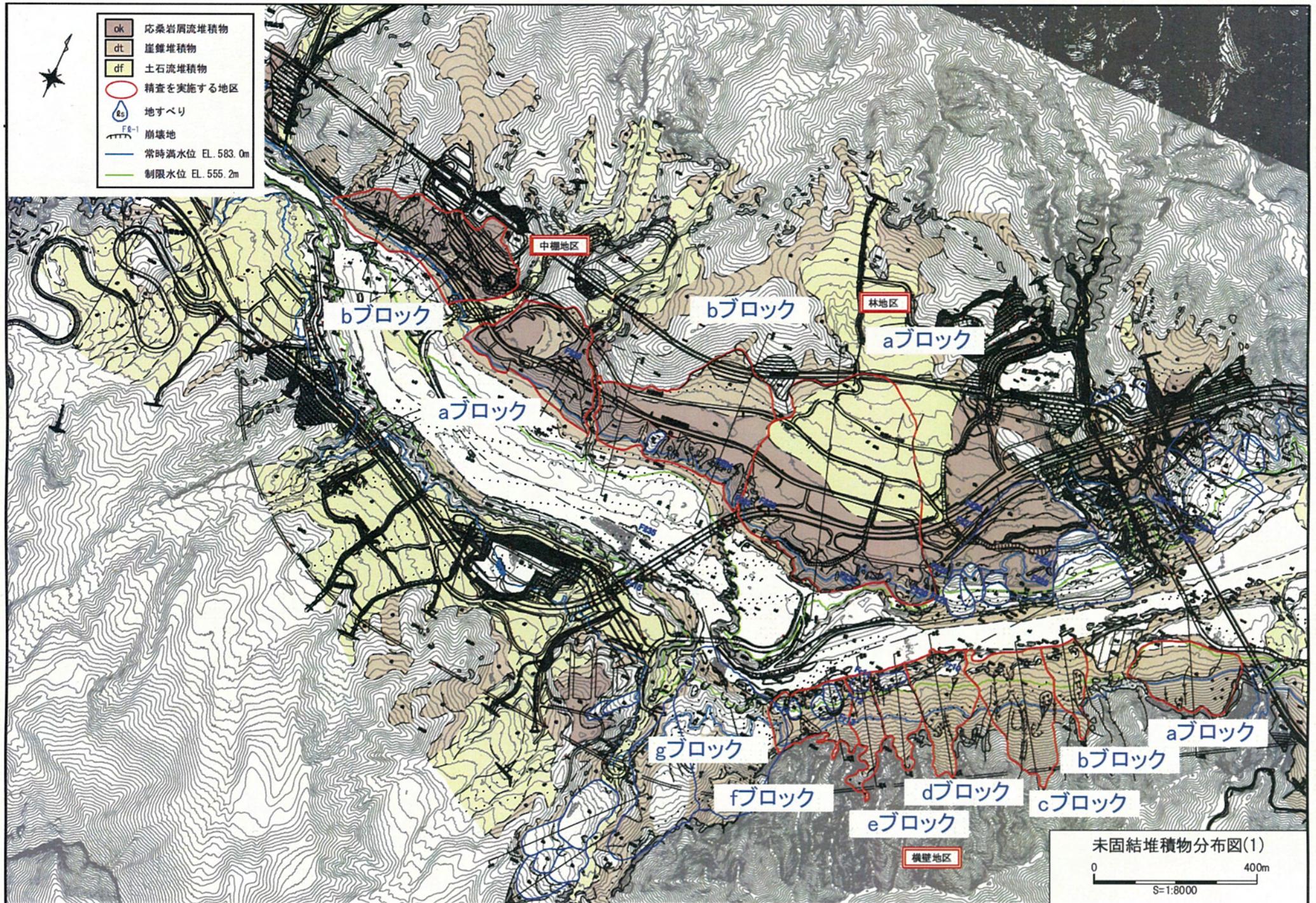
盛土材
 $\gamma t = 20 \text{ (kN/m}^3\text{)}$
 $C = 10 \text{ (kN/m}^2\text{)}$
 $\phi = 35 \text{ (度)}$

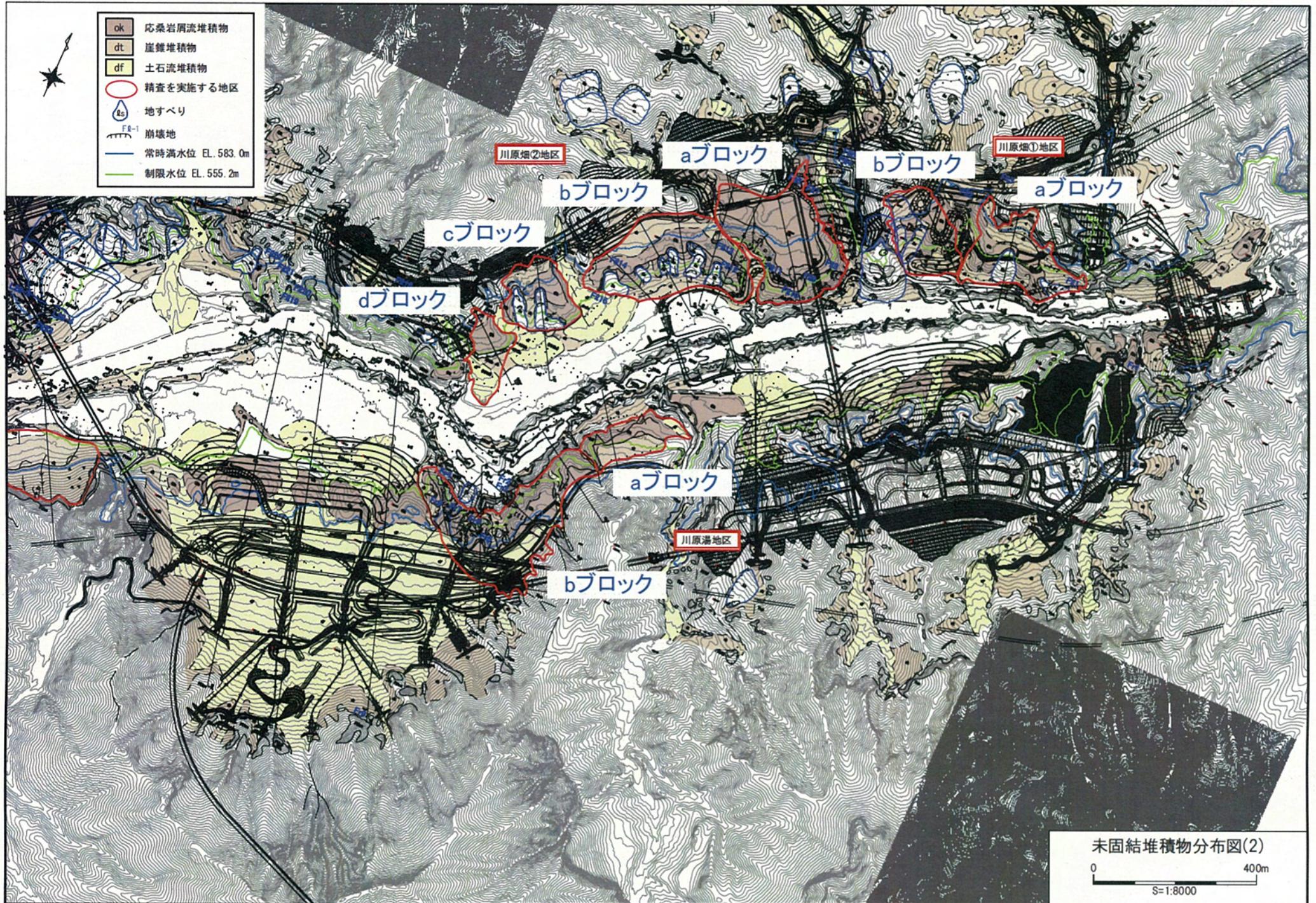
0 A3 S=1:1,000 50m

ハッ場ダム貯水池内未固結堆積物斜面

事　項	要　点	備　考
4. 未固結堆積物斜面の抽出	<p>貯水池周辺斜面の未固結堆積物斜面の既往資料収集・整理、現地踏査を実施し、調査・対策検討の必要性の再評価を実施した。</p> <p>未固結堆積物斜面内の崩壊の発生しうる範囲を特定した上で、測線を決定、安定解析を実施した。その上で、モデル断面における対策工の概略比較検討を行い、未固結堆積物斜面に対する最適な対策工を検討した。</p> <pre> graph TD Start[6地区19箇所からStart] --> Step1[既往資料収集・整理 現地踏査 崩壊範囲の推定] Step1 --> Step2[検討の必要性の再評価 評価対象箇所の決定] Step2 --> Step3[解析測線の決定 湛水前の安全率の設定] Step3 --> Step4[未固結堆積物の 土質定数・単位体積重量等の 安定解析条件の設定] Step4 --> Step5{湛水による 安全率の評価 円弧発生範囲の特定} Step5 -- "Fs=1.00未満" --> Step6[最適対策工の検討] Step6 --> END[END] </pre> <p>※土石流堆積物は、未固結堆積物の中でも一度水締めを経験していることから、湛水の影響が小さいと推定されるので、評価対象から除外した。（「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針（案）・同解説」P2-10）</p>	

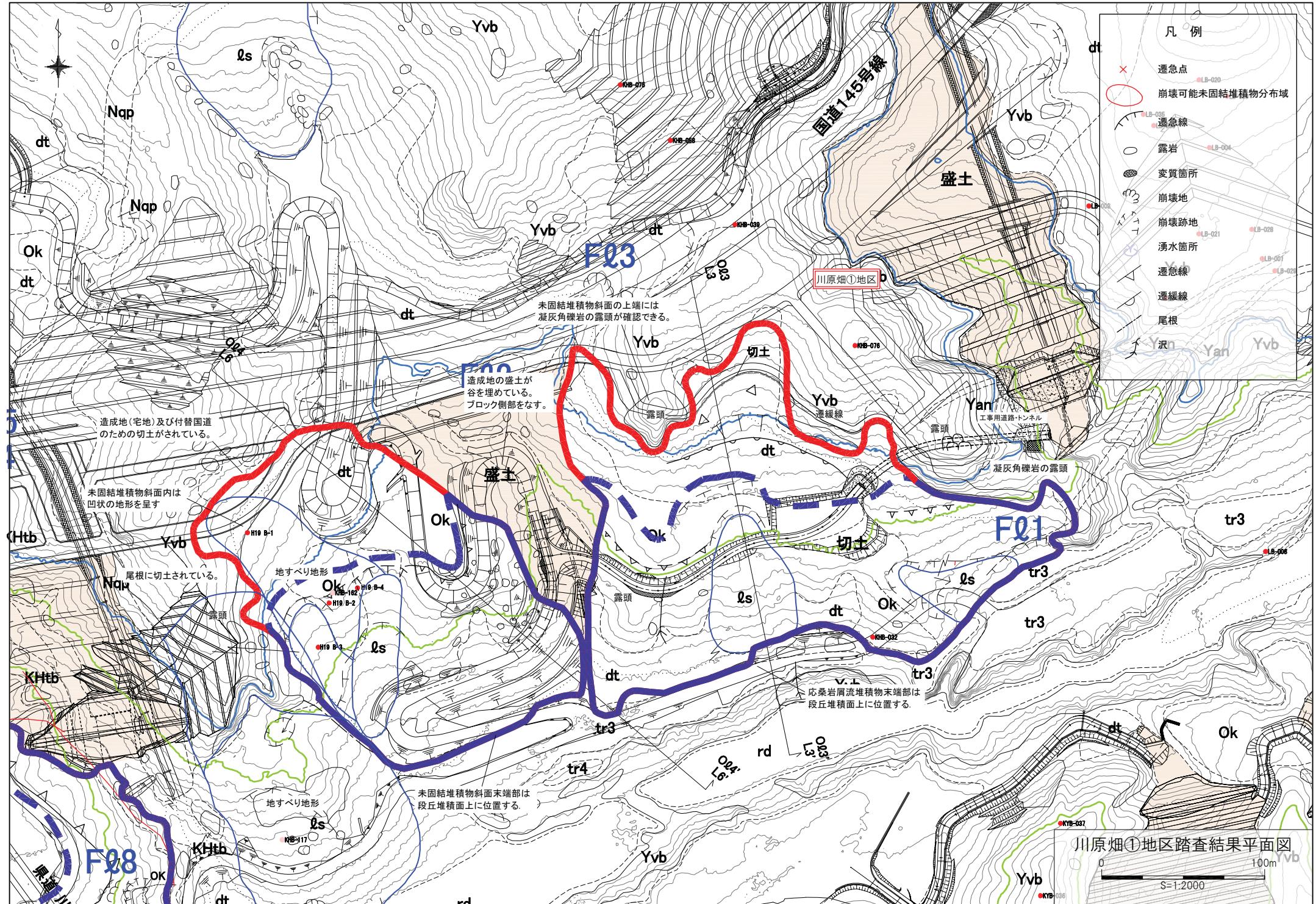
ハッ場ダム貯水池周辺未固結堆積物斜面の対策工検討フロー

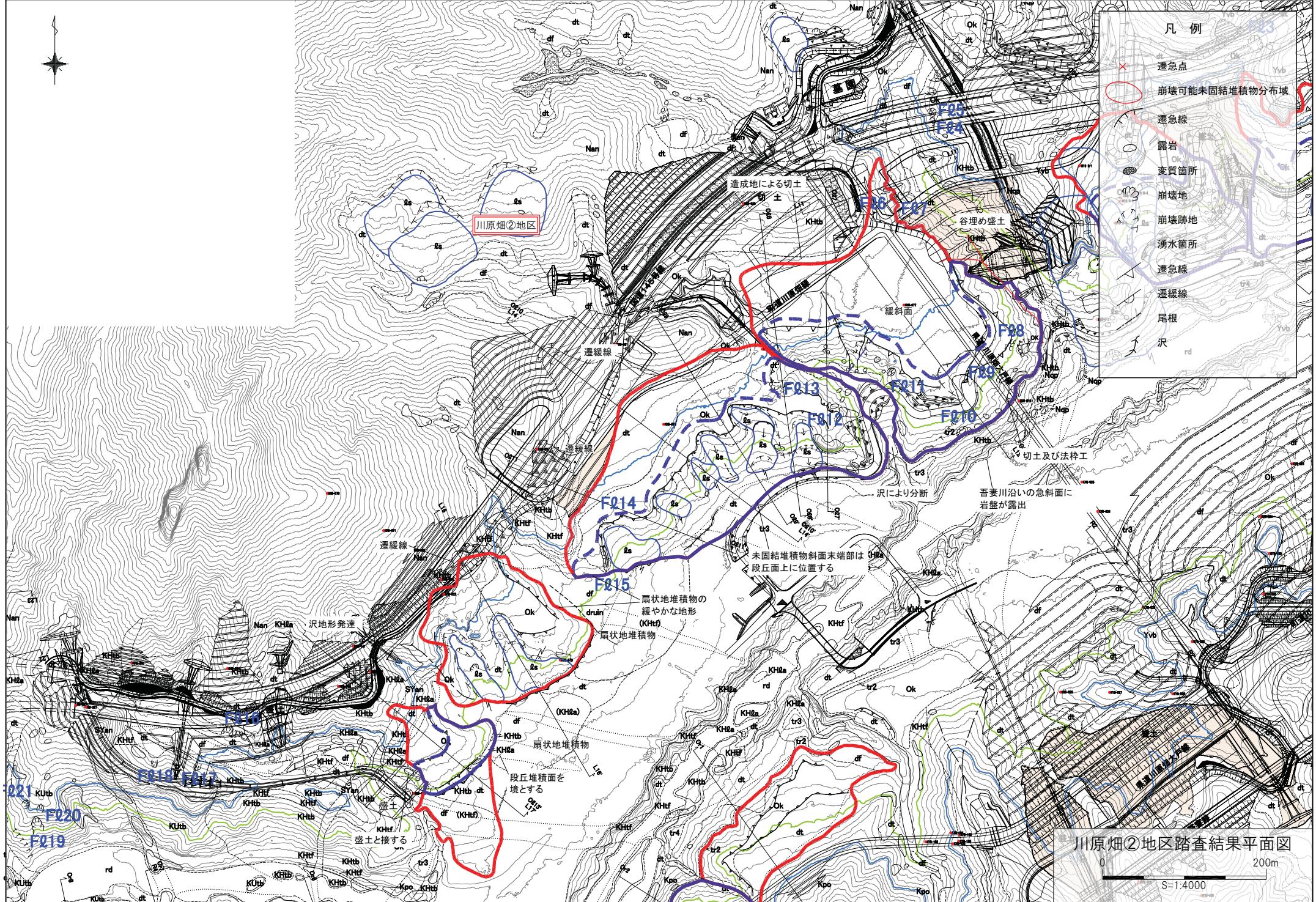


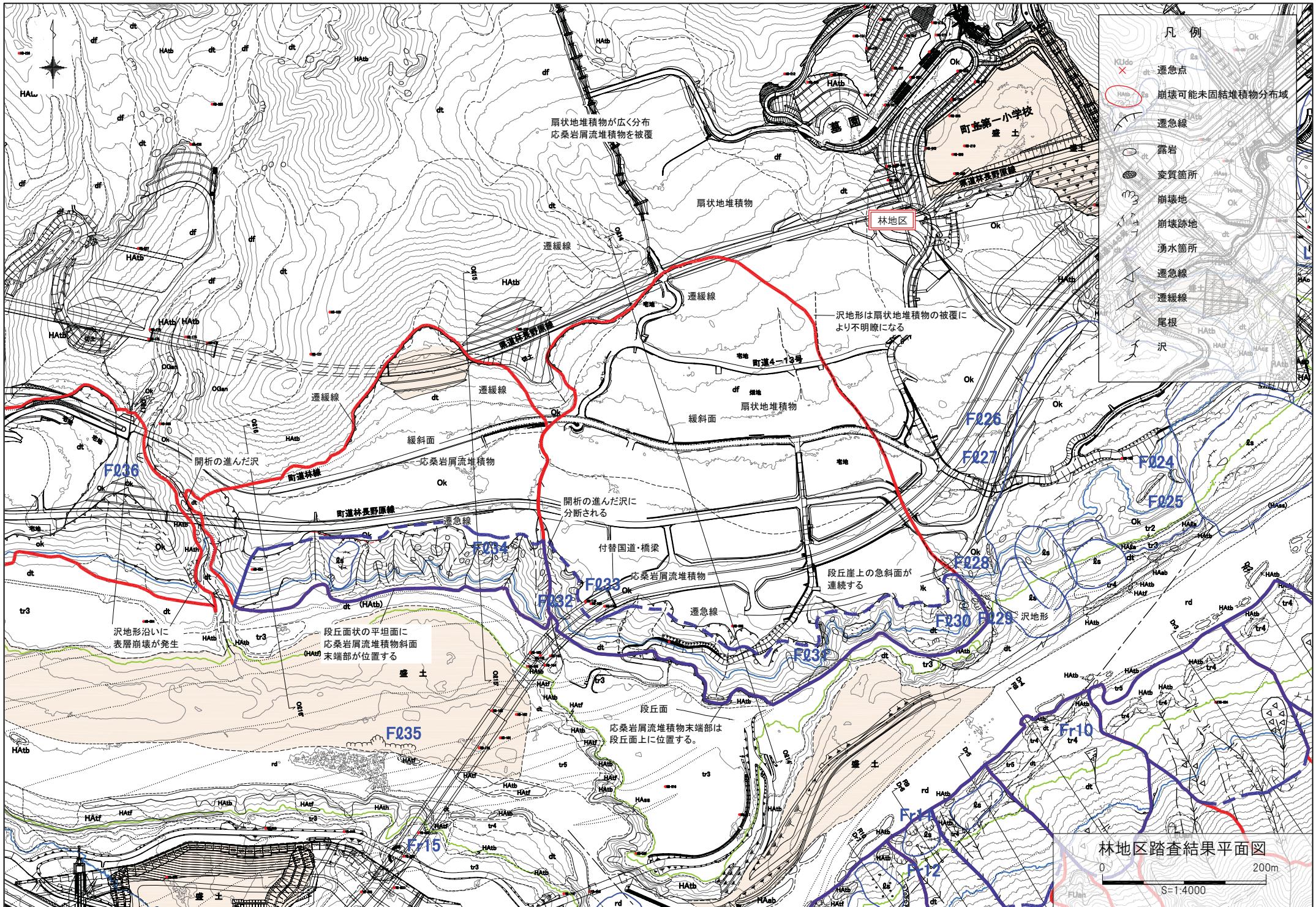


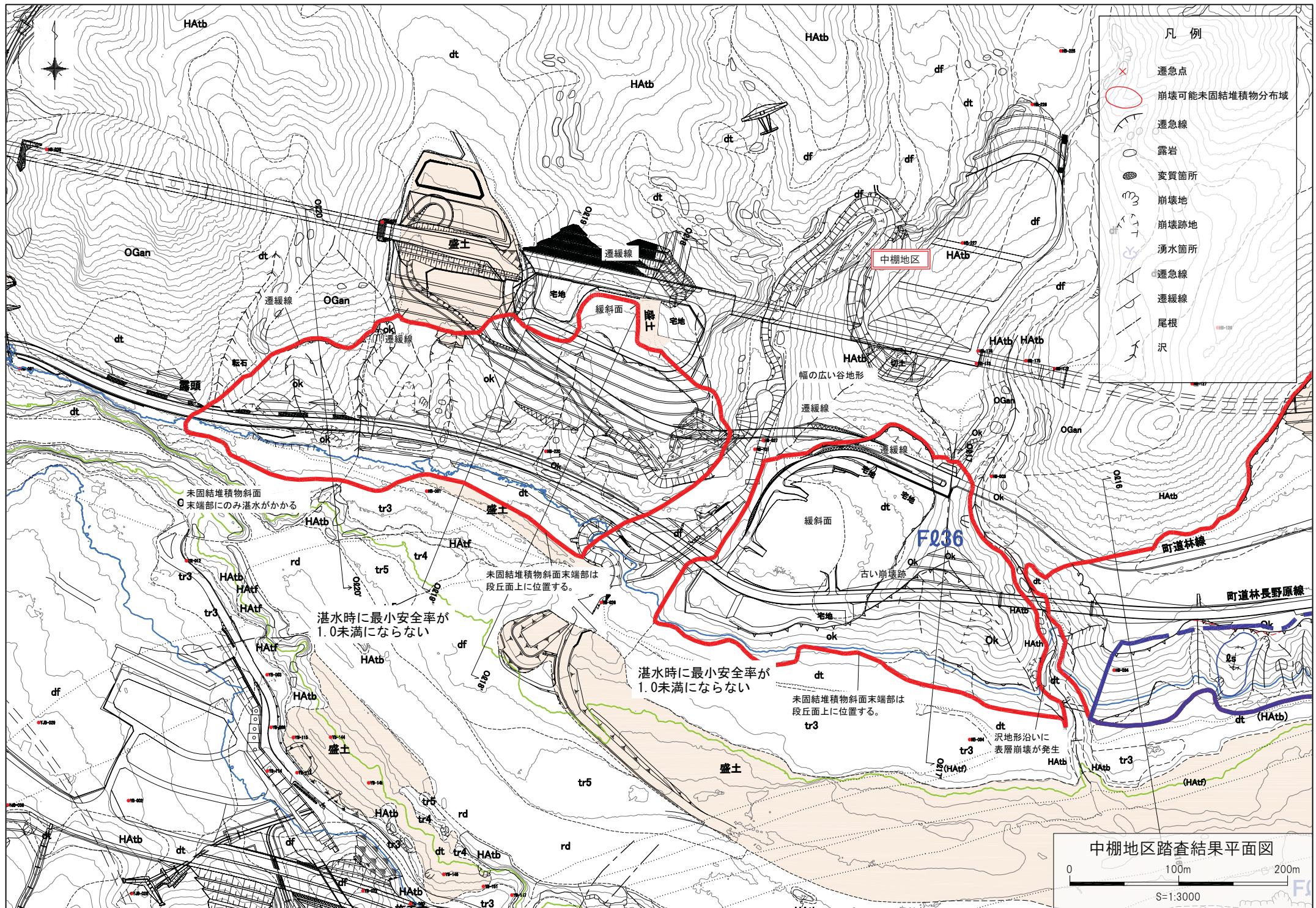
八ヶ場ダム貯水池内未固結堆積物斜面

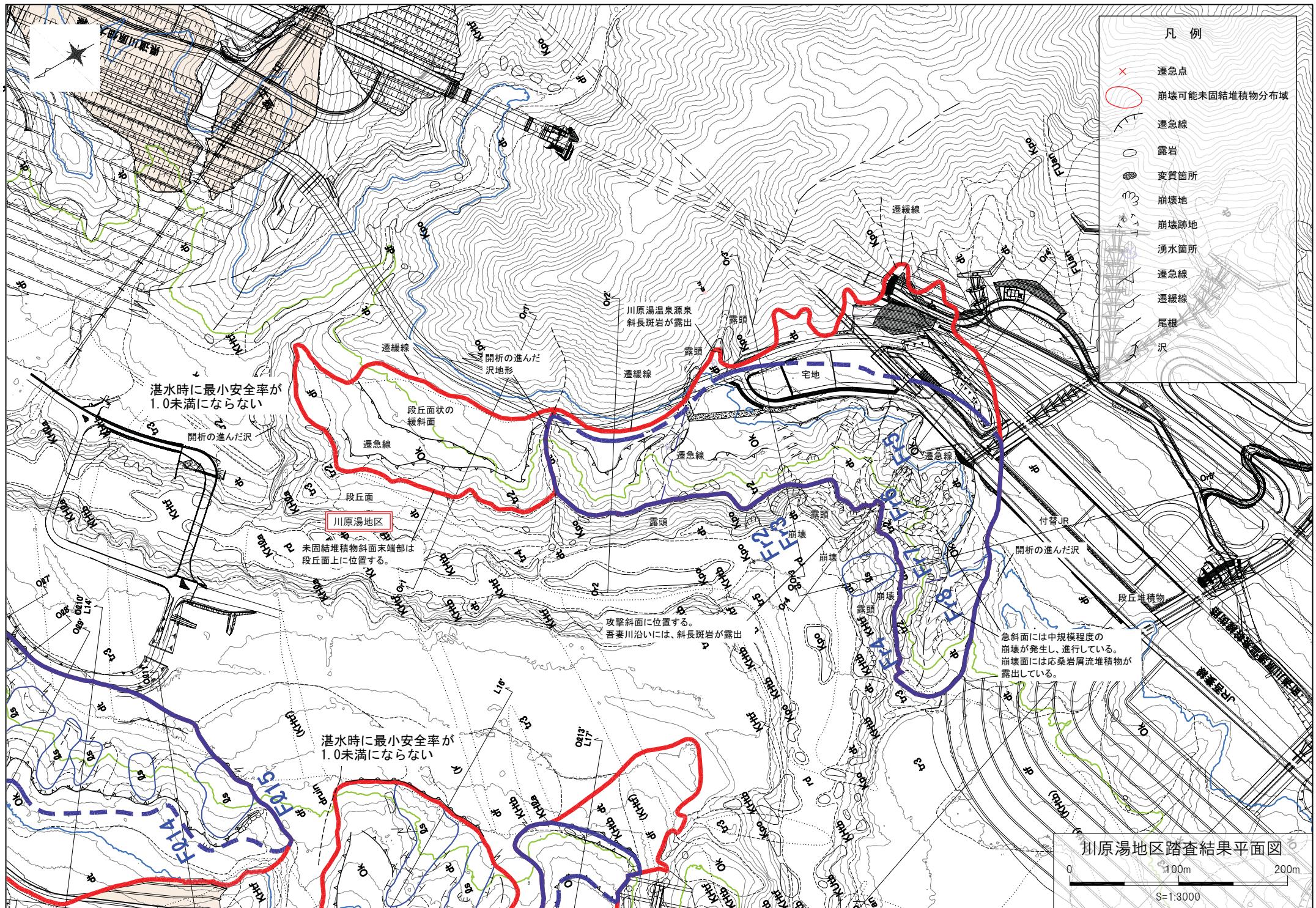
事　項	要　点	備　考
(1) 安全率 1.0 未満の範囲	<p>これまでに、未固結堆積物斜面の分布を示したが、これらの未固結堆積物斜面全体(赤い線の範囲)が、湛水の影響によってその全てが不安定化するわけではないと推定する。試行円弧による湛水時の最小安全率が 1.0 未満の範囲を推定すると、次項以降の青い破線で示した範囲である。</p> <p>青い破線で示した範囲は、湛水時に最小安全率 1.0 未満の円弧が発生する。したがつて、この範囲の中にある保全対象をそのブロックの保全対象物とした。</p>	

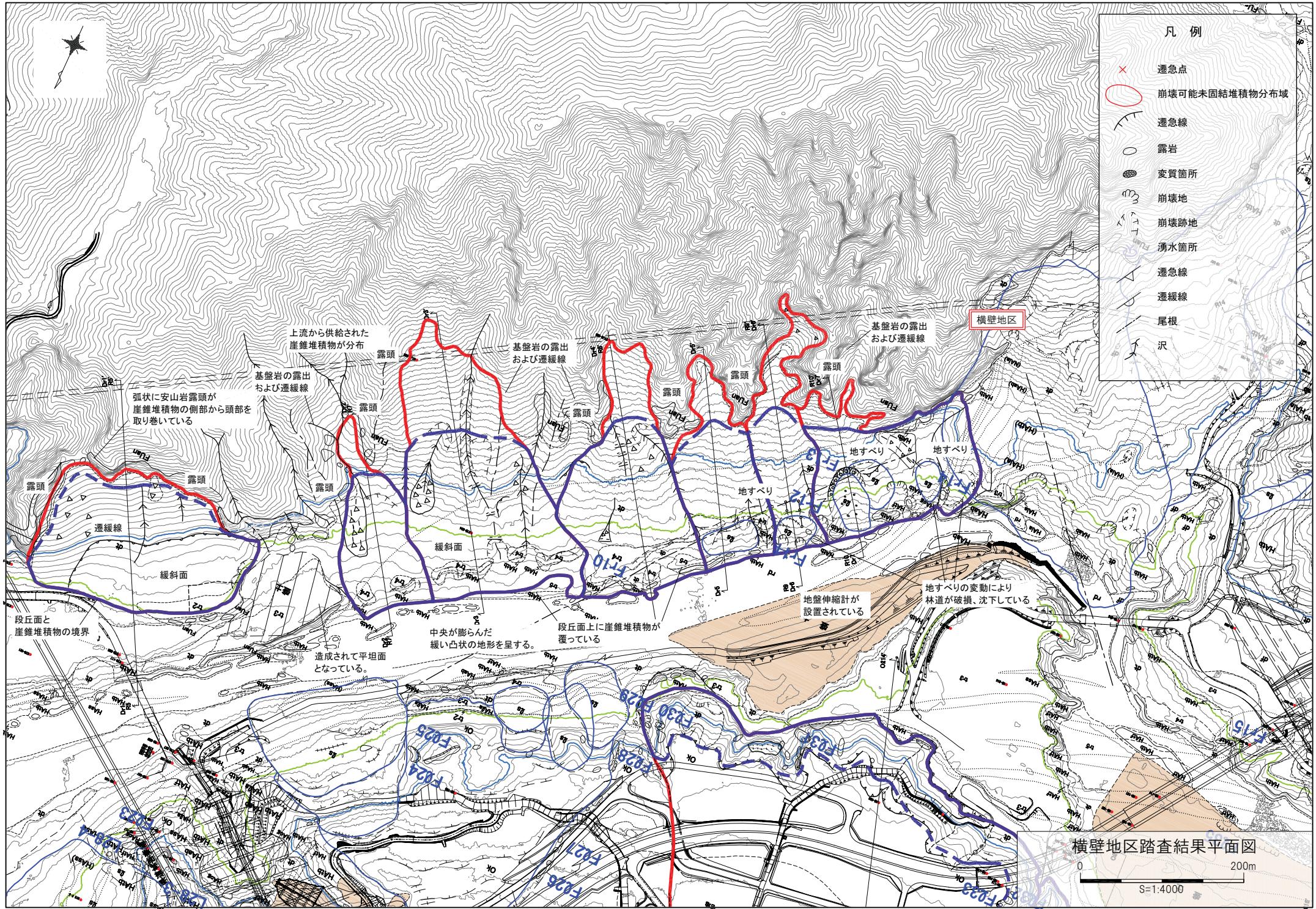


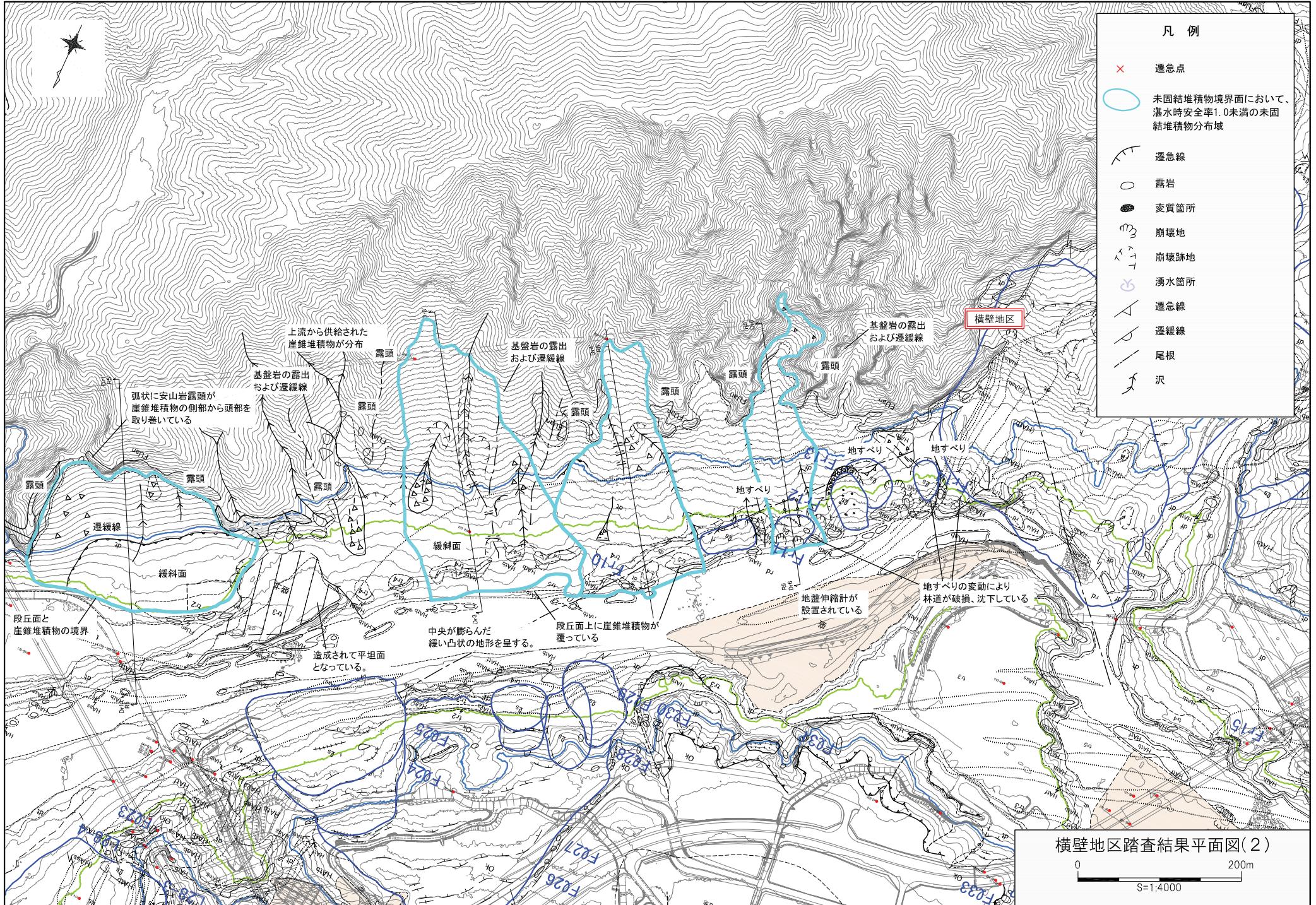












ハッ場ダム貯水池内未固結堆積物斜面

事 項	要 点													備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
5. 未固結堆積物斜面精査の必要性の再評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説」により、未固結堆積物斜面の再評価を実施。湛水の影響を受ける未固結堆積物斜面として、6地区19ブロックを抽出し、貯水池周辺の重要な施設である、造成地、付替JR、町道が保全対象物として位置する川原湯地区bを精査優先度Iに分類した。残りの18箇所は、保全対象が、その他の貯水池周辺斜面であるため、必要に応じて精査を実施する精査優先度IIに分類された。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
表 未固結堆積物斜面再評価結果一覧表																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地 区</th> <th rowspan="2">ブロック No.</th> <th rowspan="2">測 線 赤字：主測線 黒字：副測線</th> <th colspan="2">地質と分布形状</th> <th colspan="9">未固結堆積物斜面の規模</th> <th rowspan="2">保全対象物</th> <th rowspan="2">区 分 ○ダム施設にかかる斜面 ○貯水池周辺の施設 ○その他の貯水池斜面</th> <th rowspan="2">優先度</th> </tr> <tr> <th>地 質 ok : 応桑岩屑流 堆積物 dt : 崩壊堆積物</th> <th>上端標高 (標高m)</th> <th>下端標高 (標高m)</th> <th>斜面勾配 (°)</th> <th>湛水の 有無</th> <th>水没割合 (水没深m)</th> <th>河川縦断 延長 L (m)</th> <th>斜面長 幅 W (m)</th> <th>面積 A (m²)</th> <th>厚さ D (m)</th> <th>体積 V (m³)</th> <th>規 模 小規模 : V<3万 中規模 : 3万≤V<40万 大規模 : 40万≤V<200万 超大規模 : V≥200万</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">川原畠 (1)</td><td>a</td><td>003-3'</td><td>ok</td><td>603</td><td>522</td><td>25</td><td>有</td><td>75% (61)</td><td>320</td><td>170</td><td>54,400</td><td>32</td><td>580,267</td><td>大規模</td><td>その他の貯水池斜面</td><td>II</td></tr> <tr> <td>b</td><td>004-4'</td><td>ok</td><td>594</td><td>528</td><td>17</td><td>有</td><td>83% (55)</td><td>160</td><td>220</td><td>35,200</td><td>50</td><td>586,667</td><td>大規模</td><td>その他の貯水池斜面</td><td>II</td></tr> <tr> <td rowspan="6">川原畠 (2)</td><td>a</td><td>006-6'</td><td>ok</td><td>603</td><td>531</td><td>14</td><td>有</td><td>72% (52)</td><td>230</td><td>280</td><td>64,400</td><td>46</td><td>987,467</td><td>大規模</td><td>その他の貯水池斜面</td><td>II</td></tr> <tr> <td rowspan="4">b</td><td>028-8'</td><td>ok</td><td>600</td><td>532</td><td>18</td><td>有</td><td>75% (51)</td><td rowspan="4">410</td><td rowspan="4">210</td><td rowspan="4">86,100</td><td rowspan="4">48</td><td rowspan="4">1,377,600</td><td rowspan="4">大規模</td><td rowspan="4">その他の貯水池斜面</td><td rowspan="4">II</td></tr> <tr> <td>029-9'</td><td>ok</td><td>600</td><td>534</td><td>17</td><td>有</td><td>74% (49)</td></tr> <tr> <td>0210-10'</td><td>ok</td><td>600</td><td>534</td><td>17</td><td>有</td><td>74% (49)</td></tr> <tr> <td>0211-11'</td><td>ok</td><td>588</td><td>536</td><td>14</td><td>有</td><td>90% (47)</td></tr> <tr> <td>c</td><td>L16-16'</td><td>ok</td><td>618</td><td>537</td><td>24</td><td>有</td><td>55% (46)</td><td>160</td><td>180</td><td>28,800</td><td>22</td><td>211,200</td><td>中規模</td><td>その他の貯水池斜面</td><td>II</td></tr> <tr> <td rowspan="3">林</td><td>d</td><td>0213-13'</td><td>ok</td><td>580</td><td>553</td><td>8</td><td>有</td><td>100% (30)</td><td>120</td><td>190</td><td>22,800</td><td>11</td><td>83,600</td><td>中規模</td><td>その他の貯水池斜面</td><td>II</td></tr> <tr> <td>a</td><td>0214-14'</td><td>ok</td><td>636</td><td>564</td><td>8</td><td>有</td><td>26% (19)</td><td>480</td><td>540</td><td>259,200</td><td>58</td><td>5,011,200</td><td>超大規模</td><td>その他の貯水池斜面</td><td>II</td></tr> <tr> <td>b</td><td>0215-15'</td><td>ok</td><td>636</td><td>564</td><td>11</td><td>有</td><td>26% (19)</td><td>420</td><td>370</td><td>155,400</td><td>55</td><td>2,849,000</td><td>超大規模</td><td>その他の貯水池斜面</td><td>II</td></tr> <tr> <td rowspan="4">中棚</td><td>a</td><td>0216-16'</td><td>ok</td><td>628</td><td>569</td><td>9</td><td>有</td><td>24% (14)</td><td rowspan="4">450</td><td rowspan="4">220</td><td rowspan="4">99,000</td><td rowspan="4">36</td><td rowspan="4">1,188,000</td><td rowspan="4">大規模</td><td rowspan="4">その他の貯水池斜面</td><td rowspan="4">II</td></tr> <tr> <td rowspan="3">b</td><td>0217-17'</td><td>ok</td><td>603</td><td>568</td><td>8</td><td>有</td><td>43% (15)</td></tr> <tr> <td>0218-18'</td><td>ok</td><td>656</td><td>576</td><td>20</td><td>有</td><td>9% (7)</td></tr> <tr> <td>0219-19'</td><td>ok</td><td>640</td><td>580</td><td>15</td><td>有</td><td>5% (3)</td></tr> <tr> <td rowspan="5">川原湯</td><td>a</td><td>0220-20'</td><td>ok</td><td>633</td><td>582</td><td>13</td><td>有</td><td>2% (1)</td><td rowspan="5">440</td><td rowspan="5">240</td><td rowspan="5">81,600</td><td rowspan="5">54</td><td rowspan="5">1,468,800</td><td rowspan="5">大規模</td><td rowspan="5">その他の貯水池斜面</td><td rowspan="5">II</td></tr> <tr> <td rowspan="4">b</td><td>021-1'</td><td>ok</td><td>567</td><td>534</td><td>22</td><td>有</td><td>100% (49)</td></tr> <tr> <td>02-2'</td><td>ok</td><td>575</td><td>536</td><td>12</td><td>有</td><td>100% (47)</td></tr> <tr> <td>03-3'</td><td>ok</td><td>602</td><td>539</td><td>19</td><td>有</td><td>70% (44)</td></tr> <tr> <td>04-4'</td><td>ok</td><td>620</td><td>540</td><td>24</td><td>有</td><td>54% (43)</td></tr> <tr> <td rowspan="8">横壁</td><td>a</td><td>05-5'</td><td>ok</td><td>622</td><td>540</td><td>24</td><td>有</td><td>52% (43)</td><td rowspan="8">440</td><td rowspan="8">180</td><td rowspan="8">79,200</td><td rowspan="8">54</td><td rowspan="8">1,425,600</td><td rowspan="8">大規模</td><td rowspan="8">貯水池周辺の施設</td><td rowspan="8">I</td></tr> <tr> <td rowspan="5">b</td><td>Dr1-1'</td><td>dt</td><td>637</td><td>545</td><td>19</td><td>有</td><td>41% (38)</td></tr> <tr> <td>Dr2-2'</td><td>dt</td><td>586</td><td>518</td><td>22</td><td>有</td><td>96% (65)</td></tr> <tr> <td>Dr3-3'</td><td>dt</td><td>693</td><td>538</td><td>27</td><td>有</td><td>29% (45)</td></tr> <tr> <td>Dr4-4'</td><td>dt</td><td>669</td><td>545</td><td>22</td><td>有</td><td>31% (38)</td></tr> <tr> <td>Dr5-5'</td><td>dt</td><td>640</td><td>532</td><td>24</td><td>有</td><td>47% (51)</td></tr> <tr> <td>f</td><td>Dr6-6'</td><td>dt</td><td>649</td><td>522</td><td>28</td><td>有</td><td>48% (61)</td></tr> <tr> <td>g</td><td>Dr7-7'</td><td>dt</td><td>609</td><td>524</td><td>30</td><td>有</td><td>72% (59)</td></tr> </tbody> </table>	地 区	ブロック No.	測 線 赤字：主測線 黒字：副測線	地質と分布形状		未固結堆積物斜面の規模									保全対象物	区 分 ○ダム施設にかかる斜面 ○貯水池周辺の施設 ○その他の貯水池斜面	優先度	地 質 ok : 応桑岩屑流 堆積物 dt : 崩壊堆積物	上端標高 (標高m)	下端標高 (標高m)	斜面勾配 (°)	湛水の 有無	水没割合 (水没深m)	河川縦断 延長 L (m)	斜面長 幅 W (m)	面積 A (m²)	厚さ D (m)	体積 V (m³)	規 模 小規模 : V<3万 中規模 : 3万≤V<40万 大規模 : 40万≤V<200万 超大規模 : V≥200万	川原畠 (1)	a	003-3'	ok	603	522	25	有	75% (61)	320	170	54,400	32	580,267	大規模	その他の貯水池斜面	II	b	004-4'	ok	594	528	17	有	83% (55)	160	220	35,200	50	586,667	大規模	その他の貯水池斜面	II	川原畠 (2)	a	006-6'	ok	603	531	14	有	72% (52)	230	280	64,400	46	987,467	大規模	その他の貯水池斜面	II	b	028-8'	ok	600	532	18	有	75% (51)	410	210	86,100	48	1,377,600	大規模	その他の貯水池斜面	II	029-9'	ok	600	534	17	有	74% (49)	0210-10'	ok	600	534	17	有	74% (49)	0211-11'	ok	588	536	14	有	90% (47)	c	L16-16'	ok	618	537	24	有	55% (46)	160	180	28,800	22	211,200	中規模	その他の貯水池斜面	II	林	d	0213-13'	ok	580	553	8	有	100% (30)	120	190	22,800	11	83,600	中規模	その他の貯水池斜面	II	a	0214-14'	ok	636	564	8	有	26% (19)	480	540	259,200	58	5,011,200	超大規模	その他の貯水池斜面	II	b	0215-15'	ok	636	564	11	有	26% (19)	420	370	155,400	55	2,849,000	超大規模	その他の貯水池斜面	II	中棚	a	0216-16'	ok	628	569	9	有	24% (14)	450	220	99,000	36	1,188,000	大規模	その他の貯水池斜面	II	b	0217-17'	ok	603	568	8	有	43% (15)	0218-18'	ok	656	576	20	有	9% (7)	0219-19'	ok	640	580	15	有	5% (3)	川原湯	a	0220-20'	ok	633	582	13	有	2% (1)	440	240	81,600	54	1,468,800	大規模	その他の貯水池斜面	II	b	021-1'	ok	567	534	22	有	100% (49)	02-2'	ok	575	536	12	有	100% (47)	03-3'	ok	602	539	19	有	70% (44)	04-4'	ok	620	540	24	有	54% (43)	横壁	a	05-5'	ok	622	540	24	有	52% (43)	440	180	79,200	54	1,425,600	大規模	貯水池周辺の施設	I	b	Dr1-1'	dt	637	545	19	有	41% (38)	Dr2-2'	dt	586	518	22	有	96% (65)	Dr3-3'	dt	693	538	27	有	29% (45)	Dr4-4'	dt	669	545	22	有	31% (38)	Dr5-5'	dt	640	532	24	有	47% (51)	f	Dr6-6'	dt	649	522	28	有	48% (61)	g	Dr7-7'	dt	609	524	30	有	72% (59)
地 区				ブロック No.	測 線 赤字：主測線 黒字：副測線	地質と分布形状		未固結堆積物斜面の規模										保全対象物	区 分 ○ダム施設にかかる斜面 ○貯水池周辺の施設 ○その他の貯水池斜面	優先度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	地 質 ok : 応桑岩屑流 堆積物 dt : 崩壊堆積物	上端標高 (標高m)	下端標高 (標高m)			斜面勾配 (°)	湛水の 有無	水没割合 (水没深m)	河川縦断 延長 L (m)	斜面長 幅 W (m)	面積 A (m²)	厚さ D (m)	体積 V (m³)	規 模 小規模 : V<3万 中規模 : 3万≤V<40万 大規模 : 40万≤V<200万 超大規模 : V≥200万																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
川原畠 (1)	a	003-3'	ok	603	522	25	有	75% (61)	320	170	54,400	32	580,267	大規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	b	004-4'	ok	594	528	17	有	83% (55)	160	220	35,200	50	586,667	大規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
川原畠 (2)	a	006-6'	ok	603	531	14	有	72% (52)	230	280	64,400	46	987,467	大規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	b	028-8'	ok	600	532	18	有	75% (51)	410	210	86,100	48	1,377,600	大規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		029-9'	ok	600	534	17	有	74% (49)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		0210-10'	ok	600	534	17	有	74% (49)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		0211-11'	ok	588	536	14	有	90% (47)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	c	L16-16'	ok	618	537	24	有	55% (46)	160	180	28,800	22	211,200	中規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
林	d	0213-13'	ok	580	553	8	有	100% (30)	120	190	22,800	11	83,600	中規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	a	0214-14'	ok	636	564	8	有	26% (19)	480	540	259,200	58	5,011,200	超大規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	b	0215-15'	ok	636	564	11	有	26% (19)	420	370	155,400	55	2,849,000	超大規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
中棚	a	0216-16'	ok	628	569	9	有	24% (14)	450	220	99,000	36	1,188,000	大規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	b	0217-17'	ok	603	568	8	有	43% (15)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		0218-18'	ok	656	576	20	有	9% (7)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		0219-19'	ok	640	580	15	有	5% (3)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
川原湯	a	0220-20'	ok	633	582	13	有	2% (1)	440	240	81,600	54	1,468,800	大規模	その他の貯水池斜面	II																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	b	021-1'	ok	567	534	22	有	100% (49)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		02-2'	ok	575	536	12	有	100% (47)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		03-3'	ok	602	539	19	有	70% (44)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		04-4'	ok	620	540	24	有	54% (43)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
横壁	a	05-5'	ok	622	540	24	有	52% (43)	440	180	79,200	54	1,425,600	大規模	貯水池周辺の施設	I																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	b	Dr1-1'	dt	637	545	19	有	41% (38)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		Dr2-2'	dt	586	518	22	有	96% (65)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		Dr3-3'	dt	693	538	27	有	29% (45)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		Dr4-4'	dt	669	545	22	有	31% (38)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		Dr5-5'	dt	640	532	24	有	47% (51)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	f	Dr6-6'	dt	649	522	28	有	48% (61)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	g	Dr7-7'	dt	609	524	30	有	72% (59)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

八ヶ場ダム貯水池内未固結堆積物斜面

事 項	要 点					備 考
	保全対象は、未固結堆積物斜面の範囲の中で最小安全率が 1.0 未満になる範囲に入ったものとしている。					※最小安全率 1.0 未満の範囲は 9 章に青破線で図示
表 滞水に伴う未固結堆積物斜面の精査の必要箇所数						
の規模 保全対象		未固結堆積物斜面	超大	大	中	小
ダム施設	堤体、管理所、通信施設、取水施設、放流設備、発電設備等		0	0	0	0
貯水池周辺の施設	家屋、国道、主要地方道、迂回路のない地方道、橋梁、トンネル、鉄道等		0	1:川原湯 b ブロック	0	0
	迂回路のある地方道、公園等		0	0	0	0
	林道、管理用道路、係船設備、流域処理施設、貯砂ダム等		0	0	0	0
その他の貯水池周辺斜面		2 : 林 a, b ブロック	7 : 川原畑①a, b ブロック 川原畑②a, b ブロック 中棚 a, b ブロック 横壁 a	9 : 川原湯 a ブロック 川原畑②c, d ブロック 横壁 b, c, d, e, f, g ブロック	0	

(「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説」, p2-11, 表 2.2 に加筆)

I:精査を実施する。

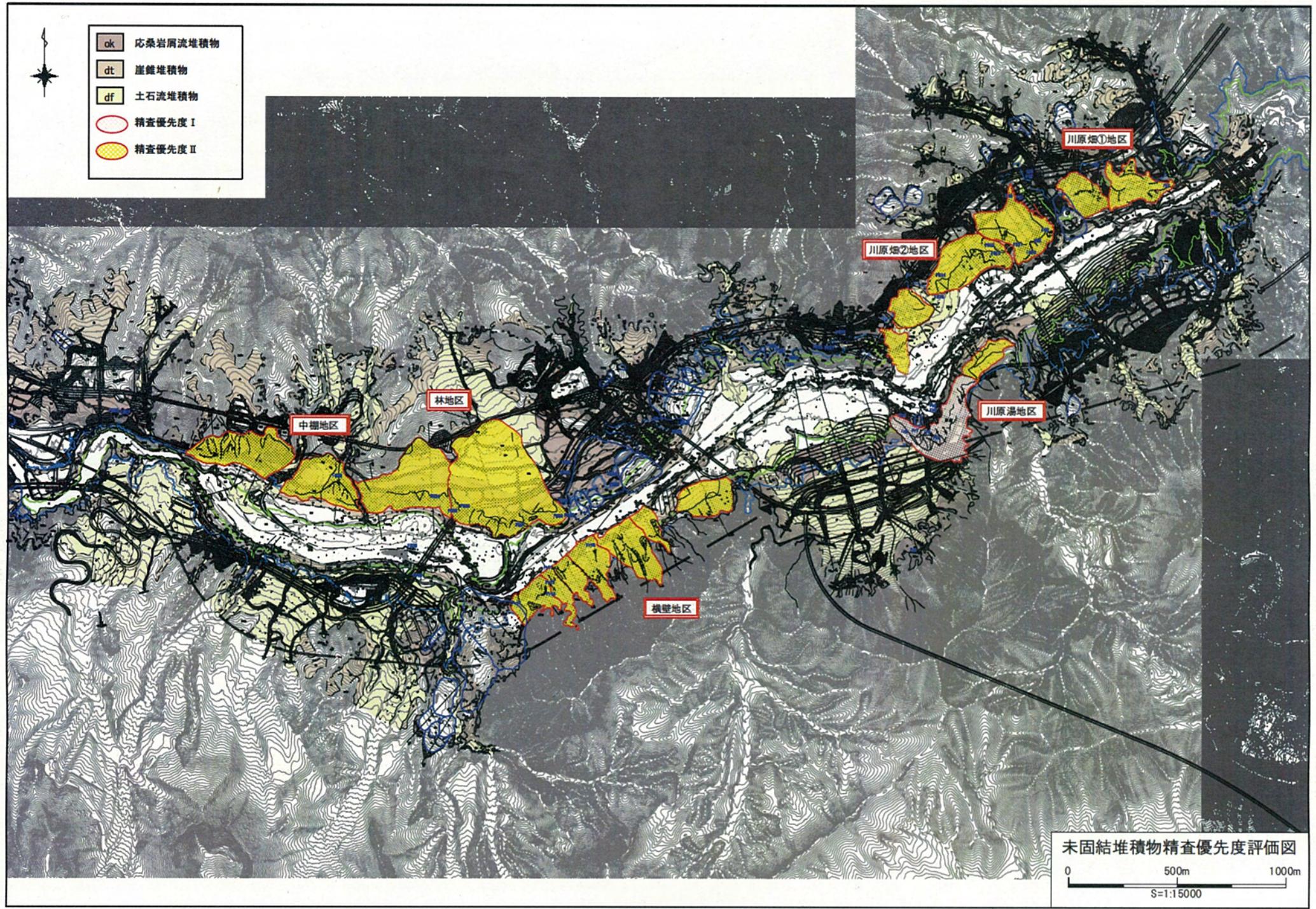
1箇所

II:必要に応じて精査を実施する。

18 箇所

III:原則として精査を実施しない。

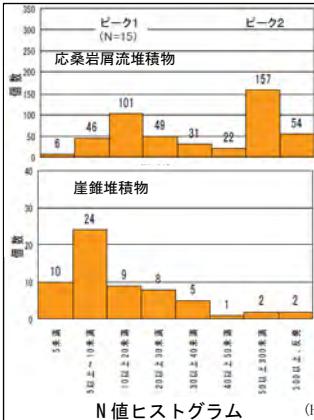
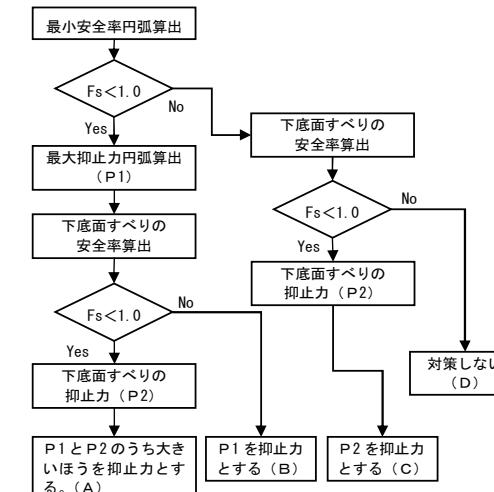
0 箇所



ハッ場ダム貯水池内未固結堆積物斜面

事 項	要 点		備 考																																																																				
5.1 安定解析の手法と条件	<p>(1) 安定解析手法 安定解析の手法を以下に示す。</p> <p>貯水池周辺の地すべり等の安定解析手法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>変動現象 条件</th><th>崖錐等の未固結堆積物の変動</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>すべり面</td><td> ① 円弧すべり 試行すべり法によって得られる最小の安全率を与える円弧 ②下底面すべり 未固結堆積物と基盤との境界すべり </td></tr> <tr> <td>計算式</td><td>二次元極限平衡法「簡便 (Fellenius) 法」</td></tr> <tr> <td>水没部の取扱い</td><td>基準水面法</td></tr> </tbody> </table> <p>貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)・同解説、p4-3、表4.2に加筆</p> <p>(2) 安定計算条件 安定解析の諸条件を以下の表に示す。</p> <p>安定解析条件と内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>解析条件</th><th>内 容</th><th colspan="2">採 用 値</th><th>根 拠</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未固結堆積物の湿潤状態における土塊の単位体積重量</td><td>未固結堆積物の構成材料を考慮した土塊の単位体積重量とする。</td><td>ok 層</td><td>$\gamma_t = 19.0 \text{ kN/m}^3$</td><td rowspan="2">過年度調査結果 (H19 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務ほか)に基づき設定 (次頁参照)。</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>dt 層</td><td>$\gamma_t = 18.0 \text{ kN/m}^3$</td></tr> <tr> <td>未固結堆積物の土質強度定数 (c, φ)</td><td>未固結堆積物斜面については、逆算法を用いず、土質試験によって求めた値を採用する。未固結堆積物の土質強度定数は過年度の調査で実施した土質試験によって求めた値とする。</td><td>層準</td><td>c (kN/m²)</td><td rowspan="3">過年度調査結果 (H19 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務ほか)に基づき設定 (次頁参照)。</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>ok 層</td><td>0</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>dt 层</td><td>35</td></tr> <tr> <td>湛水前の地下水位</td><td>原則として複数年以上の地下水位観測結果に基づいて決定するが、十分な計測データが得られない場合は、すべり面より下に地下水位を設定する。</td><td colspan="2">すべり面より下に地下水位を設定する</td><td>対策工を設計する上で、安全側の判断として、未固結堆積物内に地下水位のない状態とする。</td></tr> <tr> <td>残留間隙水圧の残留率</td><td>未固結堆積物斜面の地形、地質、地下水位、貯水操作、対策工の種類などに応じて適切に設定する。</td><td colspan="2">50%</td><td>応桑岩屑流堆積物や崖錐堆積物は基質に粘土分を含み、透水性が高いとは言えないため、安全側を考慮して50%とする。</td></tr> <tr> <td>貯水位変動範囲</td><td>貯水池運用計画に基づく貯水位の変動範囲とする。</td><td colspan="2"> 上昇時：末端標高⇒常時満水位 下降時：常時満水位⇒洪水時制限水位 </td><td>ハッ場ダムの運用計画に基づき、末端標高から常時満水位、常時満水位から洪水期制限水位と設定する。</td></tr> <tr> <td>未固結堆積物斜面の湛水前の初期安全率 (Fs₀)</td><td>未固結堆積物の土質強度定数を用いた安定計算により、斜面の湛水前の安全率 Fs₀ を求める。</td><td colspan="2">$Fs_0 \geq 1.00$</td><td>現地踏査の結果、斜面変動の微候となる事象が認められなかっただため、現状の斜面の安全率は $Fs_0 \geq 1.0$ である。</td></tr> <tr> <td>計画安全率</td><td>保全対象の種類及び保全する斜面に応じた重要度によって設定する。</td><td>保全対象</td><td>計画安全率</td><td rowspan="3">貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)に準拠した。造成宅地等の重要度の高い保全対象を含む斜面については $Fsp=1.20$、その他については $Fsp=1.05$ と設定した。</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>重要度大</td><td>$Fsp=1.20$</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>その他</td><td>$Fsp=1.05$</td></tr> </tbody> </table>	変動現象 条件	崖錐等の未固結堆積物の変動	すべり面	① 円弧すべり 試行すべり法によって得られる最小の安全率を与える円弧 ②下底面すべり 未固結堆積物と基盤との境界すべり	計算式	二次元極限平衡法「簡便 (Fellenius) 法」	水没部の取扱い	基準水面法	解析条件	内 容	採 用 値		根 拠	未固結堆積物の湿潤状態における土塊の単位体積重量	未固結堆積物の構成材料を考慮した土塊の単位体積重量とする。	ok 層	$\gamma_t = 19.0 \text{ kN/m}^3$	過年度調査結果 (H19 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務ほか)に基づき設定 (次頁参照)。			dt 層	$\gamma_t = 18.0 \text{ kN/m}^3$	未固結堆積物の土質強度定数 (c, φ)	未固結堆積物斜面については、逆算法を用いず、土質試験によって求めた値を採用する。未固結堆積物の土質強度定数は過年度の調査で実施した土質試験によって求めた値とする。	層準	c (kN/m ²)	過年度調査結果 (H19 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務ほか)に基づき設定 (次頁参照)。			ok 層	0			dt 层	35	湛水前の地下水位	原則として複数年以上の地下水位観測結果に基づいて決定するが、十分な計測データが得られない場合は、すべり面より下に地下水位を設定する。	すべり面より下に地下水位を設定する		対策工を設計する上で、安全側の判断として、未固結堆積物内に地下水位のない状態とする。	残留間隙水圧の残留率	未固結堆積物斜面の地形、地質、地下水位、貯水操作、対策工の種類などに応じて適切に設定する。	50%		応桑岩屑流堆積物や崖錐堆積物は基質に粘土分を含み、透水性が高いとは言えないため、安全側を考慮して50%とする。	貯水位変動範囲	貯水池運用計画に基づく貯水位の変動範囲とする。	上昇時：末端標高⇒常時満水位 下降時：常時満水位⇒洪水時制限水位		ハッ場ダムの運用計画に基づき、末端標高から常時満水位、常時満水位から洪水期制限水位と設定する。	未固結堆積物斜面の湛水前の初期安全率 (Fs ₀)	未固結堆積物の土質強度定数を用いた安定計算により、斜面の湛水前の安全率 Fs ₀ を求める。	$Fs_0 \geq 1.00$		現地踏査の結果、斜面変動の微候となる事象が認められなかっただため、現状の斜面の安全率は $Fs_0 \geq 1.0$ である。	計画安全率	保全対象の種類及び保全する斜面に応じた重要度によって設定する。	保全対象	計画安全率	貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)に準拠した。造成宅地等の重要度の高い保全対象を含む斜面については $Fsp=1.20$ 、その他については $Fsp=1.05$ と設定した。			重要度大	$Fsp=1.20$			その他	$Fsp=1.05$		
変動現象 条件	崖錐等の未固結堆積物の変動																																																																						
すべり面	① 円弧すべり 試行すべり法によって得られる最小の安全率を与える円弧 ②下底面すべり 未固結堆積物と基盤との境界すべり																																																																						
計算式	二次元極限平衡法「簡便 (Fellenius) 法」																																																																						
水没部の取扱い	基準水面法																																																																						
解析条件	内 容	採 用 値		根 拠																																																																			
未固結堆積物の湿潤状態における土塊の単位体積重量	未固結堆積物の構成材料を考慮した土塊の単位体積重量とする。	ok 層	$\gamma_t = 19.0 \text{ kN/m}^3$	過年度調査結果 (H19 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務ほか)に基づき設定 (次頁参照)。																																																																			
		dt 層	$\gamma_t = 18.0 \text{ kN/m}^3$																																																																				
未固結堆積物の土質強度定数 (c, φ)	未固結堆積物斜面については、逆算法を用いず、土質試験によって求めた値を採用する。未固結堆積物の土質強度定数は過年度の調査で実施した土質試験によって求めた値とする。	層準	c (kN/m ²)	過年度調査結果 (H19 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務ほか)に基づき設定 (次頁参照)。																																																																			
		ok 層	0																																																																				
		dt 层	35																																																																				
湛水前の地下水位	原則として複数年以上の地下水位観測結果に基づいて決定するが、十分な計測データが得られない場合は、すべり面より下に地下水位を設定する。	すべり面より下に地下水位を設定する		対策工を設計する上で、安全側の判断として、未固結堆積物内に地下水位のない状態とする。																																																																			
残留間隙水圧の残留率	未固結堆積物斜面の地形、地質、地下水位、貯水操作、対策工の種類などに応じて適切に設定する。	50%		応桑岩屑流堆積物や崖錐堆積物は基質に粘土分を含み、透水性が高いとは言えないため、安全側を考慮して50%とする。																																																																			
貯水位変動範囲	貯水池運用計画に基づく貯水位の変動範囲とする。	上昇時：末端標高⇒常時満水位 下降時：常時満水位⇒洪水時制限水位		ハッ場ダムの運用計画に基づき、末端標高から常時満水位、常時満水位から洪水期制限水位と設定する。																																																																			
未固結堆積物斜面の湛水前の初期安全率 (Fs ₀)	未固結堆積物の土質強度定数を用いた安定計算により、斜面の湛水前の安全率 Fs ₀ を求める。	$Fs_0 \geq 1.00$		現地踏査の結果、斜面変動の微候となる事象が認められなかっただため、現状の斜面の安全率は $Fs_0 \geq 1.0$ である。																																																																			
計画安全率	保全対象の種類及び保全する斜面に応じた重要度によって設定する。	保全対象	計画安全率	貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針(案)に準拠した。造成宅地等の重要度の高い保全対象を含む斜面については $Fsp=1.20$ 、その他については $Fsp=1.05$ と設定した。																																																																			
		重要度大	$Fsp=1.20$																																																																				
		その他	$Fsp=1.05$																																																																				

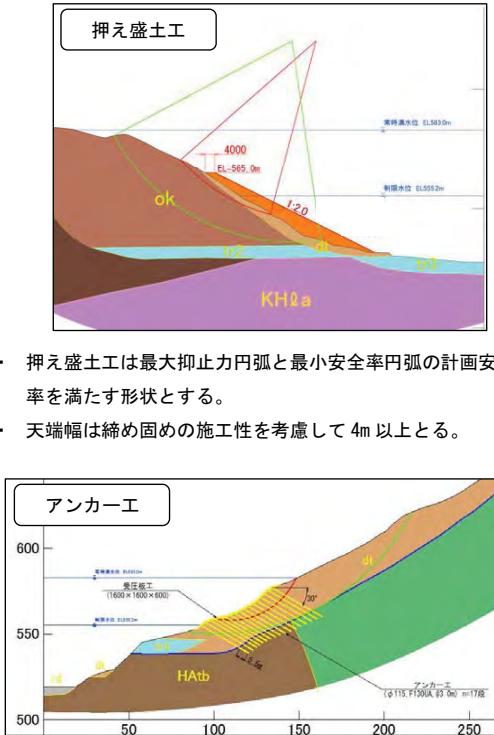
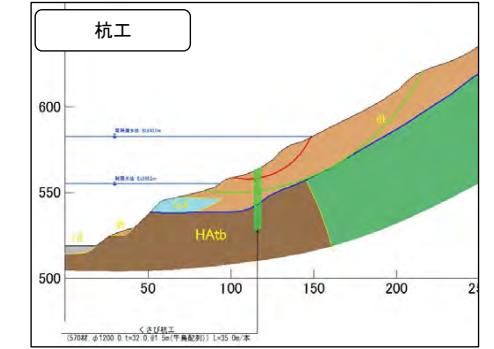
ハッ場ダム貯水池内未固結堆積物斜面

事 項	要 点	備 考																				
5.2 安定解析条件の根拠	<p>① 土塊の単位体積重量 過年度の調査における室内土質試験、現場密度試験により、応桑岩屑流堆積物(ok 層)の湿潤密度は 1.92 g/cm^3 という結果が得られたため、$\gamma_t = 19.0 \text{ kN/m}^3$ とした。崖錐堆積物 (dt 層) については、「緩い砂及び砂礫」と評価して $\gamma_t = 18.0 \text{ kN/m}^3$ とした（道路土工 摊壁工指針, p20 表 1-5, (社)日本道路協会）。</p> <p>② 土質強度定数 応桑岩屑流堆積物及び崖錐堆積物の粘着力 (c) と内部摩擦角 (ϕ) は、「H19 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務」において N 値から算出した検討結果を用いた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <table border="1" style="margin-top: 10px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>ビーグル (N=15)</th> <th>ビーグル 2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応桑岩屑流堆積物</td> <td>6, 46, 101, 49, 31, 22, 157, 54</td> </tr> <tr> <td>崖錐堆積物</td> <td>24, 9, 8, 5, 1, 2, 2</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 50%;"> <p style="text-align: center;">応桑岩屑流堆積物及び崖錐堆積物の土質強度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">状態区分</th> <th>推定方法</th> <th rowspan="3">地盤定数</th> <th rowspan="3">設定理由</th> </tr> <tr> <th>既往試験結果の整理</th> </tr> <tr> <th>N 値 (砂質土)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応桑岩屑流堆積物 ④砂質部 (礫分25%以下)</td> <td>$\phi' = 28.4^\circ \sim 40^\circ$ (ビーグル 1) $\phi' > 39.5^\circ \sim 49.5^\circ$ (ビーグル 2)</td> <td>$c = 0 \text{ kN/m}^2$ $\phi = 35^\circ$</td> <td>N 値ヒストグラムで明確に認められるビーグル 1 の推定値を参考に地盤定数を設定。</td> </tr> <tr> <td>崖錐堆積物 ④砂質部 (礫分25%以下)</td> <td>$\phi' = 24.2^\circ \sim 35^\circ$</td> <td>$c = 0 \text{ kN/m}^2$ $\phi = 30^\circ$</td> <td>N 値ヒストグラムで明確に認められるビーグル の推定値を参考に地盤定数を設定。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(H19 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務より抜粋)</p> </div> </div>	ビーグル (N=15)	ビーグル 2	応桑岩屑流堆積物	6, 46, 101, 49, 31, 22, 157, 54	崖錐堆積物	24, 9, 8, 5, 1, 2, 2	状態区分	推定方法	地盤定数	設定理由	既往試験結果の整理	N 値 (砂質土)	応桑岩屑流堆積物 ④砂質部 (礫分25%以下)	$\phi' = 28.4^\circ \sim 40^\circ$ (ビーグル 1) $\phi' > 39.5^\circ \sim 49.5^\circ$ (ビーグル 2)	$c = 0 \text{ kN/m}^2$ $\phi = 35^\circ$	N 値ヒストグラムで明確に認められるビーグル 1 の推定値を参考に地盤定数を設定。	崖錐堆積物 ④砂質部 (礫分25%以下)	$\phi' = 24.2^\circ \sim 35^\circ$	$c = 0 \text{ kN/m}^2$ $\phi = 30^\circ$	N 値ヒストグラムで明確に認められるビーグル の推定値を参考に地盤定数を設定。	
ビーグル (N=15)	ビーグル 2																					
応桑岩屑流堆積物	6, 46, 101, 49, 31, 22, 157, 54																					
崖錐堆積物	24, 9, 8, 5, 1, 2, 2																					
状態区分	推定方法	地盤定数	設定理由																			
	既往試験結果の整理																					
	N 値 (砂質土)																					
応桑岩屑流堆積物 ④砂質部 (礫分25%以下)	$\phi' = 28.4^\circ \sim 40^\circ$ (ビーグル 1) $\phi' > 39.5^\circ \sim 49.5^\circ$ (ビーグル 2)	$c = 0 \text{ kN/m}^2$ $\phi = 35^\circ$	N 値ヒストグラムで明確に認められるビーグル 1 の推定値を参考に地盤定数を設定。																			
崖錐堆積物 ④砂質部 (礫分25%以下)	$\phi' = 24.2^\circ \sim 35^\circ$	$c = 0 \text{ kN/m}^2$ $\phi = 30^\circ$	N 値ヒストグラムで明確に認められるビーグル の推定値を参考に地盤定数を設定。																			
5.3 安定解析結果	<p>③ 初期安全率 湛水前に変動している未固結堆積物斜面の安全率は $F_{S0} < 1.00$ と評価し、湛水前に変動の徵候が認められず安定している斜面の安全率は $F_{S0} \geq 1.00$ と評価する。 現地踏査の結果、亀裂の発生等の変動の徵候は認められなかった。そのため、本調査においては $F_{S0} \geq 1.00$ と設定する。</p> <p>④ 計画安全率 保全対象が家屋等（代替地）の重要度大のカテゴリーで、被害が発生した場合、社会的な影響が大きいことから計画安全率を上限値の 1.20 として検討する。その他貯水池周辺斜面は、名勝吾妻峠の景勝地等の景観上重要な地域を含まないことから、計画安全率を下限値の 1.05 として検討する。</p> <p>未固結堆積物斜面の安定計算のフローを図に示した。最小安全率円弧を算出し、最小安全率が 1.0 を下まわった場合、湛水の影響で不安定化する斜面と判断し、最大抑止力円弧の抑止力 (P_1 とする) を算出する。最小安全率円弧が必ずしも最大抑止力円弧にならないからである。一方、下底面すべりについて安全率を算出し、安全率が 1.0 を下まわるものについて抑止力 (P_2 とする) を算出する。P_1 と P_2 を比較して、抑止力の大きい方を採用する（図中の A）。同様に、図中の B は、試行円弧の最小安全率は 1.0 未満であるが、下底面すべりの安全率が 1.0 以上の場合は P_1 を抑止力とし、図中の C では P_2 を抑止力とした。図中の D は対策が必要になる。</p> <p>6 地区 19 ブロックで安定解析を実施した結果、最小安全率円弧が 1.0 を下まわる 5 地区 15 ブロックの不安定化が懸念された。このうち、横壁 a、c、d、f の 4 ブロックの下面すべりの安全率が 1.0 未満になり（図中 A）、P_1 と P_2 を比べて大きいほうを採用した。11 ブロックは、図中の B に該当したため、P_1 とした。</p> <p>また、要対策箇所 15 ブロックのうち、5 つの代表断面を選定し、最適対策工を検討することとした。</p>	 <pre> graph TD A[最小安全率円弧算出] --> B{Fs < 1.0} B -- No --> C[下底面すべりの安全率算出] B -- Yes --> D[最大抑止力円弧算出 P1] C --> E{Fs < 1.0} E -- No --> F[下底面すべりの抑止力 P2] E -- Yes --> G[下底面すべりの安全率算出] G --> H{Fs < 1.0} H -- No --> I[P1を抑止力とする B] H -- Yes --> J[P2を抑止力とする C] D --> K[下底面すべりの抑止力 P2] K --> L[P1とP2のうち大きいほうを抑止力とする A] L --> M[対策しない D] </pre> <p>図 安定解析のフロー</p>																				

未固結堆積物斜面の湛水斜面安定性検討結果一覧表

地 区	ブロック No.	測 線 赤字：主測線 黒字：副測線	地質と分布形状	未固結堆積物斜面の規模	保全対象			安定計算結果								モデル断面	
					円弧すべり範囲における施設	保全対象延長 (m)	計画安全率	試行円弧すべり					下底面すべり				
			地質 ok : 応柔岩屑流堆積物 dt : 崖錐堆積物	上端標高 (標高m)				c'・φ' ok: c'=0kN/m ² , φ'=35° dt: c'=0kN/m ² , φ'=30°					c'・φ' ok: c'=0kN/m ² , φ'=35° dt: c'=0kN/m ² , φ'=30°				
川原畠①	a	003-3'	ok	603	その他の貯水池周辺斜面	320	1.05	0.967	1.016	73.4	9.6	下降時	555.2	1.221	-	下降時	555.2 ○
	b	004-4'	ok	594		160	1.05	0.687	0.860	1,521.1	24.1	下降時	555.2	2.188	-	下降時	555.2
川原畠②	a	006-6'	ok	603	その他の貯水池周辺斜面	230	1.05	0.716	0.730	750.6	13.6	下降時	555.2	2.626	-	下降時	555.2
	b	008-8'	ok	600		410	1.05	0.674	0.912	777.6	20.2	下降時	555.2	2.876	-	下降時	555.2
		009-9'	ok	600				0.724	0.851	1,600.4	21.1	下降時	555.2	1.627	-	下降時	555.2 ○
		010-10'	ok	600				0.691	0.926	743.4	22.3	下降時	555.2	1.562	-	下降時	555.2
		011-11'	ok	588				0.815	0.915	555.6	15.7	下降時	555.2	1.615	-	下降時	555.2
	c	L16-16'	ok	618		-	-	1.183	-	-	-	下降時	575.0	1.525	-	下降時	565.0
	d	013-13'	ok	580		120	1.05	0.727	0.866	131.9	5.1	下降時	555.2	1.634	-	下降時	560.0
林	a	014-14'	ok	636	その他の貯水池周辺斜面	480	1.05	0.745	0.872	496.7	8.5	下降時	565.0	5.078	-	上昇時	583.0 ○
	b	015-15'	ok	636		420	1.05	0.798	0.878	1,418.2	17.6	下降時	570.0	3.109	-	上昇時	583.0
		016-16'	ok	628				0.926	0.948	596.6	16.6	下降時	575.0	1.818	-	下降時	580.0
中棚	a	017-17'	ok	603	-	-	-	1.013	-	-	-	-	-	2.514	-	下降時	580.0
	b	018-18'	ok	656	-	-	-	1.091	-	-	-	-	-	2.038	-	上昇時	583.0
		019-19'	ok	640				1.031	-	-	-	-	-	1.894	-	上昇時	583.0
		020-20'	ok	633				1.013	-	-	-	-	-	1.622	-	上昇時	583.0
川原湯	a	0r1-1'	ok	567	-	-	-	1.030	-	-	-	-	-	1.477	-	下降時	555.2
	b	0r2-2'	ok	575	造成地(宅地) 付替JR 町道	440	1.20	0.664	0.765	2,010.7	20.8	下降時	555.2	1.159	-	下降時	555.2
		0r3-3'	ok	602				0.522	0.791	4,279.3	27.7	下降時	555.2	1.333	-	下降時	560.0
		0r4-4'	ok	620				0.667	0.722	7,457.8	34.7	下降時	555.2	1.417	-	下降時	555.2 ○
		0r5-5'	ok	622				0.670	0.679	6,036.3	28.3	下降時	555.2	2.995	-	下降時	565.0
横壁	a	Dr1-1'	dt	637	その他の貯水池周辺斜面	280	1.05	0.981	0.981	448.7	13.6	下降時	570.0	0.851	2,653.5	下降時	565.0
	b	Dr2-2'	dt	586		100		0.797	0.853	471.6	9.5	下降時	555.2	1.108	-	下降時	555.2
	c	Dr3-3'	dt	693		190		0.617	0.878	2,581.9	23.6	下降時	560.0	0.923	4,500.9	下降時	555.2 ○
	d	Dr4-4'	dt	669		150		0.747	0.887	1,975.2	19.9	下降時	560.0	0.961	2,244.7	下降時	555.2
	e	Dr5-5'	dt	640		100		0.892	0.917	1,203.0	16.8	下降時	555.2	1.001	-	下降時	555.2
	f	Dr6-6'	dt	649		70		0.807	0.886	1,584.8	16.5	下降時	555.2	0.935	2,242.1	下降時	555.2
	g	Dr7-7'	dt	609		200		0.646	0.726	697.8	8.4	下降時	555.2	1.006	-	下降時	555.2
								対策不要 安全率 Fs=1.00以上	対策工費算出 対象抑止力						対策工費算出 対象抑止力		
								要対策 安全率 Fs=1.00未満									

ハッ場ダム貯水池内未固結堆積物斜面

事 項	要 点	備 考																																														
6. 未固結堆積物斜面対策工の概略検討	<p>未固結堆積物斜面に対する対策工の比較検討においては、①押え盛土工、②アンカー工、③杭工を比較した。なお対策工法は他の工法を併用しない単一工法とした。</p> <p>① 押え盛土工 押え盛土工の設計条件を以下の表に示す。</p> <p style="text-align: center;">押え盛土工の設計条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>採用値</th> <th>根 拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>盛土材の単位体積重量</td> <td>$\gamma_t = 20 \text{ kN/m}^3$</td> <td>代替地の検討で用いられた値を採用</td> </tr> <tr> <td>盛土材の土質強度</td> <td>粘着力 $c = 10 \text{ kN/m}^2$ 内部摩擦角 $\phi = 35^\circ$</td> <td>"</td> </tr> <tr> <td>盛土前面の法面勾配</td> <td>1:n=1:2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>盛土内の残留率</td> <td>50%</td> <td>応桑岩屑流堆積物及び崖錐堆積物の残留率に準拠</td> </tr> </tbody> </table> <p>② アンカー工 アンカー工の設計条件を以下の表に示す。</p> <p style="text-align: center;">アンカー工の設計条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>採用値</th> <th>根 拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカーの極限周面摩擦抵抗</td> <td>$\tau = 1.0 \text{ N/mm}^2$</td> <td>「グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説書」における軟岩の最低値</td> </tr> <tr> <td>地盤の許容支持力</td> <td>$qa = 300 \text{ kN/m}^2$</td> <td>過年度の「勝沼」、「二社平」地区地すべり対策検討における適用値を採用。</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 杭工 杭工の設計条件を以下の表に示す。</p> <p style="text-align: center;">杭工の設計条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>採用値</th> <th>根 拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>杭の種類</td> <td>鋼管杭または深基礎杭</td> <td>下記杭の外径、段数により抑止できない場合、深基礎杭を検討する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">杭の最大規模</td> <td>外径</td> <td>$\phi = 1,200 \text{ mm}$ 施工性を考慮し、外径の最大値を $\phi = 1,200 \text{ mm}$ とする。</td> </tr> <tr> <td>肉厚</td> <td>$t = 57 \text{ mm}$ 上記外径の杭 (SM570相当) に該当する製造可能範囲</td> </tr> <tr> <td>最大段数</td> <td>2段千鳥配置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>横方向地盤反力係数</td> <td>k_h 値</td> <td>N値から算出するものとする。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">平均N値</td> <td>0k層、Dt層</td> <td>N=15 H19業務*における検討結果</td> </tr> <tr> <td>基盤岩</td> <td>N=50 H19業務*における検討結果</td> </tr> </tbody> </table>	項目	採用値	根 拠	盛土材の単位体積重量	$\gamma_t = 20 \text{ kN/m}^3$	代替地の検討で用いられた値を採用	盛土材の土質強度	粘着力 $c = 10 \text{ kN/m}^2$ 内部摩擦角 $\phi = 35^\circ$	"	盛土前面の法面勾配	1:n=1:2.0		盛土内の残留率	50%	応桑岩屑流堆積物及び崖錐堆積物の残留率に準拠	項目	採用値	根 拠	アンカーの極限周面摩擦抵抗	$\tau = 1.0 \text{ N/mm}^2$	「グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説書」における軟岩の最低値	地盤の許容支持力	$qa = 300 \text{ kN/m}^2$	過年度の「勝沼」、「二社平」地区地すべり対策検討における適用値を採用。	項目	採用値	根 拠	杭の種類	鋼管杭または深基礎杭	下記杭の外径、段数により抑止できない場合、深基礎杭を検討する。	杭の最大規模	外径	$\phi = 1,200 \text{ mm}$ 施工性を考慮し、外径の最大値を $\phi = 1,200 \text{ mm}$ とする。	肉厚	$t = 57 \text{ mm}$ 上記外径の杭 (SM570相当) に該当する製造可能範囲	最大段数	2段千鳥配置		横方向地盤反力係数	k_h 値	N値から算出するものとする。	平均N値	0k層、Dt層	N=15 H19業務*における検討結果	基盤岩	N=50 H19業務*における検討結果	 <ul style="list-style-type: none"> 押え盛土工は最大抑止力円弧と最小安全率円弧の計画安全率を満たす形状とする。 天端幅は締め固めの施工性を考慮して4m以上とする。  <ul style="list-style-type: none"> アンカー工は最大抑止力円弧と最小安全率円弧の計画安全率を満たす配置とする。 アンカー工は定着を未固結堆積物下位の基盤岩中に得る。
項目	採用値	根 拠																																														
盛土材の単位体積重量	$\gamma_t = 20 \text{ kN/m}^3$	代替地の検討で用いられた値を採用																																														
盛土材の土質強度	粘着力 $c = 10 \text{ kN/m}^2$ 内部摩擦角 $\phi = 35^\circ$	"																																														
盛土前面の法面勾配	1:n=1:2.0																																															
盛土内の残留率	50%	応桑岩屑流堆積物及び崖錐堆積物の残留率に準拠																																														
項目	採用値	根 拠																																														
アンカーの極限周面摩擦抵抗	$\tau = 1.0 \text{ N/mm}^2$	「グラウンドアンカー設計・施工基準、同解説書」における軟岩の最低値																																														
地盤の許容支持力	$qa = 300 \text{ kN/m}^2$	過年度の「勝沼」、「二社平」地区地すべり対策検討における適用値を採用。																																														
項目	採用値	根 拠																																														
杭の種類	鋼管杭または深基礎杭	下記杭の外径、段数により抑止できない場合、深基礎杭を検討する。																																														
杭の最大規模	外径	$\phi = 1,200 \text{ mm}$ 施工性を考慮し、外径の最大値を $\phi = 1,200 \text{ mm}$ とする。																																														
	肉厚	$t = 57 \text{ mm}$ 上記外径の杭 (SM570相当) に該当する製造可能範囲																																														
最大段数	2段千鳥配置																																															
横方向地盤反力係数	k_h 値	N値から算出するものとする。																																														
平均N値	0k層、Dt層	N=15 H19業務*における検討結果																																														
	基盤岩	N=50 H19業務*における検討結果																																														

*H19 ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務

ハッ場ダム貯水池内未固結堆積物斜面

事 項	要 点					備 考
	各地区を代表する断面で対策工法の規模を検討した。代表断面とは、その地区的斜面の特徴を簡潔に示し、最小安全率が1.0未満である断面の中から、対策規模が大きくなると推定される保全対象延長が長いものとした。ただし、白岩沢下流については斜面が細かく区切られ、保全対象延長よりも抑止力のほうが対策規模を大きくすると推定されたことから、Dr3測線とした。結果は現在の条件下では下表のとおりとなる。					
表 未固結堆積物斜面对策検討結果一覧表						
地区	ブロック	測線	湛水時 安全率 F_s	選定案	摘要	選定工法
川原畑①	a	003-3'	0.967	第1案 押え盛土	すべり末端標高が河床標高より高いが、土工で効率よく対策可能。	押え盛土
				第2案 アンカー	抑止規模が一般的な地すべりと比較して小さく、すべり末端標高が河床から高いが、移動土塊を直接抑止できる。土工に比べ、構造物の費用がかさむ。	
				第3案 鋼管杭	抑止規模が一般的な地すべりと比較して小さく、すべり末端標高が河床から高いが、移動土塊を直接抑止できる。杭の谷側斜面の保全が必要。	
川原畑②	b	009-9'	0.724	第1案 押え盛土	末端標高と河道標高がほぼ同じなので、効率よくすべりを抑制できる。	押え盛土
				第2案 アンカー	抑止規模が一般的な地すべりと比較して大きく、アンカーが大規模になると推定される。土工と比較して、構造物（アンカー）部分の費用がかさむ。	
				第3案 鋼管杭	抑止規模が一般的な地すべりと比較して大きく、大規模な鋼管杭になると推定される。土工と比較して、構造物（鋼管杭）部分の費用がかさむ。	
林	a	0014-14'	0.745	第1案 押え盛土	末端標高と河道標高がほぼ同じなので、効率よくすべりを抑制できる。	押え盛土
				第2案 アンカー	抑止規模が一般的な地すべりと比較して小さく、すべり末端標高が河床から高いことから、移動土塊を直接抑止できるが、土工と比較して、構造物（アンカー）部分の費用がかさむ。	
				第3案 鋼管杭	抑止規模が一般的な地すべりと比較して小さく、すべり末端標高が河床から高いことから、移動土塊を直接抑止でき、押え盛土よりも力学的に効率が良いといえるが、杭の谷側斜面の保全が必要。	
川原湯	b	0r4-4'	0.667	第1案 押え盛土	すべり末端標高が河床標高より高いため、押え盛土の土台部分が多くなり、効率的な盛土とはいえない。ただし、抑止力が極めて大きいため、土工での対策が一般的といえる。	押え盛土
				第2案 アンカー	抑止規模が一般的な地すべりと比較して大きく、アンカーが大規模になると推定される。土工と比較して、構造物（アンカー）部分の費用がかさむ。	
横 壁	c	Dr3-3'	0.617	第1案 押え盛土	すべり末端標高が河床標高より高いため、押え盛土の土台部分が多くなり、効率的な盛土とはいえない。ただし、抑止力が極めて大きいため、土工での対策が一般的といえる。	押え盛土
				第2案 アンカー	抑止規模が一般的な地すべりと比較して大きく、アンカーが大規模になると推定される。土工と比較して、構造物（アンカー）部分の費用がかさむ。	
				第3案 鋼管杭	抑止規模が一般的な地すべりと比較して大きく、大規模な鋼管杭になると推定される。土工と比較して、構造物（鋼管杭）部分の費用がかさむ。	

八ヶ場ダム貯水池内未固結堆積物斜面

事 項	要 点							備 考
	また、対策規模は下表のとおりである。							
表 未固結堆積物斜面对策規模一覧表								
地区	ブロック	測線	計画 安全率 $P_{.Fs}$	湛水時		選定対策工	対策工概算数量	
				安全率 F_s	抑止力 (kN/m)			
川原畑①	a	003-3'	1.05	0.967	73.4	押え盛土	押え盛土工 $V= 28,000m^3$ 、リップラップ工 $A= 6,400m^2$	
川原畑②	b	009-9'	1.05	0.724	1,600.4	押え盛土	押え盛土工 $V= 130,000m^3$ 、リップラップ工 $A= 31,000m^2$	
林	a	0014-14'	1.05	0.745	496.7	押え盛土	押え盛土工 $V= 52,000m^3$ 、リップラップ工 $A= 13,000m^2$	
川原湯	b	0r4-4'	1.20	0.667	7,457.8	押え盛土	押え盛土工 $V= 750,000m^3$ 、リップラップ工 $A= 40,000m^2$	
横 壁	c	Dr3-3'	1.05	0.617	4,500.9	押え盛土	押え盛土工 $V= 240,000m^3$ 、リップラップ工 $A= 22,000m^2$	

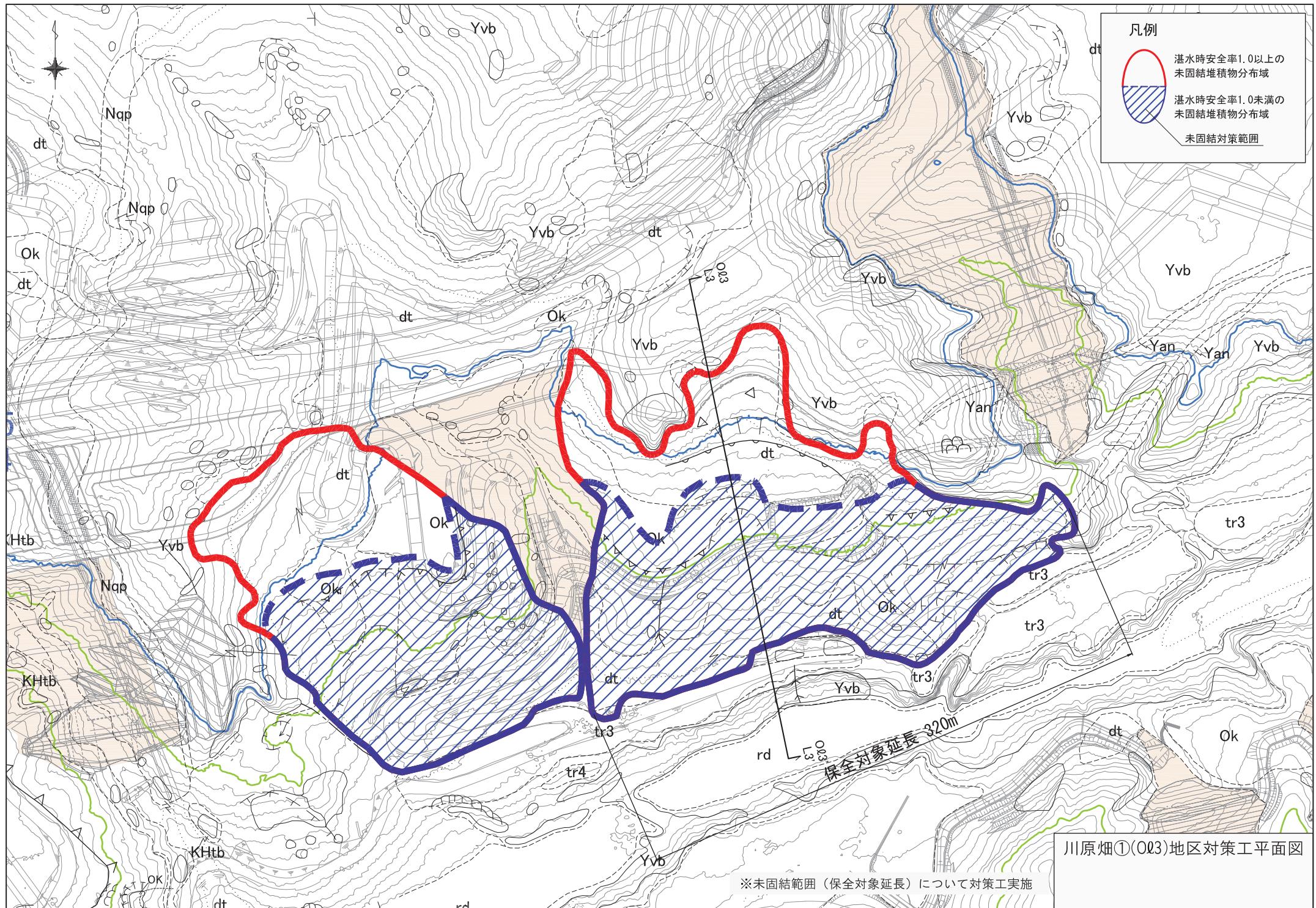
今回の検討では、各地区における代表断面を設定し、概算対策規模を5断面で推定した。

対策工の選定にあたっては比較検討を行い、対策規模、施工性等を考慮して、総合的に判断し「押え盛土工」を採用することとした。

未固結堆積物斜面で発生する安全率が1.0未満になる円弧すべりは、いずれも土工で対策できる範囲であった。このため、抑止力と対策規模は比例すると考えられ、代表断面以外の10ブロックの対策規模は、各地区の代表断面における抑止力と対策規模の関係から推定することが可能であると考えられる。

なお、未固結堆積物斜面の検討においては、現時点では充分な調査が実施されていないため、設計上安全側になるように地すべり等の範囲等を最大限の範囲で推定し、対策を検討している。

- ・レーザーブロファイラ測量図と現地踏査により、平面形状は考えられる最大限とした
- ・未固結堆積物の堆積厚さは、断面形状から考えられる最大限の深さに設定した
- ・最小安全率円弧、最大抑止力円弧、下底面すべりより、現時点で考えられる最大抑止力を推定した
- ・地下水位観測がされていないため、移動土塊内に地下水位がなく、残留間隙水圧の影響が大きくなるように設定した



川原畠①(0ℓ3) 地区
対策工断面図
盛土工

表 概算工事数量

工種・種別・規格	数量
盛土工	880 m ³
リップラップ工	200 m ²

0ℓ3

EL. (m)

650

0ℓ3'

EL. (m)

650

最大抑止力円弧

Yvb

dt

押え盛土

11000

EL=555.0m

リップラップ工

ok

ls
1:2.0

tr2

tr3

Yvb

rd

常時満水位 EL583.0m

制限水位 EL555.2m

600

600

550

550

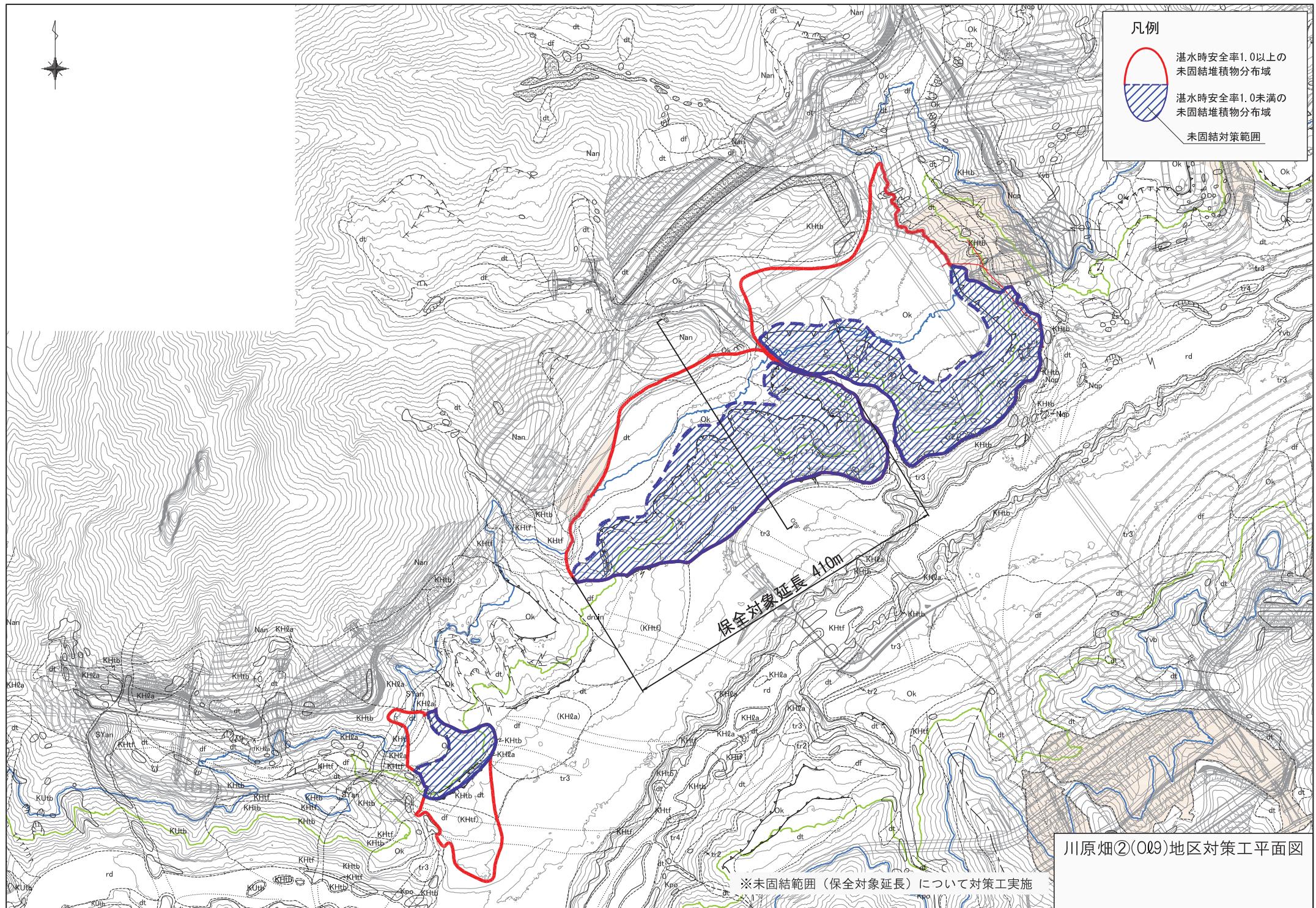
500

500

450

450

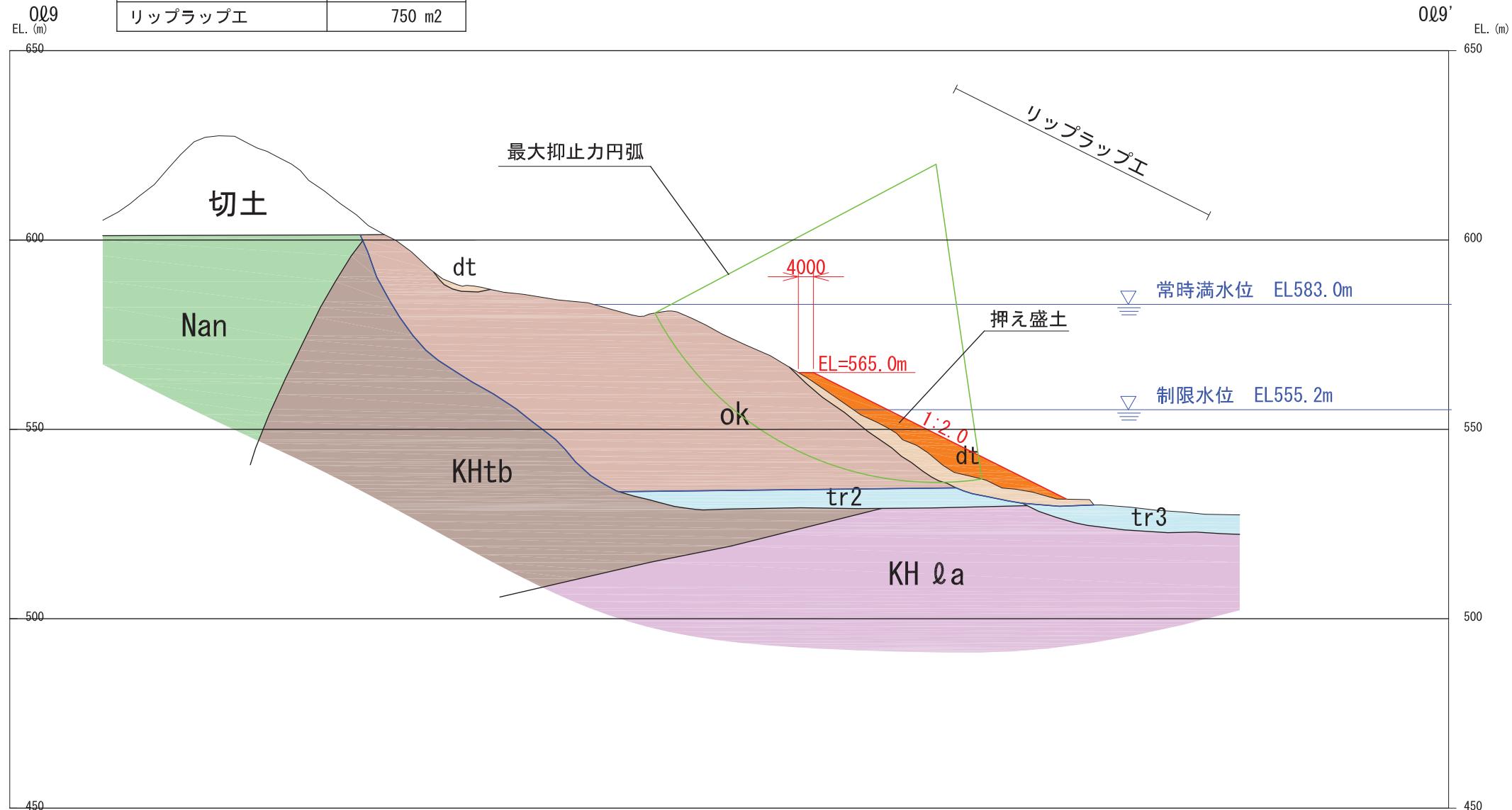
0 A3 S=1:1,000 50m



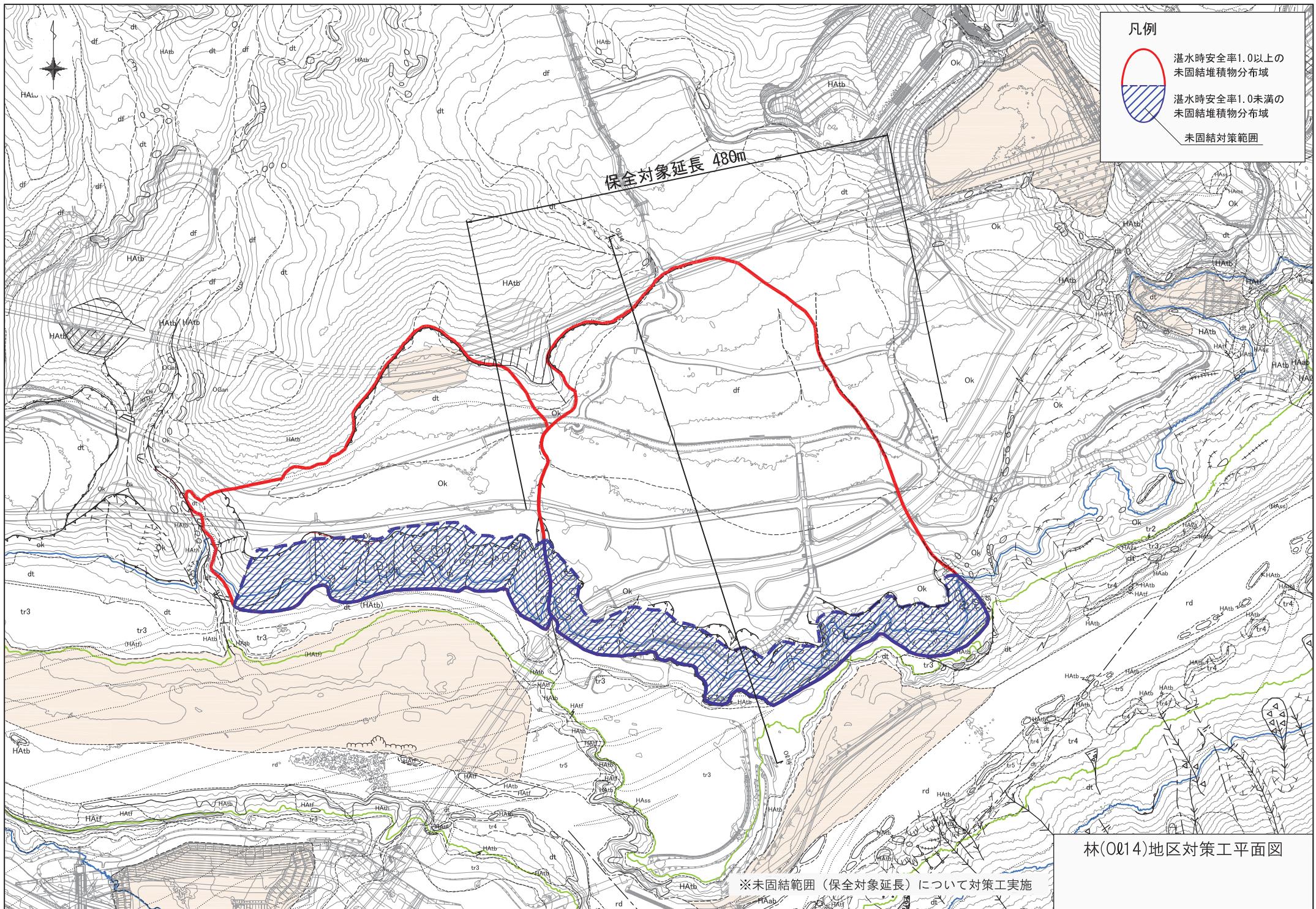
川原畠②(009)地区
対策工断面図
盛土工

表 概算工事数量

工種・種別・規格	数量
盛土工	3,210 m ³
リップラップ工	750 m ²



0 A3 S=1:1,000 50m



林(0014)地区
対策工断面図
盛土工

表 概算工事数量

工種・種別・規格	数量
盛土工	1,080 m ³
リップラップ工	275 m ²

0014

EL. (m)

700

650

600

550

500

0014'

EL. (m)

700

650

600

550

500

最大抑止力円弧

7000
EL=570.0m
1:2.0

リップラップ工

△常時満水位 EL583.0m

△制限水位 EL555.2m

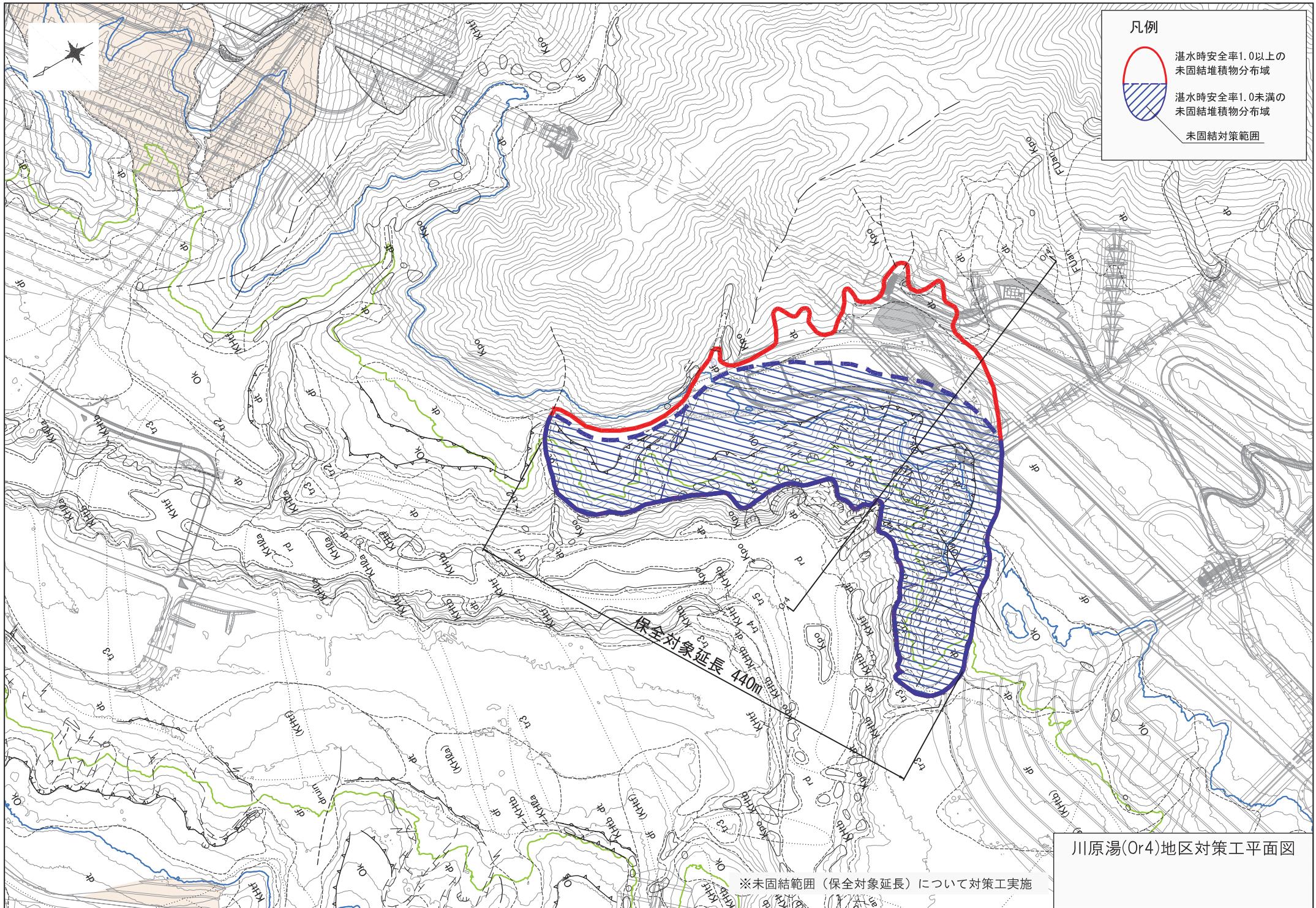
HAtb

dt

HAtf

HAtb

0 A3 S=1:1,000 50m



川原湯(0r4)地区
対策工断面図
盛土工

表 概算工事数量

工種・種別・規格	数量
盛土工	28,230 m ³
リップラップ工	1,530 m ²

0r4

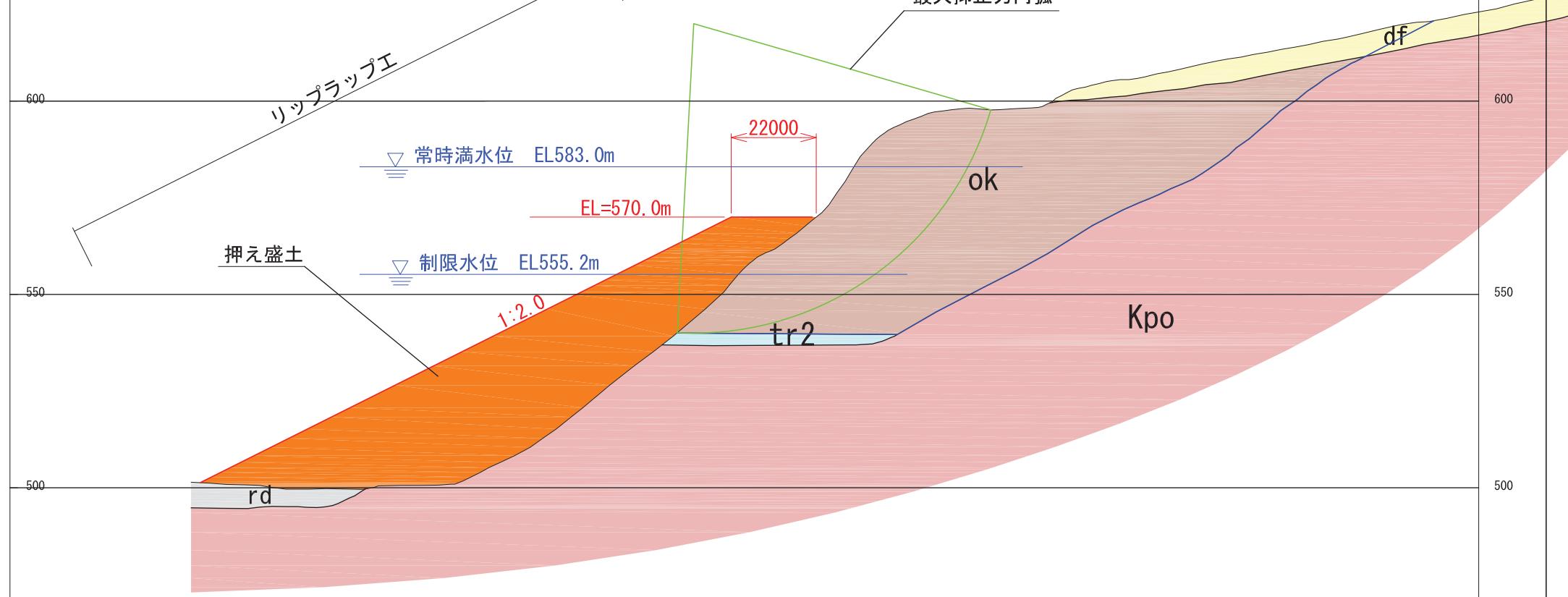
EL. (m)

650

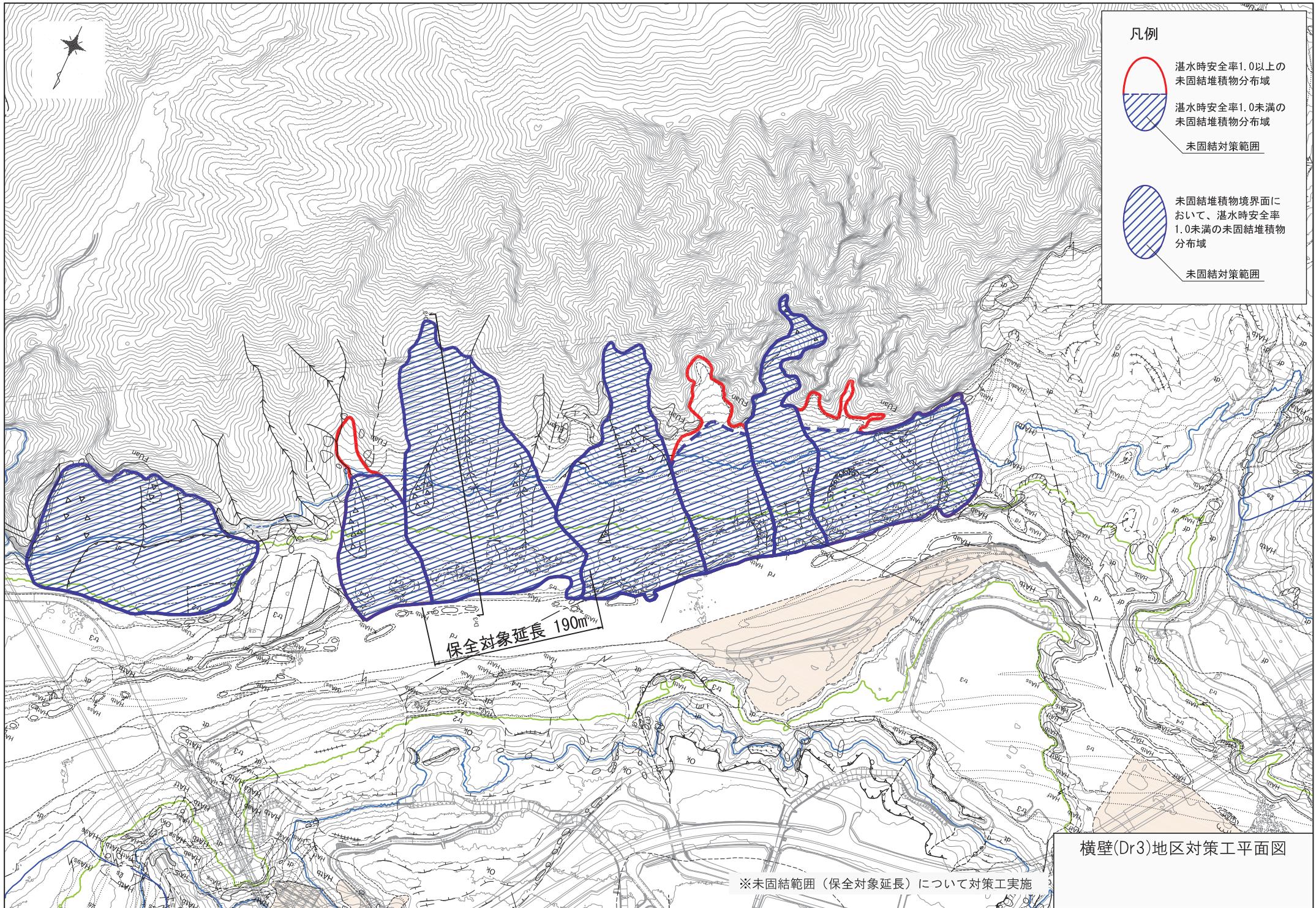
0r4'

EL. (m)

650



0 A3 S=1:1,000 50m



横壁 (Dr3) 地区
対策工断面図
盛土工

表 概算工事数量

工種・種別・規格	数量
盛土工	12,630 m ³
リップラップ工	1,140 m ²

Dr3

EL. (m)

700

Dr3'

EL. (m)

700

650

600

550

500

650

600

550

500

リップラップ工

▽ 常時満水位 EL583.0m

押え盛土

▽ 制限水位 EL555.2m

EL=570.0m

31000

tr4

rd

1:2.0

dt

HAtb

dt

下底面すべり

FUan

0

A3 S=1:1,000

50m